

相山女学園大学外国語学部
設置の趣旨等を記載した書類(本文)
目 次

①設置の趣旨及び必要性	p. 2
②学部・学科等の特色	p. 7
③学部・学科等の名称及び学位の名称	p. 9
④教育課程の編成の考え方及び特色	p. 9
⑤教育方法，履修指導方法及び卒業要件	p. 12
⑥多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる 場合の具体的計画	p. 16
⑦編入学定員を設定する場合の具体的計画	p. 17
⑧実習の具体的計画	p. 18
⑨企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を 実施する場合の具体的計画	p. 20
⑩取得可能な資格	p. 22
⑪入学者選抜の概要	p. 23
⑫教員組織の編成の考え方及び特色	p. 28
⑬研究の実施についての考え方、体制、取組	p. 30
⑭施設，設備等の整備計画	p. 30
⑮管理運営及び事務組織	p. 34
⑯自己点検・評価	p. 35
⑰情報の公表	p. 36
⑱教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	p. 39
⑲社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	p. 40

① 設置の趣旨及び必要性

①-1 外国語学部の設置の趣旨及び必要性

1930年に設立された椋山女子専門学校（旧制）を前身とする椋山女学園大学は、1949年、新制大学として誕生し、教育理念「人間になろう」のもと、「教育を通じて、世界中の人々が人間性を回復し豊かさを享受できるよう、人間性を尊重しヒューマンイズムの精神を創造できる人間を育成」（学園ホームページ「教育理念」より）する人間教育のため、教育・研究の不断の改革・拡充をはかってきた。とりわけ、「世界中の人々が人間性を回復し豊かさを享受する」ために貢献できる人材養成については、「椋山女学園大学の国際化ビジョン（2022年～2026年）」が策定され、「本学学生のグローバル・マインドの育成」「大学所在地域の地方自治体・企業・地域住民等の連携によるグローバル化への貢献」等7つの項目について、大学全体で取り組んでいる。

本学における「世界中の人々が人間性を回復し豊かさを享受する」ための人材養成の取り組みは、大学教育をとりまく昨今の状況の変化と呼応している。『経済財政運営と改革の基本方針2018』（抜粋（2018年6月15日閣議決定））には、「積極的平和主義の旗の下、持続可能な開発目標（SDGsの実現に向け、貧困対策や保健衛生、教育、環境・気候変動対策、女性のエンパワーメント、法の支配など、人間の安全保障に関わるあらゆる課題の解決に、日本の「SDGsモデル」を示しつつ、国際社会での強いリーダーシップを発揮」が基本方針とされ、国際社会における平和構築と課題解決が重視されている。また、同年12月、一般社団法人日本経済団体連合から発表された「今後の教育に関する提案」では、学生に求める知識・能力・経験として、リベラルアーツ、語学力（英語力）、情報リテラシー、創造性、行動力、論理的思考能力、コミュニケーション能力、協調性、地球規模の課題や世界情勢への関心、学外活動・社会活動の経験が挙げられている。これらの知識・能力・経験は、課題山積の国際社会を生きていく学生に求められる資質である。

以上のような現状認識のもと、外国語学部は、教育理念「人間になろう」の「世界中の人々が人間性を回復し豊かさを享受する」ための人間教育を基礎として、上述の社会的要請・必要性に応えるべく、構想された。前身である国際コミュニケーション学部が培った国際性、異文化理解という側面を引き継ぎながらも、外国語学部は、国際社会が共有する課題解決、価値創造に資する人材養成という研究・教育目的を明確化する。英語英米学科は、前身の国際言語コミュニケーション学科が重視してきた英語及び他の外国語教育をさらに発展させるとともに、新たに英語圏の諸社会の在り方を再検討する視点を導入し、覇権国の世界秩序の形成と現状がどのような役割を果たした／果たしているのかを理解し、英語圏の多元性に焦点をあてる。国際教養学科は、前身の表現文化学科の「世界の中の日本」という視座を引き継ぎながら、さまざまな分野で日本へ多大な影響を与えてきたヨーロッパ、アジアの地域研究を新たに導入し、世界／ヨーロッパあるいはアジア／日本、それぞれの相互関係の洞察を重視する。そして、両学科いずれにおいても、地球市民であること（グローバル・シチズンシップ）を前提に人間の歴史をグローバルにとらえ、複数の言語（日本語を含む3言語）と複眼的視座によって、環境破壊、人権問題、宗教対立、紛争、高齢化、ジェンダーギャップなど、地球規模の課題について、優れた対話力と高い倫理観によって国際社会と地域社会へ貢献できる人材養成を目的とする。

①-2 養成すべき人材の方針

外国語学部の養成すべき人材の方針を次のとおりとする。

A. 外国語学部

外国語学部は、複数の外国語習得による複眼的視点を身につけ、専門とする言語圏並びにグローバル社会について深く多面的に理解し、地球規模の課題に取り組む能力を有する人材を養成する。

B. 英語英米学科

英語英米学科は、世界共通語としての英語の実践的運用力を身につけ、英語圏の文化や社会について深い知識を有し、「英語を用いて」仕事ができる人材、英語を活かした文化の交流や創造に寄与し、地球規模の課題に取り組むことのできる人材を養成する。

C. 国際教養学科

国際教養学科は、英語に加えてフランス語、ドイツ語、中国語など各国語の実践的運用力を身につけ、ヨーロッパ、あるいは日本を含むアジアの地域と文化を多面的、重層的に理解し、グローバルな課題に取り組む能力をもち、欧州あるいはアジアの視点から文化の交流や創造に寄与する人材を養成する。

①-3 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

外国語学部、英語英米学科及び国際教養学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を次のとおりとする。

A. 外国語学部

外国語学部は、外国語と人文学の教育研究を基礎に、人類社会の豊かな多元性と深い歴史性を洞察し、優れた対話力と高い倫理観によって国際社会と地域社会に貢献できる地球市民を育成することを目的とします。本学部は次のような能力を身に付けた人に学位を授与します。

1. 複数の外国語を用いて、各地域とグローバル社会の多元性と歴史性を理解できる力
2. 知的な創造力をもって地球規模の課題を発見し、解決のために思考・判断できる力
3. 異なる文化や価値観を尊重しながら他者と協働し、問題解決と価値創造に取り組むことができる力
4. 外国語の実践的運用能力により、他者と対話する優れた発信力

B. 英語英米学科

英語英米学科は、国際共通語としての英語及び他の外国語の実践的運用力を身につけ、英語圏の社会と文化並びにグローバル社会の理念や現状について広範な知識を有し、グローバルな課題に取り組むとともに、新しい価値創造に寄与できる人間を育成することを目標とします。英語英米学科は次のような能力を身につけた人に学位を授与します。

1. 英語及び他の外国語を用いて英語圏とグローバル社会の多元性と歴史性を理解できる力
2. 知的な創造力をもって地球規模の課題を発見し、解決のために思考・判断できる力
3. 異なる文化や価値観を尊重しながら他者と協働し、問題解決と価値創造に取り組むことができる力
4. 英語及び他の外国語の実践的運用能力により、他者と対話する優れた発信力

C. 国際教養学科

国際教養学科は、英語に加えてフランス語、ドイツ語又は中国語の各外国語の実践的運用力を身につけ、ヨーロッパ、あるいは日本を含むアジアの各地域及びグローバル社会の理念や現状について広範な知識を有し、グローバルな課題に取り組むとともに、新しい価値創造に寄与できる人間を育成することを目標とします。国際教養学科は次のような能力を身につけた人に学位を授与します。

1. 複数の外国語を用いてヨーロッパとアジアの各地域およびグローバル社会の多元性と歴史性を理解する力
2. 知的な創造力をもって地球規模の課題を発見し、解決のために思考・判断できる力
3. 異なる文化や価値観を尊重しながら他者と協働し、問題解決と価値創造に取り組むことができる力
4. 英語に加え、フランス語、ドイツ語又は中国語の実践的運用能力により、他者と対話する優れた発信力

①-4 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

外国語学部、英語英米学科、及び、国際教養学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のとおりとする。

A. 外国語学部

外国語学部は、優れた対話力と高い倫理観によって国際社会と地域社会へ貢献できる地球市民の育成を学位授与の方針とし、この目的を学修の中で実質化するカリキュラムを編成します。

1. 学部共通基礎として、日本という枠組を相対化する地球規模での考え方を学び課題を発見する「学部基幹科目」、他者と対話し国際社会の問題を理解するための基礎を学び複言語的視座を獲得する「言語リテラシー科目」、対話と実践を重視する演習科目として「言語アカデミック実践演習科目」を設置します。
2. 学部共通専門として、グローバルな理念（倫理）・歴史・課題を学び各地域と地球社会の多元性を洞察する3つの専門科目群、言語リテラシー科目で身につけた言語運用能力を実践し多面的な国際社会において思考力や判断力を育成する「海外文化研修プログラム」を設置します。
3. 学部共通専門の「国際キャリア科目」として、将来の進路を見据えて外国語の学びと仕事に必要な実務遂行能力とを関連づける「国際キャリアデザイン」、他者と協働し、自発的な課題発見と課題解決の方法を実践的に学ぶ「社会関与プロジェクト」を設置します。

B. 英語英米学科

英語英米学科は、英語英米学科の学位授与方針を実現するために、次のような方針の下にカリキュラムを編成します。

1. 英語英米学科は2コース制を採用しており、1年次後期から「英語コミュニケーションコース」又は「英米文化コース」のいずれかのコースを選択します。「英語コミュニケーションコース」ではコミュニケーション学、言語学、外国語教育といった学問領域に焦点を当てる一方、「英米文化コース」では歴史学、文学、芸術、文化論といった学問領域に焦

点を当て教育を行います。

2. 英語英米学科の学科共通基礎として、学科内の2つのコースの専門性や、地域に応じた研究方法を学ぶ「学科基幹科目」、他者との対話を通して尊重関係を構築し、国際社会の問題を解決するために必要な情報発信能力の基礎となる外国語運用能力を育成する「外国語科目」を設置します。
3. 英語英米学科の学科共通専門として、英語圏の歴史とグローバル社会における英語圏の位置付けを学ぶ「英米エリアスタディーズ科目」、各コース内で地球社会という枠組みにおける英語圏の社会と文化の理解を深め、新しい文化や価値の創造に寄与する能力を育成する「英語コミュニケーション専門科目」と「英米文化専門科目」を設置します。
4. 対話と実践を重視する「英語英米演習科目」として、3年次に少人数で研究と教育を一体にして学ぶ「英語英米研究」、4年次に学びの集大成として卒業論文を作成する「卒業研究」を設置します。

C. 国際教養学科

国際教養学科は、国際教養学科の学位授与方針を実現するために、次のような方針の下にカリキュラムを編成します。

1. 国際教養学科は3コース制を採用しており、1年次後期から「ヨーロッパコース」「アジアコース」又は「国際日本コース」のいずれかのコースを選択します。「ヨーロッパコース」ではドイツ及びフランス、「アジアコース」では中国、「国際日本」では世界という視点からの日本について、その歴史、社会、言語、文学、思想といった領域において教育を行います。
2. 国際教養学科の学科共通基礎として、学科内の3つのコースの専門性や、地域に応じた研究方法を学ぶ「学科基幹科目」、異なる文化や価値観の担い手と対話し尊重関係を構築する上で必要な思考力の前提となる複言語的視座を習得するために、コースごとにフランス語、ドイツ語、中国語及び英語を学ぶ「外国語科目」を設置します。
3. 国際教養学科の学科共通専門として、西欧とアジア（日本を含む。）との関係を比較・交流・思想という点から学ぶ「国際教養専門科目」、専門とする言語に基づいた総合的判断力と思考力を活かし、他者と協働し国際社会に新しい価値を創出できる能力を育成する「ヨーロッパ専門科目」「アジア専門科目」「国際日本専門科目」を設置します。
4. 対話と実践を重視する「国際教養演習科目」として、3年次に少人数で研究と教育を一体にして学ぶ「国際教養研究」、4年次に学びの集大成として卒業論文を作成する「卒業研究」を設置します。

①-5 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

外国語学部、英語英米学科及び国際教養学科の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を次のとおりとする。

A. 外国語学部

外国語学部は、地球市民であること（グローバル・シチズンシップ）を前提に人間の歴史をグローバルにとらえ、複数の言語（日本語を含む3言語）と複眼的視座によって、環境破壊、人権問題、宗教対立、紛争、高齢化、ジェンダーギャップなど、地球規模の課題につい

て、優れた対話力と高い倫理観によって国際社会と地域社会へ貢献できる人間の育成を目的としています。したがって本学部では以上の目的を共有する学習意欲のある人を受け入れます。

B. 英語英米学科

英語英米学科は、国際共通語としての英語及び他の外国語の実践的運用力を基に、英語圏の地域と文化並びにグローバル社会の理念や現状について広範な知識を有し、英語を用いた総合的判断力と思考力を活かしてグローバルな課題に取り組むとともに、新しい文化や価値の創造に寄与する能力を育成することを教育目標としています。英語英米学科では、授業科目を履修する上で必要な基礎的な能力及び学習意欲を持ち、さらに次の能力関心を持った人を受け入れます。

<知識・技能>

- ・国際社会、国際情勢の諸問題について、基本的な知識を基に理解している人
- ・英語及び外国語に深い意欲と関心を持ち、高校卒業程度の英語の知識と運用能力を持つ人
- ・英語圏と世界の歴史・文化・社会について、高校卒業程度の知識を持つ人

<思考力・判断力・表現力>

- ・ことば一般と異文化に対する高い関心を有し、異なる背景を持った人々と対話するための論理的思考力を持つ人

<主体性・協働性>

- ・他者と協働し、自発的・主体的に問題を発見し、課題解決へ導き、新しい価値を創造することに関心がある人

C. 国際教養学科

国際教養学科は、英語に加えてフランス語、ドイツ語又は中国語の各外国語の実践的運用力を身につけ、ヨーロッパ、あるいは日本を含むアジアの各地域及びグローバル社会の理念や現状について広範な知識を有し、専門とする言語に基づいた総合的判断力と思考力を活かしてグローバルな課題に取り組むと共に新しい価値の創造に寄与する能力を育成することを教育目標としています。国際教養学科では、授業科目を履修する上で必要な基礎的な能力及び学習意欲を持ち、さらに次の能力関心を持った人を受け入れます。

<知識・技能>

- ・国際社会、国際情勢の諸問題について、基本的な知識を基に理解している人
- ・外国語に深い意欲と関心を持ち、高校卒業程度の英語（あるいはフランス語、ドイツ語又は中国語）の知識と運用能力を持つ人
- ・ヨーロッパ、日本を含むアジアと世界の歴史・文化・社会について、高校卒業程度の知識を持つ人

<思考力・判断力・表現力>

- ・ことば一般と異文化に対する高い関心を有し、異なる背景を持った人々と対話するための論理的思考力を持つ人

<主体性・協働性>

- ・他者と協働し、自発的・主体的に問題を発見し、課題解決へ導き、新しい価値を創造することに関心がある人

①-6 3つのポリシーの相関関係

外国語学部の2つの学科、英語英米学科、国際教養学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）及び入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）は、「外国語学部3つのポリシー相関図」（資料1）のとおり相関関係にある。両学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）における4つの能力は、本学部の学修に合わせて、1. 知識・理解：各地域とグローバル社会の理解、2. 思考・判断：課題の発見・思考、3. 態度・志向性：対話・尊重・協働、4. 技能・表現：発信・価値創造、としてキーワードを抽出している（詳細は「外国語学部ディプロマ・ポリシーにおける4つの能力」（資料2））。上記のキーワードを中心に編成される教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に対応している。

①-7 組織として研究対象とする中心的な学問分野

外国語学部では、①-1で述べたような設置の趣旨をふまえ、複数の外国語習得による複眼的視点を身につけ、専門とする言語圏ならびにグローバル社会について深く多面的に理解し、地球規模の課題に取り組む能力を有する人材を養成するために、外国語教育、歴史学、地域研究、文化研究、文学、国際関係論を中心的な研究対象とする。

② 学部・学科等の特色

外国語学部は、2008年12月の中央教育審議会の答申「学士課程の教育の構築に向けて」に明記される21世紀型市民に求められる教養教育をふまえ、地球市民（グローバル・シチズンシップ）の育成を研究・教育の最重要項目とし、グローバル社会の諸問題を解決し、新たな価値を創造する力をもつ人材育成を目的としている。

また、2018年11月の中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」では、2040年ごろのグローバル社会の変化は「社会・経済・科学技術等の在り方が地球規模で連動する、広範で構造的な変容がグローバル化であり、人の国際的な移動が爆発的に拡大し」、「各国においては独自の社会の在り方、文化の在り方などの価値に着目するローカル化の動きも活発化することも想定される」と述べられ、こうした変化に応じて「柔軟性と多様性」のある教育プログラムが重要であり、特に「多様な価値観が集まるキャンパス」創出のためには、「留学生交流の推進」「高等教育機関の国際展開」「多様な教員」の必要性等が示されている。外国語学部の研究・教育は、高等教育における以上のような課題をふまえ、「柔軟性と多様性」を備えた特色がある。なお、以下に挙げる特色は、英語英米学科、国際教養学科に共通する外国語学部の包括的な特色である。

ア 複数の外国語教育

少人数クラス編成によるきめ細かい外国語教育により、3言語（2外国語および日本語）の自在な運用能力を備える人材養成を目指す。この教育プログラムは、EUの言語政策の指針「CEFR」（Common European Framework of Reference for Languages：ヨーロッパ共通参照枠）が標榜する複言語主義（plurilingualism）・複文化主義（pluriculturalism）に基づいている。外国語学部は、個人の中に複数の言語や文化が存在し、言語同士が相互の関係を築き、また相互に作用しあうと考える立場を指す「複言語主義」「複文化主義」に基づき、言語文化の多様性と相互理

解の促進を外国語教育プログラムの基礎に用いている。

イ 多様な留学制度

外国語学部は、原則として学生は在学中に全員留学を経験することを念頭に置き、「留学生交流の推進」を図る。具体的には、学部独自の教育プログラム「海外文化研修プログラムA」「海外文化研修プログラムB」「海外文化研修プログラムC」を設定し、英語圏、フランス語圏、ドイツ語圏、中国語圏の17大学・教育機関（⑨-2で後述）と提携しており、多様な価値観や異文化を体験しながら外国語運用能力を飛躍的に伸ばすことを目的としている。その他にも、相山女学園大学国際交流センターが推進する全学の派遣交換留学制度の利用も可能であり、改組前の国際コミュニケーション学部での実績からも、この派遣交換留学生には、常に外国語学部生が選抜されることを目指している。また、今後は、提携先の大学からの受入交換留学生や国内の外国人を受け入れる準備を進める予定であり、「多様な価値観が集まるキャンパス」創出を目指している。

ウ 「国際キャリアデザイン」

「広範で構造的な変容」を伴うグローバル社会において、学生が自身のキャリアをデザインするための教育プログラムを外国語学部の学部共通専門として備えている。具体的には、海外で仕事をするためのキャリア実践授業、企業のDE&I担当者を講師とするダイバーシティ・トレーニングの授業、航空会社の講師によるエアライン実践演習、フランスでの職業体験プログラム、カナダで小学校英語講師の資格取得を目的とする授業などがある。

エ 「社会関与プロジェクト」

学部共通専門である「社会関与プロジェクト」は、少人数の授業編成であり、地域連携・企業連携によるプロジェクト型・課題解決型授業である。地域の企業連携、文化発信企画、プロジェクト・デザインなどをテーマとする各授業において、課題を学生が自発的・主体的に発見し、他の学生やプロジェクトに携わる社会人と協働し、課題解決に向けて提案を思考し、発信することで課題解決力、価値創造力を養う。伝統的な講義や演習の枠組みを超える本教育プログラムは、「柔軟性」を担保する教育の特色を示している。

オ 多様な教員

外国語学部の専任教員・非常勤講師は、国籍、履歴、業績のいずれにおいても多様である。専任教員26名のうち外国籍の教員は7名であり、外国の大学の学位取得者は、博士号4名、修士号10名である。特命教授1名は海外の大学から招聘し、客員教授は経験豊富な国際ジャーナリストである。また、非常勤講師としては、外国籍の講師が多数在籍する一方で、現在も企業で本務に従事しながら授業を担当する講師もいる。したがって、専任・非常勤ともにさまざまな観点から教育を行うことを可能にする「多様な教員」が揃っているとと言える。

上記の学部の特色ア～オに加え、英語英米学科では、「広範で構造的な」グローバル社会の変化において「各国においては独自の社会の在り方、文化の在り方などの価値に着目するローカル化の動きも活発化することも想定される」ことを念頭に、覇権国の世界秩序の形成と現状がどのような役割を果たした／果たしているのかを理解し、英語圏の多元性の探求による世界との対話力の涵養を学科の特色としている。

国際教養学科においても、上記の学部の特色ア～オに加え、英語英米学科と同様に、今後「人の移動が爆発的に拡大」するグローバル社会で「各国においては独自の社会の在り方、文化の在り方な

どの価値に着目するローカル化の動きも活発化することも想定される」ことを念頭に、さまざまな分野で日本へ多大な影響を与えてきたヨーロッパ、アジアの地域研究を導入し、世界／ヨーロッパあるいはアジア／日本、それぞれの相互関係の洞察をもとに国際社会における行動力を養うことを学科の特色とする。

③ 学部・学科等の名称及び学位の名称

外国語学部は、複数の言語習得、複数の視点獲得による地球市民の育成を研究・教育の目的とし、学部の英語名称を【School of Foreign Studies】とする。

英語英米学科は、英語及び他の外国語の実践的運用力と英語圏の多元性と歴史性への理解、グローバル社会の課題解決と価値創造に寄与する人材養成を目的としており、学科の英語名称は【Department of English Studies】とする。

また、国際教養学科は、ヨーロッパ、あるいは日本を含むアジアの各地域及びグローバル社会の歴史と現状への理解と知識 国際社会で共有される課題に対して行動できる人材養成を目的とし、英語名を【Department of Global Liberal Studies】とする。

学位は、それぞれ、学士（英語英米）【Bachelor of Arts in English Studies】、学士（国際教養）【Bachelor of Arts in Global Liberal Studies】とする。

ア 学部・学科の名称

- ・外国語学部 【School of Foreign Studies】
- ・英語英米学科 【Department of English Studies】
- ・国際教養学科 【Department of Global Liberal Studies】

イ 学位の名称

- ・英語英米学科 学士（英語英米）【Bachelor of Arts in English Studies】
- ・国際教養学科 学士（国際教養）【Bachelor of Arts in Global Liberal Studies】

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

外国語学部の教育課程の編成の考え方及び特色は、次のとおりである。本学部では、①-3で示した学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）において「外国語と人文学の教育研究を基礎に、国際社会と地域社会に貢献できる地球市民を育成」を目的とし、その能力を涵養するための教育課程を編成している。「外国語学部3つのポリシー関連図」（資料1）においてその関係が示されるように、①-4で示した本学部英語英米学科、及び国際教養学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、「国際社会と地域社会へ貢献できる地球市民の育成を学位授与の方針とし、この目的を学修の中で実質化する」ものである。このような教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、「外国語学部ディプロマ・ポリシーにおける4つの能力」（資料2）に示したキーワード1.知識・理解：各地域とグローバル社会の理解、2.思考・判断：課題の発見・思考、3.態度・志向性：対話・尊重・協働、4.技能・表現：発信・価値創造を中心に体系的な教育課程を編成し、科目区分を設定している。

④-1 教育課程の編成の体系性について

①-4で示した教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、外国語学部では、英語英米学科、国際教養学科に共通する学修を、学部共通基礎と学部共通専門の2段階によって構成する。また、学部共通の上に、それぞれの学科の学科共通基礎と学部共通専門の2段階を積み上げる形で構成し、両学科ともに、基礎から応用へと4段階で学びを進展させ、体系的に教育課程を編成している（資料3「椙山女学園大学学則 別表」）。

ア 外国語学部

学部共通基礎には、基幹科目「地球市民論」と外国語関連科目が配置され、世界の多元性と歴史性を洞察し地球規模の課題を発見するための外国語学部の教育課程全体の基底となっている。またここでは1、2年次を通して、複数の外国語を徹底して習得し複眼的視座獲得するための言語リテラシー科目が設定され、3年次には、こうした能力をさらに高め、対話と実践を重視する少人数の演習科目として「言語アカデミック実践演習科目」が用意されている。

学部共通専門では、英語英米学科、国際教養学科、それぞれの専門性へつながる基礎的な学びとして、グローバルな理念（倫理）・歴史・現況の課題を学び各地域と地球社会の多元性を洞察する3つの専門科目群を1、2年次に置いている。また、4年間を通してインプットとアウトプットの循環の中で実践力を高めるために「海外文化研修プログラム」を設置し、言語リテラシー科目で身につけた言語運用能力を実践し、多元的な国際社会において思考力や判断力を高める。さらに、将来の進路を見据えて外国語の学びと実務遂行能力とを関連づける科目として「国際キャリアデザインA～G」、他者と協働し、自発的に課題を発見、課題を解決する方法を学ぶ科目として「社会関与プロジェクトA～F」を用意している。

イ 英語英米学科

英語英米学科では、地球社会という枠組みにおける英語圏の社会と文化の理解を深め、新しい文化や価値の創造に寄与する能力を育成するための教育課程を備える。

1、2年次に、本学科の全学生は、前述の学部共通基礎と学部共通専門を履修したうえで、学科共通の教育課程へと進む。本学科では2コース制を採用しており、「英語コミュニケーションコース」ではコミュニケーション学、言語学、外国語教育学を中心的な学問領域とし、「英米文化コース」では歴史学、文学、芸術、文化論等の学問領域に焦点を当て教育課程を編成する。1年後期からコース別（履修モデルは⑤-1、コースの選択方法は⑤-2で後述）に分かれ、学科共通基礎においては、2つのコースに共通する専門性や、地域に応じた研究方法を学ぶ「学科基幹科目」（1年次後期）、対話を通して尊重し合う関係を構築し、問題解決のための発信の手段を獲得するための「外国語科目」（2、3年次前後期）を学ぶ。学科共通基礎の内容をさらに発展させる学科共通専門（2、3年次前後期）では、英語圏の歴史とグローバル社会における英語圏の位置付けを学ぶ2コース共通の「英米エリアスタディーズ科目」、及び各コースの専門性を深めるコース別の「英語コミュニケーション専門科目」と「英米文化専門科目」が設置されている。3年次に設置する「英語英米演習科目」では各コースの専門性をさらに深化させ、また少人数による演習形式の研究「英語英米研究」及びその研究をもとに4年次に卒業論文を作成する「卒業研究」を設置し、専門性に基づいた発信力と新しい価値を創造する力を育む。

ウ 国際教養学科

国際教養学科は、ヨーロッパ、あるいは日本を含むアジアの各地域及びグローバル社会の理念

や現状を認識し、総合的判断力と思考力を活かしてグローバルな課題に取り組み、新しい価値の創造に寄与する能力を育成するための教育課程を備えている。

1、2年次に、本学科の全学生は、前述の学部共通基礎と学部共通専門を履修したうえで、学科共通の教育課程へと進む。本学科は3コース制を採用し、「ヨーロッパコース」ではドイツ及びフランス、「アジアコース」では中国、「国際日本コース」では世界という視点からの日本について、その歴史、社会、言語、文学、思想等の学問領域において教育を行う。1年次後期からコース別（コースの選択方法は⑤-2で後述）に分かれ、学科共通基礎においては、3つのコースに共通する専門性や、地域に応じた研究方法を学ぶ「学科基幹科目」、また対話を通して尊重し合う関係を構築し、問題解決のための発信の手段を獲得するための「外国語科目」を学ぶ。学科共通基礎の内容をさらに発展させる学科共通専門では、西欧とアジア（日本を含む）との関係を比較・交流・思想という点から学ぶ3コース共通の「国際教養専門科目」及び各コースの専門性を深めるためのコース別の「ヨーロッパ専門科目」「アジア専門科目」「国際日本専門科目」を設置する。3年次に設置する「国際教養演習科目」では各コースの専門性をさらに深化させ、また少人数による演習形式の研究「国際教養研究」及びその研究をもとに4年次に卒業論文を作成する「卒業研究」を設置し、専門性に基づいた発信力と新しい価値を創造する力を育む。

④-2 科目区分の設定及びその理由

外国語学部の2つの学科、英語英米学科、国際教養学科の教育課程の教育課程は、いずれも本学の教育理念に基づく全学共通の「人間論」、教養教育科目、専門教育科目の3つによって編成され、専門教育科目には、学びの基礎となる学部共通科目と学科共通科目があり、さらにそれぞれが基礎と専門に分かれ、基礎から発展へと学びを段階的に深めるプロセスを重視している。その一方で、学生の関心・志向にしたがって自由に科目を選択できる自由選択科目を設定している。

ア 全学共通科目

全学共通科目「人間論」（2単位）は、本学の教育理念「人間になろう」をもとに設定され、本学の全学生が必修として受講する。本学の歴史を理解する自校史教育、ライフキャリア設計のための「トータルライフデザイン」教育、現代における人間の様々なさまざまな課題を探求する「現代と人間」の学修を目的とする。

イ 教養教育科目

教養教育科目は、専門教育科目の土台部分であり、幅広い教養と豊かな人間性を育成し、社会的要請に応える基礎的能力の育成を目標としている。7つの領域から成る教養教育科目においてバランスよく学修する（17単位）ことによって涵養されるのは、本学部の専門教育科目において重視する「複眼的視座の獲得」のための重要な基礎能力である。また、本学部では、「人間論」の発展的領域7「トータルライフデザイン」を3単位以上必修とすることで、本学の「人間教育」を本学部が目指す「地球市民の育成」のための基礎と位置付けている。

ウ 専門教育科目：学部共通科目

専門教育科目の学部共通科目は、本学部のディプロマ・ポリシーにおける4つの能力（資料2、外国語学部の部分参照）を育む根幹的内容であり、2つの学科に共通する教育の知的基盤を提供するため、専門教育科目全体の半数の単位取得（44単位）するものと設定している。この学部共通科目は、基礎と専門の2段階で構成されている。学部共通基礎においては、本学部の教育課程

の知の体系を俯瞰する学部基幹科目「地球市民論」（必修）、外国語関連科目で構成される言語リテラシー科目A・B・C、学部基幹科目と言語リテラシー科目で得られた知識の実践の場としての「言語アカデミック実践演習科目」を配置する。また、学部共通専門では、学部基幹科目において俯瞰した知の体系を細分化し、学科共通専門への導入となる。また、学部共通専門には、外国語関連科目の実践の場としての海外文化研修プログラム、国際キャリア科目は、1～4年次に随時履修することが可能であり、アカデミックな知識を実践する多様な場を用意している。

エ 専門教育科目：学科共通科目（英語英米学科）

英語英米学科共通基礎は、本学科の全学生が学修すべき根幹であり、ディプロマ・ポリシーにおける4つの能力（資料2、英語英米学科の部分参照）を育むための科目である。この共通科目は、学科基幹科目と外国語科目の2種類によって構成されている。学科基幹科目は英語英米研究基礎の1科目であり、「英語コミュニケーションコース」「英米文化コース」に共通する英語圏の地域と文化ならびにグローバル社会の理念や現状について広範な知識について学ぶ。外国語科目では学部共通基礎の英語関連科目の学修を発展させる内容であり、国際共通語としての英語の運用能力を育成する。また、学科共通専門はより専門的な科目であり、具体的には、1年次の英米エリアスタディーズ科目、2、3年次の英語コミュニケーション専門科目及び英米文化専門科目、3、4年次に卒業論文制作の準備として英語英米演習科目の4科目群で積み上げ式で構成されている。学科共通科目は、基礎と専門を合わせて、専門教育科目の全体の約半数を卒業に必要な単位数（45単位）とし、各専門分野における発展的な学修内容を拡充している。

オ 専門教育科目：学科共通科目（国際教養学科）

国際教養学科共通基礎は、本学科の全学生が学修すべき根幹であり、ディプロマ・ポリシーにおける4つの能力（資料2、国際教養学科の部分参照）を育むための科目である。この共通科目は、学科基幹科目と外国語科目の2種類によって構成されている。学科共通専門は学科の基幹科目である国際教養専門科目において、「ヨーロッパコース」「アジアコース」「国際日本コース」に共通する国際的な教養の基礎を学ぶ。また、学科共通専門はより専門的な科目であり、コース制により、ヨーロッパ専門科目、アジア専門科目、国際日本専門科目から成り、歴史・文化・思想に関する専門的な知識を修得する。具体的には、1年次の国際教養専門科目、2、3年次の各コース専門科目、3、4年次に卒業論文制作の準備として国際教養演習科目を配置し、積み上げ式で構成されている。学科共通科目は、基礎と専門を合わせて、専門教育科目の全体の約半数を卒業に必要な単位数（45単位）とし、各専門分野における発展的な学習内容を拡充している。

カ 自由選択科目

自由選択科目は、英語英米学科、国際教養学科ともに18単位設定する。明確な教育方針のもとに構築された学部および学科共通科目内には、必修又は選択必修科目が多い。自由選択科目は、必修科目を通して身に付けた知見をもとに、学生が関心・志向に従ってさらに探究を深めることを可能にしている。

⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

⑤-1 教育方法

ア 授業の方法

外国語学部の2つの学科の専門教育科目は、知識の修得や学修対象の大局的な理解を目的とす

る講義形式、知識を実践する演習形式を採用する。「国際キャリアデザイン」及び「社会関与プロジェクト」には、ワークショップ形式のものやフィールドワークなど、体験型の内容が含まれており、「海外文化研修プログラム」は海外のさまざまな提携校における外国語の実践的な学修である。

本学部の授業方法は、講義科目に加えて、個々の能力を最大限引き出すことができるように、さまざまな形式の少人数の演習科目（外国語科目を含む）を1・2年次に設定しており、講義で習得した知識を体験的に理解し、課題発見と解決、価値創造へ向けた試行錯誤の場を用意している。また、講義、演習の両形式において日本語で行われる授業に加え、外国語で行われる授業を履修できることが特色となっている。

イ 学生数の設定

1授業あたりの学生数は、授業形態や教育効果を考慮し、目安とする適正人数を以下のように設定する。講義形式の授業や教養教育科目では40名から250名程度とする一方、演習形式の授業は4名から20名程度を適正人数とする。また、外国語科目については10名から25名程度を1クラスあたりの適正人数として設定している。

ウ 配当年次の設定、CAP制

配当年次は、基礎から応用へと体系的な学修が可能となるように設定する。教養を深める教養教育科目、キャリアやライフデザインについての理解を深める「国際キャリアデザイン」及び「社会関与プロジェクト」、外国語力や異文化の理解を実践的に深める「海外文化研修プログラム」は1～4年次を配当年次と定める。専門科目及び語学科目については、基礎的な知識や技能を身につける科目を1～2年次に、応用的な科目を3～4年次に配当し、学修内容を体系的に積み上げ実践的に応用できるよう配当年次を定める。

A. 英語英米学科

英語英米学科では、「英語英米学科履修モデル」（資料4）にあるように、全学生は1年次前期に、学部基幹科目である「地球市民論」を学部ディプロマ・ポリシーの概要を教授する科目として、また、教養教育科目である「ファーストイヤーゼミ」を大学での学修方法や高大の学修の接続を担う科目として履修する。同時に、学部共通専門の講義を受講し、外国語科目として、必修の英語を週5日履修する。

同じく1年次前期には英語英米学科に特化した初年次教育の機会として「英語英米研究基礎」を履修し、1年次前期終了時に行うコース選択の判断に活かす。これらの科目に加え、1年次前期及び後期を通して英米エリアスタディーズ科目を受講することにより、学科のディプロマ・ポリシーの体系を概観する。

1年次後期には、英語英米学科の学生は英語コミュニケーションコースあるいは英米文化コースのいずれかに所属し、各コースの概要を理解するべく、「英語コミュニケーション研究入門」あるいは「英米文化研究入門」を履修する。これらの科目を通し、学生は地球社会における各専門地域の課題を思考し、2年次以降のより専門的な講義の選択の判断を行う。この1年次後期より、外国語科目としては、英語に加え、第二外国語を選択し、「複数の外国語習得」を目指し、週3日履修する。

専門教育科目は、上記の1年次開講科目に加え、2年次開講科目、3年次開講科目と積み上げ式になっており、学年が上がると共に、専門性が深まるだけでなく、より高度な外国語運用能力が

求められる。外国語については、より実践的な「言語リテラシー科目C」内の各種資格試験対策と合わせて、各自の学修成果を確認することになる。

3年次には通常の「ゼミ」に加え、「言語アカデミック実践演習科目」という4名～15名程度の少人数科目を必修科目として履修する。この「言語アカデミック実践演習科目」は、2年次までに学んだ外国語を実践的に用いた演習タイプの授業であり、外国語を用いた他者との協働の中での学修を実現する。当該科目はアカデミックな環境での外国語の実践の機会として最上位に位置する科目となる。

4年次には英語英米学科の学びの集大成として卒業論文を最重要と位置付け、学生は「卒業研究」科目において専任教員より指導を受け卒業論文の制作に取り組む。

また、4年間を通じて、外国語を用いた実践的な教育の場が充実しており、専門知と言語運用能力を融合して取り組む「国際キャリアデザイン」「海外文化研修プログラム」及び「社会関与プロジェクト」を受講できる。

B. 国際教養学科

国際教養学科では、「国際教養学科履修モデル」（資料5）にあるように、全学生は1年前期に、学部基幹科目である「地球市民論」を学部ディプロマ・ポリシーの概要を教授する科目として、教養教育科目である「ファーストイヤーゼミ」を高大接続への配慮を行う科目として履修する。同時に、学部共通専門を受講し、外国語科目としては、必修の英語を週5日履修する。

同じく1年前期には国際教養学科に特化した初年次教育の機会として「国際教養研究基礎」を履修し、1年前期終了時に行うコース選択の判断に活かす。これらの科目に加え、1年前期及び後期を通して国際教養専門を受講することにより、学科のディプロマ・ポリシーの体系を概観する。

1年後期には、国際教養学科の学生は「ヨーロッパコース」「アジアコース」「国際日本コース」のいずれかに所属し、各コースの概要を理解するべく、「ヨーロッパ研究入門」「アジア研究入門」「国際日本研究入門」を履修する。これらの科目を通し、学生は地球社会における各専門地域の課題を思考し、2年次以降のより専門的な講義の選択の判断を行う。この1年次後期より、外国語科目としては、ヨーロッパ・アジア地域の言語を選択し、ディプロマ・ポリシーにもある「複数の外国語習得」を目指し、週3日履修する。

専門教育科目は、上記の1年次開講科目に加え、2年次開講科目、3年次開講科目と積み上げ式になっており、学年が上がると共に、専門性が深まるだけでなく、より高度な外国語運用能力が求められる。外国語については、より実践的な「言語リテラシー科目C」内の各種資格試験対策と合わせて、各自の学修成果を確認することになる。

3年次には通常の「ゼミ」に加え、「言語アカデミック実践演習科目」という4名～15名程度の少人数科目を必修科目として履修する。この「言語アカデミック実践演習科目」は、2年次までに学んだ外国語を実践的に用いた演習タイプの授業であり、外国語を用いた他者との協働の中での学修を実現する。当該科目はアカデミックな環境での外国語の実践の機会として最上位に位置する科目となる。

4年次には国際教養学科の学びの集大成として卒業論文を最重要と位置付け、学生は「卒業研究」科目において専任教員より指導を受け卒業論文の制作に取り組む。

また、4年間を通じて、外国語を用いた実践的な教育の場が充実しており、専門知と言語運用

能力を融合して取り組む「国際キャリアデザイン」「海外文化研修プログラム」及び「社会関与プロジェクト」を受講できる。

なお、両学科のCAP制については以下の通り定める。

- ・ 1年次の履修科目の年間登録上限：44単位
- ・ 2年次の履修科目の年間登録上限：44単位
- ・ 3年次の履修科目の年間登録上限：44単位
- ・ 4年次の履修科目の年間登録上限：44単位

外国語学部の両学科の専門教育科目は、講義科目（2単位）・演習科目（1単位）の組み合わせによって構成される。確実な授業外学修（予習・復習）時間を確保し、1年～4年まで、体系化された講義科目・演習科目をそれぞれバランスよく学修することを推奨するため、CAPを各学年44単位と定めている。ただし、成績優秀者に対しては、翌年度の履修登録単位数を上限緩和する。

エ 他大学における授業科目の履修

愛知学長懇話会単位互換制度に基づき、本学の学生は、懇話会に参加している他大学で開講される様々な科目を履修できる。受講した科目の単位は自由選択科目として認定される。

オ 留学生の入学

外国語学部では「外国人留学生入学特別選抜」を実施する。そのほか、AO選抜等でも入学希望者があった場合には積極的に受け入れて行く方針である。日本語能力としては「日本語能力試験N2」以上が望ましいとしている。入学決定後は、学修・生活指導教員と教務委員を中心に履修と生活のサポートを密に行っていく。外国語学部には英語・フランス語・ドイツ語・中国語で実施される授業も多数あり、また卒業論文の作成もそれらの言語で行うことができる。日本語話者の学生にとっても、留学生と共に学ぶことは、複数の言語習得および複眼的視座の涵養の観点から望ましいと言える。

カ 多様なメディアを利用した授業

本学では、対面授業を原則としているが、インターネットや学修管理システム（LMS）を授業の一部のツールとして活用することを奨励し、「椙山女学園大学における多様なメディアを高度に利用して行う授業に関する規準」（資料6）を定めている。

⑤-2 履修指導方法

外国語学部では、1年から4年まで、体系的な教育課程を学生が円滑に学修できるよう、以下のような指導の体制を備えている。1年次の4月に新入生オリエンテーションを実施し、カリキュラムを学生に説明し、1年前期終了後にはコース選択の希望調査を行い、個人の関心・志向を考慮したうえで、GPAによりコースを決定する。また、2年次後期には、3年次の2種類のゼミ選択を行う。学部共通基礎の「言語アカデミック実践演習」は抽選によって選抜し、また卒業研究の準備科目としてのいわゆる「ゼミ」は、希望調査をもとに適性に合わせて教員が選抜する。全学年を通じて、専任教員は全員が学修・生活指導教員をつとめ、全学生が日常的な大学生活や学修が円滑に行われるよう指導する。また各教員はオフィスアワーを設定し、学生の大学生活・学修上の相談などに対応する。さらに学生の授業時間外における学習時間の目安を各科目のシラバスに明記している。

⑤-3 卒業要件

英語英米学科、国際教養学科とも4年以上在学し、卒業に必要な単位として126単位以上修得することを卒業要件とする。授業科目の履修にあたっては、学科ごとに次の各科目区分から所定の単位数、及び必修科目と選択必修の科目を修得する。本学では教育理念を基にした「人間論」を全学共通科目として設置する。また教養教育科目として両学科とも17単位以上の取得を必須としており、大学教育のための基礎的スキルを習得するための「コンピュータと情報Ⅰ」「ファーストイヤーゼミ」「人間論」の内容を発展させた領域7「トータルライフデザイン」の科目を選択必修とする。各学科専門教育科目は89単位以上、自由選択科目として18単位以上を必須（椋山女学園大学外国語学部_2304_04_学則 p.74）とする。

科目区分		必要最低修得単位数	
		英語英米学科	国際教養学科
全学共通科目		2	2
教養教育科目	領域1～6（5領域以上から履修）	14	14
	領域7	3	3
専門教育科目	学部共通科目	学部共通基礎	28
		学部共通専門	16
	学科共通科目	学科共通基礎	8
		学科共通専門	37
自由選択		18	18
卒業に必要な単位数の合計		126	126

⑥ 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

外国語学部では、多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の計画を、以下のとおり定める。

ア 学則等における規定

大学設置基準第25条第2項の規定に基づき、本学学則第19条第2項に、多様なメディアを高度に利用して、授業を教室等以外の場所で履修すること（以下「メディア授業」という。）ができる旨を規定し、また、大学設置基準第32条第5項の規定に基づき、本学学則第20条第3項に、当該授業方法により修得する単位数は、卒業の要件として修得すべき単位数のうち60単位を超えないものとする旨規定している。

また、メディア授業の実施に関し必要な事項を「椋山女学園大学における多様なメディアを高度に利用して行う授業に関する規準」として定め、メディア授業が全開講回数の半数を超える授業科目を「メディア授業科目」と称し、メディア授業科目の実施にあたっては、申請書により実施内容を確認し、教授会等学内所定会議の承認を得ることとしている。

本学では、2024年度から新たに開講する教養教育科目の「AI・データと社会」をメディア授業科目（オンデマンド型）とする計画である。

イ 実施場所及び実施方法

メディア授業の実施場所としては、学生は自宅、大学内の情報処理演習室やPCが設置された学

生控室等において受講し、担当教員は原則として大学の個人研究室又は教室においてメディア授業を実施する。

メディア授業の実施方法については、同時双方向型のメディア授業ではビデオ会議システム（Zoom、Google Meet、Microsoft Teams等）を導入しており、オンデマンド型のメディア授業においては、インターネットやLMS（Google Classroomの利用を推奨）上に掲載された資料、教材、動画などの閲覧、練習問題・確認問題・小テストなどの実施、課題の提出、質問機能を利用した教員と学生及び学生同士の意見交換を行うことにより、文部科学省告示第51号（大学設置基準第25条第2項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業等について定める件）に規定されている要件を満たしている。

「AI・データと社会」は、全回数をオンデマンド型で提供するが、学生は所定の受講期間内の範囲で受講する。課題提出等により毎回の出欠を確認し、「相山女学園大学試験及び成績評価に関する規準」の規定により開講回数の3分の1以上欠席した学生の成績は「失格」とする。学生からの各種相談に対応し得るよう、各回の授業に担当教員を配置し、授業後の課題指導、質疑応答等による十分な指導を行うとともに、学生の意見の交換の機会を確保するよう計画している。日常的に発生する学生の学修環境（情報環境）の支援については、大学情報教育開発センターホームページへのQ&A掲載並びに教務課及び日進キャンパス事務課で対応する。

⑦ 編入学定員を設定する場合の具体的計画

外国語学部では、英語英米学科の3年次編入学で10名、国際教養学科の3年次編入学で10名の定員を設定する。

ア 既修得単位の認定方法

短期大学または大学において修得した授業科目の単位は、相山女学園大学学則第20条の4に基づき、本学において修得したものとみなす。既修得科目の単位を一括認定し、最大62単位まで認定することができる。編入学生は本学に入学後、既修得科目に係る成績証明書の本学に提出し、これに基づき教務委員会での審議を経て、外国語学部の教授会で審議、認定する。

イ 履修指導方法

4月初めの新生生オリエンテーションの際に、編入学生は個別に教務関係の教員と職員とで履修の指導を行い、英語英米学科の学生は「英語コミュニケーションコース」あるいは「英米文化コース」、国際教養学科の学生は「ヨーロッパコース」「アジアコース」「国際日本コース」の選択を行い、2年間の履修計画を策定する。また、年間を通して、学修・生活指導教員や教務課で相談を受けられるように体制を整える。編入学生は、「編入学生履修モデル」（資料7）に示すとおり、3年次と4年次の必修科目の他に、1年次と2年次に配当されている学部・学科の必修科目（一部を除く）も履修し、選択科目の履修も加えて、126単位の修得を目指す。

ウ 教育上の配慮等

科目の履修について、通常の学生は4年間のうちで履修することができるが、編入学生は履修が2年間に限られるため、教育上の配慮（特に必修科目の履修）が必要となる。時間割の編成にあたっては、受講者数の制限がある科目を編入学生が履修を希望する場合は、履修を優先的に認める。また、3年次からのゼミの選択も事前に編入学生と教員と相談の上で、原則編入学生の希望どおり履修を認める。

なお、履修科目の年間登録上限（CAP制）は、両学科いずれも個々の授業科目に対する学生の十分な学習時間の確保を考慮しながらも、編入学生は、特に1・2年次のように考慮すべき「複数の外国語習得」のための学習時間の確保は多少緩和できるとの判断により、履修科目の年間登録上限は48単位に設定する。ただし、年間のGPAが一定以上の学生については、翌年次の履修登録単位数の上限を緩和する。資格取得に関する科目、インターンシップに関する科目、愛知学長懇話会単位互換事業の科目の履修を希望する学生に対しては、各登録科目の事前及び事後の学習時間が確保され、着実な学びが保証されるように、学修・生活指導教員を中心に、きめ細かい指導を行う。

⑧ 実習の具体的計画

外国語学部英語英米学科では、教育実習に関する計画を、以下のとおり定める。

ア 実習の目的

実際の教育現場において現場教師の実践的指導を受けながら、授業方法・児童生徒指導・課外活動・学校学級運営といった教師の仕事の多面的な側面を、実地経験を通して体得し、自らの教師としての適性を見極め、将来の教師としての意識とモラルを涵養していくことを目的とする。

イ 実習先の確保の状況

愛知県教育委員会（中学校302校、高等学校149校）、名古屋市教育委員会（中学校110校、高等学校14校）及び本学の併設校（中学校1校、高等学校1校）から、教育実習受入れの内諾を得ている。

ウ 実習先との契約内容

実習先との間で実習依頼、受入れ承諾のやり取りを書面にて行った上で、必要に応じて実習先と契約を交わす。特に、愛知県及び名古屋市には、実習受入れに関する誓約書を提出している。

エ 実習水準の確保の方策

実習前の事前指導において、実習の意義、目的及び内容等について理解させている。実習に向けては、実習校の協力を得て、教育実習の具体的実施計画を策定し、その実施に当たり大学側の担当教員が実習校の教職員と密接に連携し、実習期間中に実習校を訪問して巡回指導を行い、研究授業等について教育現場での指導助言を行うとともに、実習期間中も学生からの相談に随時対応する等、実習状況の把握と個別指導を行う。その他、後述の「キ 事前・事後における指導計画」に基づく丁寧な指導を行うことにより、実習水準を確保している。

オ 実習先との連携体制

愛知県教育委員会及び名古屋市教育委員会とは、それぞれ毎年度打合せ会等の場において、当該年度の実習の実施状況、反省事項及び次年度への要望等を確認し、改善につなげている。実習先との連絡体制としては、本学の事務局窓口（教務課）及び本学の教職課程全般の検討、実施組織である教職課程委員会が中心となって各教育委員会、実習校及び実習学生との間で緊密な情報の提供及び共有を行っており、トラブル対応を含めて迅速な連携体制を構築している。

カ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

感染予防対策については、各教育委員会及び実習校からの要請に対応し、教育実習実施の2週間程度前から、毎朝の検温及び風邪症状の確認を行うことや、感染リスクの高い場所に行く機会を極力減らすことなどを学生に徹底指導している。

また、実習中の万一の事故等に備え、賠償責任保険等に加入している。

その他の留意事項として、実習中に知り得た事項を口外しないこと、生徒・保護者等の個人情報の取扱いに十分注意すること、個人情報の外部提供（ソーシャルメディアを含む。）は行わないことなど、実習中・実習後の守秘義務については事前指導等において周知徹底している。

キ 事前・事後における指導計画

A. 事前指導

事前指導においては、以下の項目について実習生に指導している。

- (a) 教育実習の意義と目的及び内容、教育実習生としての心構え、教育実習全般にわたる具体的な注意事項等について説明し、よく理解させる。
- (b) 教育委員会の指導主事、学校長、教頭等の学校現場の指導者を講師として招き、学修指導と生徒指導の実際に即して、学校教育のしくみや児童・生徒の実情に触れた講話を聞かせる。また、現職教員として活躍している本学の卒業生等を講師として招き、教育実習や教員採用試験等の教師になるまでの体験や教師になった後の教育現場の体験を聞かせた上で、学生たちと討議の場を設定する。
- (c) 研究授業を組み立てる際の基本的な授業立案の考え方や記載方法について、具体的な指導案の作成方法等を指導し、学生が試作する。
- (d) 教育実習期間中に巡回指導をする担当教員と、巡回指導の日程調整等の打合せを兼ねて、個別又はグループ指導の形で、教育実習に関する事前の相談やアドバイスを行う。

B. 事後指導

事後指導においては、以下の項目について実習生に指導している。

- (a) 実習期間中に巡回指導をした担当教員が、実習期間中のさまざまな出来事や体験を実習生から聴き取り、研究授業や指導案等に対する評価コメントを示すとともに、期間中の体験が今後の教師としての資質向上と結びついていくように指導助言する。
- (b) 実習を終了した学生を対象に、個別指導又は同じ時期に教育実習を終えた少人数の学生を集めて、グループによる教育実習の経験発表、反省のための機会を設定し、討議する。討議を通じて、求められる教師の資質について理解を深めるとともに、学生自身について不足又は改善を要する側面についての自己認識や教員としての適性について、自己理解を深めていく。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

本学に設置する教職課程委員会は、各学部で教職関連科目を担当する教員を構成員とし、教育実習の調整、連絡及び成績評価に関する事項に対応している。実習の巡回指導については、原則として実習生の所属学部の教員で割り振り、調整を行っている。

ケ 実習施設における指導者の配置計画

実習校においては、直接指導に当たる指導担当教諭が、指導案の作成、授業の実習、実習日誌、報告書の作成等について指導する。

コ 成績評価体制及び単位認定方法

実習校からの資料（評価票、出勤簿、実習記録等）に基づき、教職課程委員会で協議した上で実習担当教員が評価する。評価票においては、生徒指導、学習指導、実習態度の各評価項目の評

価を行った上で総合評価を行う。各評価項目及び総合評価はA（優れている）、B（標準）、C（やや劣っている）、D（劣っている：不合格）の4段階で評価する。

⑨ 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

外国語学部では、企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習等に関する計画を、以下のとおり定める。

⑨-1 企業実習（インターンシップを含む）

※ 本学における「インターンシップⅠ・Ⅱ」という科目は、令和5年度から「キャリア形成実習Ⅰ・Ⅱ」に名称変更している。

「キャリア形成実習Ⅰ・Ⅱ」は、2年生・3年生を対象に就業実習を通じて、なぜ働くのか、何のために働くのか、という、「将来の働き方」を明確にし、「働くこと」の意味を知るきっかけをつかみ自己のトータルライフデザインを描くことができるよう実施している。

キャリア形成実習における具体的な目的は以下の通りである。

- ・ 職業意識の形成と適職、能力の確認
- ・ 大学での学習意欲の向上と学習分野での知識・スキルの向上
- ・ 企業、社会からの自己の評価の確認と職業選択におけるミスマッチ防止

学生がキャンパスの中で学んだ知識や理論をもとにキャリア形成実習に参加し、企業や官公庁で実際の仕事を通して実地研修を行う。学生自身が将来進もうとする就職先を見据えた業界での働き方や、自らが想像していなかった業界や企業での働き方を垣間見ることで自己成長をすることができる。

本学ではキャリア形成実習に参加申し込みをし、5日以上就業体験実習参加および事前指導及び事後指導（本学が実施）の修了により1単位を付与する。

ア 実習先の確保の状況

受入先は、地方公共団体、一般社団法人、非営利団体、民間企業等、多岐に渡っている。

民間企業の業種の一例として、建設業、不動産業、製造業、金融業、卸売業、流通業、情報通信業、運輸業、サービス業（ホテル・旅館、冠婚葬祭、物品レンタル、人材サービス等）、医療・福祉等である。「2022年度 インターシップ受け入れ企業一覧」（資料8）のとおり、145の企業・団体から受入承諾があった。

イ 実習先との連携体制

過去の受け入れ実績のある企業・団体を中心に、毎年、実習生の受入委依頼を行っている。依頼の際、本学キャリア形成実習の趣旨、スケジュール等を開示のうえ、受入可否・受入期間（5日間以上）・受入可能学年・受入人数・実習内容等の確認を行っている。受入企業・団体とは、個別に覚書を締結し、必要に応じて個別の打ち合わせ等を行い、実習期間中は、受入れ担当者と緊密な連携を図っている。

また、実習中に学生の事故等が発生した場合は、迅速な対応を行うほか、実習先に対する賠償責任についても賠償責任保険への加入により、リスクの軽減を図っている。また、必要に応じて、受入先企業・団体に保険の加入証明書を提出し、保険適用範囲の内容を周知している。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法

本学が実施するキャリア形成実習では、以下を単位認定の要件としている。

- ・（実習参加前の）事前指導を全て受講・修了（心構え、業界研究・企業研究、コミュニケーション、自己分析、履歴書作成、プレゼンテーション、グループワーク、目標設定及び実習中の注意事項等）
- ・ 実動5日間以上の実習を修了（同一企業・団体であること）
- ・ 実習終了後の報告書の提出
- ・ 実習終了後の事後指導（実習の振り返り、キャリアデザイン、グループワーク等）を受講・修了

これらに併せて、キャリア形成実習報告会への参加、実習先からの評価等も踏まえ、総合的に評価し、単位認定を行う。

エ その他特記事項

上記に加え、「キャリア形成実習」として海外を含め国際的な分野で活躍できる人材育成を目指し、海外企業実習を実施している。実習先はカンタス航空（実習期間7日間）である。また、同プログラムは上記「キャリア形成実習」のプログラム内容にウェスタンシドニー大学での語学研修を追加し、高い語学力を活かし航空や観光ビジネスなどの分野に係わることを目標としている。

これ以外にも、一般公募型や自己開拓型のキャリア形成実習に申込み、修了した学生であっても、上記の要件を満たし、キャリア育成センターにより相当と判断された場合は、単位認定を行う。

⑨-2 海外語学研修

外国語学部における海外語学研修は英語、フランス語、ドイツ語、中国語のそれぞれの語学研修を目的とし、実習期間、単位数等が異なる3タイプの科目枠で実施する。これらの授業は、いずれも1年次から開講する。

- ・ 海外文化研修プログラム A（16単位）：1学期から半年（21～25週）程度の Semester 留学
- ・ 海外文化研修プログラム B（4単位）：夏休み、春休み期間を利用した2ヶ月（8～10週）の留学
- ・ 海外文化研修プログラム C（2単位）：夏休み、春休み期間を利用した1ヶ月（4～5週）の留学

ア 実習先の確保の状況

海外文化研修プログラム A は、英語圏、ドイツ語圏、フランス語圏、中国語圏における研修であり、詳細は以下の通りである。

英語圏	・ビクトリア大学（カナダ、ビクトリア市） ・デイトン大学（アメリカ、オハイオ州デイトン市） ・サンディエゴ州立大学（アメリカ、カリフォルニア州サンディエゴ市） ・タスマニア大学（オーストラリア、ホバート市） ・ウエスタンミシガン大学（アメリカ、ミシガン州カラマズー市）
ドイツ語圏	・ゲーテ・インスティテュート シュペーヴィツシェ・ハル校（ドイツ、シュペーヴィツシェ・ハル市）
フランス語圏	・アンジェ・西部地区カトリック大学（フランス、アンジェ市）
中国語圏	・北京語言大学（中国、北京市）

海外文化研修プログラムBは、英語圏における研修である。

英語圏	<ul style="list-style-type: none"> ・クイーンズランド工科大学（オーストラリア、ブリスベン市） ・西オーストラリア大学（オーストラリア、パース市）
-----	--

海外文化研修プログラムCは、英語圏、ドイツ語圏、フランス語圏、中国語圏における研修であり、詳細は以下の通りである。

英語圏	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和女子大学ポストンキャンパス（アメリカ、マサチューセッツ州ポストン市） ・ウエスタンミシガン大学（アメリカ、ミシガン州カラマズー市）
ドイツ語圏	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーテ・インスティテュート シュベールヴィッシェ・ハル校（ドイツ、シュベールヴィッシェ・ハル市） ・ゲーテ・インスティテュート フライブルグ校（ドイツ、フライブルグ市） ・IIK（ドイツ、デュッセルドルフ市）
フランス語圏	<ul style="list-style-type: none"> ・カヴィラム：クレルモン＝フェラン大学管轄、現代言語・メディア研修センター（フランス、ヴィシー市） ・ストラスブール大学（フランス、ストラスブール市）
中国語圏 及びアジア	<ul style="list-style-type: none"> ・北京語言大学（中国、北京市） ・淑明女子大学（韓国、ソウル市）

イ 実習先との連携体制

本学の国際交流センターと連携しながら、外国語学部の留学委員会が上記の提携先との協議・連携を行う。留学委員会は、各提携先の担当者によって構成され、課題を共有し、学生に現地で効果的な学習環境を提供できるよう運営業務を行う。

ウ 成績評価体制及び単位認定

海外語学研修の評価・単位認定は、以下の2つを組み合わせで行う。

- いずれのプログラムも各機関から修了証と成績が発行される、その成績スコア。
- 出発前と出発後に受験した検定テストの結果から算出された、事前事後でのスコアの伸び。

エ その他特記事項

国際コミュニケーション学部において長い実施実績のある英語の Semester 留学に関しては（上記、ビクトリア大学、デイトン大学、サンディエゴ州立大学、タスマニア大学、ウエスタンミシガン大学が該当）、留学前後の英語力の伸びについてのデータをもとにした留学の効果についての分析を実施し、不定期ながら報告書を紙媒体で刊行してきたが、今後も分析し、データを公表する予定である。

⑩ 取得可能な資格

外国語学部では、学部の教育課程における指定科目を履修し、所定の単位を修得することにより、以下の資格を取得することができる。

A. 国家資格

資格の名称・種類	資格取得・ 受験資格の別	卒業要件 との関連	取得方法
中学校教諭一種免許状（英語） ※英語英米学科のみ	資格取得	なし	卒業要件単位に含まれる科目 のほか、教職関連科目の履修 が必要
高等学校教諭一種免許状（英語） ※英語英米学科のみ			
学芸員	資格取得	なし	卒業要件単位に含まれる科目 のほか、学芸員関連科目の履 修が必要
図書館司書	資格取得	なし	図書館司書関連科目の履修が 必要
学校図書館司書教諭 ※英語英米学科のみ	資格取得	なし	図書館司書教諭関連科目の履 修が必要

B. 民間資格

資格の名称・種類	資格取得・ 受験資格の別	卒業要件 との関連	取得方法
日本語教員	資格取得	なし	卒業要件単位に含まれる科目 のほか、日本語教員関連科目 の履修が必要
J-SHINE（小学校英語指導者資格）	資格取得	なし	英語を使用した50時間以上の 指導経験が必要

⑪ 入学者選抜の概要

⑪-1 入学者選抜の指針及びアドミッション・ポリシー

椋山女学園大学では、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を以下のとおり定めている。

大学のアドミッション・ポリシーをふまえた外国語学部、英語英米学科、及び国際教養学科の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）は、①-5で先述した通りである。学部・学科の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に明示した、求める学生像や、入学にあたり高校段階で修得しておくべき知識等の内容・水準等に適う学生を確保できるよう、次のような選抜方式を採用する。総合型選抜（AO選抜）では「思考力・判断力・表現力」、学校推薦型選抜及び同窓生特別推薦入試及び特別選抜（社会人入学特別選抜・外国人留学生入学特別選抜）では「主体性・協働性」、公募制推薦入試Ⅰ・Ⅱでは、「思考力・判断力・表現力」、一般選抜では「知識・技能」をそれぞれ重視した選抜を行う。

⑪-2 選抜の方法と体制

入学者選抜は中立・公正に実施することを旨とし、入試問題の漏洩など入学者選抜の信頼性を損な

う事態が生じることのないよう、学長を本部長とし、各学部長、各学科主任、各学部入試委員、入学センター職員による試験実施本部が組織され、教員や職員等の関係者が一体となり、全学的な連携体制の下に実施する。

入学者選抜基準の透明性については、試験ごとに各学部入試委員会が合否判定の素案を作成し、各学部合否判定教授会において審議し、合格者を選抜する。

⑪-3 募集形態

外国語学部の募集形態は、以下のとおりである。

ア 総合型選抜

総合型選抜は、「A0選抜」と呼称して実施する。

A0選抜では、前述した学部学科の入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、一次評価と二次評価の二段階の評価により慎重に評価する。一次評価では、志願者から提出された出願書類（志願票、志願理由書、調査書等）による審査を行う。その後、二次審査としてプレゼンテーションおよび面談を行い、評価方法に基づき総合的に評価する。

イ 学校推薦型選抜

学校推薦型選抜は、「指定校制推薦入試」「併設校制推薦入試」「公募制推薦入試（教科型）」「公募制推薦入試（総合型）」の4区分で実施する。

推薦入試では、前述した学部学科の入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学部における学びに必要とされる学力、人柄、態度、習慣を有する等を出願書類、基礎学力検査、小論文、面接などを通して多面的、総合的に評価する。

ウ 一般選抜

一般選抜は、前期日程において「一般入試A（3教科型）」「一般入試A（2教科型）」「一般入試A（共通テスト併用型）」「大学入学共通テスト利用型入試A」を実施し、後期日程において「一般入試B（1教科型）」「大学入学共通テスト利用型入試B（2教科型）」として実施する。「大学共通テスト利用型入試」以外は本学独自の選抜試験を実施する。

一般入試・大学入学共通テスト利用型入試では、前述した学部学科の入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学部における学びに必要とされる十分な能力を有するかどうかを学力試験及び出願書類によって評価する。

エ その他

外国人留学生入学特別選抜では、前述した学部学科の入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学部における学びに必要とされる十分な能力を有するかどうかを学力試験及び出願書類によって評価する。

外国人留学生入学特別選抜の出願資格は、独立行政法人国際交流基金もしくは財団法人日本国際教育支援協会が実施する日本語能力試験のN1（旧1級）もしくはN2（旧2級）に合格した者とし、出願の際、その認定結果及び成績に関する証明書の提示とともに最終出身学校の卒業（見込）証明書及び最終出身学校の成績証明書の提出を求めている。それに加え、経費の支弁能力や在籍管理のため、出願書類において「身元保証書」「留学に係る経費負担計画書」「留学費用の支払能力を証明する書類」「登録原票記載事項証明書またはパスポートの写し」の提出を求める。

⑪-4 募集定員と試験科目等

ア 募集定員

選抜方法ごとの募集定員及び割合は、下表のとおりである。

学科	定員 入学定員	募集定員			
		総合型選抜	学校推薦型選抜	一般選抜	その他
英語英米学科	115	8 (7.0%)	56 (48.7%)	50 (43.5%)	1 (0.9%)
国際教養学科	85	6 (7.1%)	42 (49.4%)	36 (42.4%)	1 (1.2%)

イ 試験科目等

両学科の選抜区分ごとの募集定員及び試験科目等は、次のとおりとする。

A. 英語英米学科

選抜区分	募集 定員	試験科目等
●総合型選抜		
A0選抜	8	<ul style="list-style-type: none"> ・一次評価（書類審査） ・二次評価（英語プレゼンテーション・日本語面談・小論文）
●学校推薦型選抜		
指定校制推薦入試	16	<ul style="list-style-type: none"> ・書類審査（調査書、推薦書、志望理由書） ・面接（日本語）
併設校制推薦入試	28	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭試問（英語）
公募制推薦入試Ⅰ期 （教科型）	5	<ul style="list-style-type: none"> ・書類審査（調査書、推薦書、志望理由書） ・学習成績の状況（平均）×5倍 ・基礎学力検査（「国語」「数学」「英語（必須）」から2科目）
公募制推薦入試Ⅰ期 （総合型）	4	<ul style="list-style-type: none"> ・書類審査（調査書、推薦書、志望理由書） ・学習成績の状況（平均）×5倍 ・英語読解テスト／小論文 ・口頭試問（日本語・英語）／面接
公募制推薦入試Ⅱ期 （総合型）	3	<ul style="list-style-type: none"> ・書類審査（調査書、推薦書、志望理由書） ・学習成績の状況（平均）×5倍 ・英語読解テスト／小論文 ・口頭試問（日本語・英語）／面接
●一般選抜		

一般入試A (3教科型)	21	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、地理歴史（世界史、日本史）、数学、理科（化学基礎、生物基礎）、英語（リスニングを課さない）（必須）から3教科3科目または2教科2科目を選択
一般入試A (2教科型)	15	
一般入試A (共通テスト併用型)	5	1科目目：外国語（英語）の1教科1科目 2科目目：大学入学共通テストの最も高得点の1科目 3科目目：本学個別試験または大学入学共通テストのうち1科目目2科目目を除く高得点の1科目を採用
大学入学共通テスト 利用型入試A (2教科型)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・国語（近代以降の文章）、地理歴史、公民、数学（数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学Bから1科目）、理科（物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2科目または物理、化学、生物、地学から1科目）から高得点の1科目を採用 ・外国語（「英語」（リスニングを課す））、ドイツ語、フランス語、中国語から1科目必須
一般入試B (1教科型)	4	<ul style="list-style-type: none"> ・英語（リスニングを課さない）を選択（必須）
大学入学共通テスト 利用型入試B (2教科型)	2	<ul style="list-style-type: none"> ・国語（近代以降の文章）、地理歴史、公民、数学（数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学Bから1科目）、理科（物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2科目または物理、化学、生物、地学から1科目）から高得点の1科目を採用 ・外国語（「英語」（リスニングを課す））、ドイツ語、フランス語、中国語から1科目必須
●その他		
外国人留学生入学特別 選抜	1	<ul style="list-style-type: none"> ・書類審査（志望理由書を中心に、提出された書類を総合的に評価） ・筆記試験（日本語の文章を読み理解する能力及び学科に適合する知識や思考力を評価） ・面接（英語と日本語による質疑応答を実施し、学科での学びとの適合性、関心、学習意欲、思考力等を総合的に評価）

B. 国際教養学科

選抜区分	募集 定員	試験科目等
●総合型選抜		
総合型選抜 (A0選抜)	6	<ul style="list-style-type: none"> ・一次評価（書類審査） ・二次評価（日本語プレゼンテーション・面談（英語質問あり））・小論文

●学校推薦型選抜		
指定校制推薦入試	10	・書類審査（調査書、推薦書、志望理由書） ・面接
併設校制推薦入試	22	・口頭試問
公募制推薦入試Ⅰ期 （教科型）	5	・書類審査（調査書、推薦書、志望理由書） ・学習成績の状況（平均）×5倍 ・基礎学力検査（「国語」「数学」「英語（必須）」から2科目）
公募制推薦入試Ⅰ期 （総合型）	3	・書類審査（調査書、推薦書、志望理由書） ・学習成績の状況（平均）×5倍 ・小論文 ・口頭試問（日本語・英語）
公募制推薦入試Ⅱ期 （総合型）	2	・書類審査（調査書、推薦書、志望理由書） ・学習成績の状況（平均）×5倍 ・小論文 ・口頭試問（日本語・英語）
●一般選抜		
一般入試A（3教科型）	16	・国語、地理歴史（世界史、日本史）、数学、理科（化学基礎、生物基礎）、英語（リスニングを課さない）（必須）から3教科3科目または2教科2科目を選択
一般入試A（2教科型）	12	
一般入試A （共通テスト併用型）	3	1科目目：外国語（英語）の1教科1科目 2科目目：大学入学共通テストの最も高得点の1科目 3科目目：本学個別試験または大学入学共通テストのうち1科目目2科目目を除く高得点の1科目を採用
大学入学共通テスト 利用型入試A（2教科型）	2	・国語（近代以降の文章）、地理歴史、公民、数学（数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学Bから1科目）、理科（物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2科目または物理、化学、生物、地学から1科目）から高得点の1科目を採用 ・外国語（「英語」（リスニングを課す））、ドイツ語、フランス語、中国語から1科目必須
一般入試B（1教科型）	2	・英語（リスニングを課さない）を選択（必須）
大学入学共通テスト 利用型入試B（2教科型）	1	・国語（近代以降の文章）、地理歴史、公民、数学（数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学Bから1科目）、理科（物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2科目または物理、化学、生物、地学から1科目）から高得点の1科目を採用 ・外国語（「英語」（リスニングを課す））、ドイツ語、フ

		ランス語、中国語から1科目必須
●その他		
外国人留学生入学特別選抜	1	<ul style="list-style-type: none"> 書類審査（志望理由書を中心に、提出された書類を総合的に評価） 筆記試験（文章を読み理解する能力や分析力、学科に適合する総合的な知識や思考力等を総合的に評価） 面接（質疑応答を実施し、学科での学び、関心、学習意欲、思考力等を総合的に評価）

⑪-5 科目等履修生及び聴講生等の受け入れ

上記の正規学生の募集、受入れ以外に、本学学生以外の希望者について科目等履修生及び聴講生としての受入れを行う予定である。受入れにあたり定員は特に設けないが、正規学生の教育活動に支障のない範囲で受け入れることを条件とし、当該授業科目を開講している学部の教授会における審議を経て、履修又は聴講を認める場合は学長が許可する。また、委託生及び研究生として特定の専門事項について研究や修学委託の願出がある場合についても、科目等履修生及び聴講生と同様に正規学生の教育活動に支障のないことを条件として、同様の手続を踏まえた上で受入れをすることがある。

⑫ 教員組織の編制の考え方及び特色

大学設置基準等の関係法令、及び、本学で設定している「求める教員像」「教員組織の編成方針」に則り、外国語学部では次のように教員組織の編制を行う。

A. 求める教員像

教育理念、大学の目的、人材育成に関する目的及び椋山女学園大学憲章をよく理解し協力できる者であるとともに、教育、研究、社会貢献及び大学管理運営において、必要な能力を有し、能力向上に努め、協力して行動できる者とします。

B. 教員組織の編成方針

大学設置基準等関係法令に基づき、年齢構成、男女比率及び専門分野のバランスを考慮しながら、各学部等の教育研究上の目的を実現するために必要な教員を配置します。教員の募集、任用、昇任等に当たっては諸規程に基づき、公正かつ適切に行います。

外国語学部の専任教員総数は26名（2024年4月時点）であり、学科毎の職位の内訳は次のとおりである。

	教授	准教授	講師	助教	計
英語英米学科	7名	5名	3名	0名	15名
国際教養学科	7名※	2名	2名	0名	11名

※ 7名のうち3名は、完成年度までに定年退職し、完成年度末まで客員教授となる。

専任教員26名の学位取得状況は、博士号13名、修士号13名であり、半数が博士の学位を有してい

る。完成年度の2027年度には、教員1人当たりの学生数（編入学定員を除く収容定員数）は、英語英米学科が30.67名（460名÷15名）、国際教養学科が30.91名（340名÷11名）となる。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）（p.2①-3）に明示されているように「複数の外国語と人文学の教育研究」が本学部の研究教育の根幹である。これを支える専任教員全員の専門領域も人文学に属し、とりわけ言語学・文学・歴史学・哲学の分野である。また、専任教員は英語・ドイツ語・フランス語・中国語等に堪能であり、海外の研究者との研究協力の実績を有している。専任教員はこのような研究教育業績と言語能力を十分に活用できるよう、英語英米学科の英語コミュニケーションと英米文化の2コース、国際教養学科のヨーロッパ・アジア・国際日本の3コースに配置される。「養成すべき人材の方針」（p.1①-2）の項でも強調したように、本学部では、各言語圏の文化や社会の研究教育が地域に閉ざれることなく、「地球市民」の意識と行動の育成につながることを重要視しており、例えば、学部共通専門を構成する3つの科目群「グローバル・スタディーズ」「コミュニケーションスタディーズ」「多元文化」を、人文学と社会科学の学際的研究を専攻領域としてきた専任教員が担当する。

本学部の専門教育の総仕上げの位置づけに置かれるのは卒業論文の作成であり、その完成に向けて、1年次から必修・選択必修の学部共通基礎・学部共通専門、学科共通基礎・学科共通専門が配置され、3年次以降の少人数クラスで実施される「ゼミ」教育に連結される。これら「ゼミ」科目、すなわち「英語英米演習科目」（英語英米学科）と「国際教養演習科目」（国際教養学科）、及び「言語アカデミック実践演習」（学部共通）を担当するのはすべて専任教員である。ただし、関連する専門領域の広がり为确保するために基礎科目等では非常勤教員を充てており、特に、「翻訳」「通訳」など技術指導を行う科目や、「Gender Dimension in Media and Communication Studies」（英語英米学科）「Japanese Traditional Culture」（国際教養学科）のような英語のみで行われる科目である。

学部共通基礎の中には、外国学部として非常に重要になる「言語リテラシー科目」が置かれている。入学者全員の必修となる「Communicative English」を中心とする英語教育では、外国人コーディネーター1名と4名の外国人専任教員のほか非常勤教員が共通シラバスのもと英語コミュニケーション能力の育成を行う。また、選択必修科目となるドイツ語・フランス語・中国語教育においては、専任教員がコーディネーターを務めて、複数の母語話者非常勤教員も配置して、共通シラバスのもと当該言語の能力の育成を図る。

本学部英語英米学科では「中学校教諭一種免許状（英語）」および「高等学校教諭一種免許状（英語）」の取得が可能である。そのための専任教員も確保しており、教育実習の指導も含め、支える体制ができています。日本語教員資格については、教育学部の教員と連携して、学生の資格取得支援を進める。また本学部では、実務経験の豊富な教員を1名、国際関係論担当の客員教授として配置している。この教員は博士学位を取得した研究業績もある。専門教育ばかりではなく、学生のキャリア形成にも有効な作用を期待できる。

専任教員は原則として前期6コマ、後期6コマの授業を担当する。その中には全学教育において共通化されている「教養教育科目」担当も含まれる。「ファーストイヤーゼミ」は、書物の読み方、資料の探し方、意見の発表の仕方、学術的な文章の書き方など学ぶ科目であり、専任教員が少人数クラスとして実施する体制となっている。

教員組織の年齢構成について見ると（2024年4月1日時点）、30～39歳2名、40～49歳10名、50～59歳3名、60歳以上11名であり、教育・研究者として若手・中堅・ベテランが配置されている。このう

ち、完成年度となる2027年度以前に定年（本学の規定により70歳である）を迎える専任教員は3名（2025年度末に1名、2026年度末に2名）である。これらの教員は定年後、完成年度末まで客員教授（資料9）の職務に就き、学部の教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化にあたるので、運営上支障をきたさない。この職務の終了後には、後任となる教員3名を2028年4月1日付で採用する予定である。なお、その60歳以上11名の教員の内、さらに1名が特命教授（資料10）であるが、完成年度以降まで継続して常勤するため、同様に学部の教育研究水準の維持向上に資することが期待でき、教育研究の活性化にも支障はないと判断している。

⑬ 研究の実施についての考え方、体制、取組

ア 研究の実施についての考え方

2016年9月30日に制定された「椋山女学園大学憲章」において、大学としての研究に対する基本的な考え方を以下のように明示している。

○わたしたちの研究

1. 学生の興味と関心を育む魅力ある教育につながる研究に努めます
2. 最新の理論や技術を求め、それを活かした研究を推進し、身近な生活課題にも応えます
3. 学術研究の倫理を遵守し、高い誇りをもって研究を遂行します

イ 研究の実施についての体制、取組

上述の研究を推進するため、講師以上の教員に対して一人あたり、実験系教員には862千円、非実験系教員には579千円を教員研究費として経常費予算措置を行っている。加えて学内の競争的研究資金として学園研究費助成金A、Bを、出版助成のための資金として学園研究費Dを措置し、学内資金での研究活動が十分行えるような体制整備を行っている。

また、外部研究資金獲得支援として、科学研究費助成事業に不採択となったが評価Aの場合には教員研究費を100千円増額し、翌年度の科学研究費助成事業採択に向けての支援を行っている。

研究環境としては、個人研究室を付与しており研究時間の確保、研究専念期間の確保のため、椋山女学園大学海外研修規程及び椋山女学園大学国内研修規程を整備し、長期の研究に専念する機会を与えることとしている。

なお、研究活動をサポートするURA等については、制度としては取り入れていないが、外部資金等によりURAの必要な研究課題を実施する教員には、個別に対応することで柔軟に対応している。

⑭ 施設、設備等の整備計画

ア 校地、運動場の整備計画

椋山女学園大学外国語学部は星が丘キャンパスに位置し、現況の星が丘キャンパス校地面積は50,979㎡、校舎面積は64,307.78㎡を有しており、運動施設としては、3,980.94㎡の体育館を配置し、星が丘キャンパスから徒歩5分のところに1,268㎡の多目的グラウンドを整備している。その他、大学専有の運動施設として愛知県日進市に所在する日進キャンパスには、12,338.97㎡の多目的グラウンドに、1,071.2㎡の日進体育館、テニスコート（6面）、ゴルフ練習場（20打席）を有している。

学生の休息等のスペースとして大学会館と教育学部E棟の2箇所に学生食堂、また各学部棟に学生控室を整備し、学生の語らい交流の場としている。

日進キャンパスへの移動手段は、公共交通期間のバス（所要時間約35分）の他、星が丘キャンパスと日進キャンパスを往復するスクールバスを運行している（所要時間約20分）。

イ 校舎等施設の整備計画

星が丘キャンパスは、図書館、体育館、学生食堂を整備している他、外国語学部が使用を予定している校舎については、講義室24室、演習室4室、情報処理学習施設2室を所有し、外国語学部の収容定員とほぼ同等である、現行の国際コミュニケーション学部の2022年度教室稼働率は、前期で35.3%、後期で32.6%である。（「2022年度 国際コミュニケーション学部 教室使用状況」（資料11）参照）

前述の教室以外にも、共同研究室2室、多目的室1室、日本語教育センター・教職センター1室、セルフアクセスセンター1室、学生控え室1室、ロッカー室1室を整備していることから、外国語学部の教育活動を行う上での校舎等施設は十分に確保しているといえる。セルフアクセスセンターは、語学の自習スペース（日本語の使用は禁止されている。）で、学生はパソコンや教材で語学を自習する他、外国人教員や学生と自主的に会話することができ、外国語学部が目指す「対話と実践」を象徴する場所である。

また、講師以上のすべての専任教員には個人研究室が設けられており、学生への教育指導や機密情報等プライバシーに配慮した環境を整えている。

ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画

A. 図書等の資料整備計画

本学図書館は、星が丘キャンパスの「中央図書館」と、日進キャンパスの「日進図書館」の2館があり、それぞれのキャンパスに設置された学部の特性に合わせた蔵書が整備されている。両館は、有機的に一つの大学図書館を形成しており、本学学生、教職員は、どちらの図書館も利用することが可能であり、さらなる教育研究の向上に資するとともに、地域社会との連携を推進し、広く学術の発展に寄与している。

(a) 図書資料（電子書籍を含む）

本学図書館の図書総冊数（2023年3月末）は、以下のとおりである。

	内国書	外国書	計
中央図書館	294,951冊	80,788冊	375,739冊
日進図書館	68,154冊	16,796冊	84,950冊
計	363,105冊	97,584冊	460,689冊

上記のうち、外国語学部のカリキュラムに沿った専門図書（言語（英語、音声、語源他）、コミュニケーション、文学理論・作法、芸術史、哲学、歴史等）は、内国書40,923冊、外国書18,460冊を所蔵しており、本学としては、既存の資料を有効活用しつつ、これまでの基本的な整備計画を踏襲し、毎年一定程度購入することで、内外の図書を充実させる。また、電子書籍についても、プラットフォームとして、和書（Maruzen eBook Library、KinoDen）、洋書（ProQuest Ebook Central）が整備されているので各プラットフォームで閲覧できるタイトル数の増加を進めていく。

(b) 学術雑誌、電子ジャーナル、データベース

本学図書館の学術雑誌の累積所蔵種数、電子ジャーナル及びデータベースの契約数（2023年3月末）については、以下のとおりである。

	学術雑誌		電子ジャーナル		データベース	
	内国	外国	内国	外国	内国	外国
中央図書館	1,528種	692種	3種	29種	17種	7種
日進図書館	188種	158種				
計	1,716種	850種				

学術雑誌については、上記のうち、外国語学部に関連した代表的なものは以下のとおりである。（内国13種、外国24種）

The English journal、フランス、異文化コミュニケーション、英語教育、演劇学論集：紀要、現代思想、多文化関係学、日本コミュニケーション研究、日本語の研究、日本語学、日本歴史、悲劇喜劇、歴史学研究、African American review、“American literature：a journal of literary history, criticism, and bibliography”、American quarterly、American speech：a quarterly of linguistic usage、“Asian Englishes：an international journal of the sociolinguistics of English in Asia/Pacific”、Canadian literature、Cognitive linguistics、Communication education、Communication monographs、“Communication teacher：ideas & strategies for classrooms and activities”、Der Spiegel、“Deutsche Vierteljahrsschrift für Literaturwissenschaft und Geistesgeschichte”、English today、English world-wide：a journal of varieties of English、Feminist studies：FS、Gender, place and culture：a journal of feminist geography、Journal of applied communication research：JACR、Journal of intercultural communication research、Journal of multilingual and multicultural development Reprint ed、“Journal of pragmatics：an interdisciplinary quarterly of language studies”、Language：journal of the Linguistic Society of America、Language in society、“MELUS：Society for the Study of the Multi-Ethnic Literature of the United States”、Publication of the American Dialect Society

電子ジャーナルについては、上記のうち、外国語学部に関連した代表的なものは以下のとおりである。

Journal of sociolinguistics、TESOL journal、TESOL quarterly、“World Englishes：WE：journal of English as an international and intranational language”

データベースについては、新聞記事検索サービスとして、朝日新聞クロスサーチ、中日新聞・東京新聞記事データベース、日経テレコンがあり、雑誌記事（論文）検索サーチは、CiNii、MAGAZINEPLUS、日経BP記事検索サービス、Academic Search premier (EBSCO)、JSTOR Arts & Sciences I, IV Collection、ルーラル電子図書館、医中誌Web、Learn Tech Lib：AACE Digital Library等、国内のみならず海外の検索サービスも複数提供している。その他、

インターネット辞書検索サービスのJapanknowledge、法令検索のためのデータベース等を提供している。

なお、これらの資料は、学内ネットワーク環境があれば、いつでもアクセス可能となっており、一部資料については、国立情報学研究所の認証システム「学認」を経由し、学外からの利用も可能となっており、教育研究に支障のない利用環境を整備している。

(c) 視聴覚資料

本学図書館の視聴覚資料の所蔵数（2023年3月末）については、以下のとおりである。

	視聴覚資料
中央図書館	17,981点
日進図書館	2,567点
計	20,548点

B. 図書館の整備計画

(a) 図書館施設・環境

本学図書館の施設詳細（2023年3月末）は、以下のとおりである。

	面積	席数	PC台数	
			検索性PC	ノート・タブレット
中央図書館	3,202㎡	448席	20台	50台
日進図書館	643㎡	156席	6台	20台
計	3,845㎡	604席	26台	70台

本学の文献検索システムについては、OPACが稼働しており、図書館の内外からアクセスが可能である。図書館のサービスカウンターには、常時職員を配置し、教員や学生に対してきめ細やかなサービスを提供できる環境が整備されている。

また、両館とも、館内に無線LAN環境が整備され、学生は自己所有のノートPC等を持ち込み利用することが可能であることはもちろんのこと、ノートPC、タブレットPCの館内貸出を行っており、デジタル環境が充実している。

中央図書館では、2014年4月にラーニングコモンズ（iサークルと呼称）の設置・運営が開始され、グループワークや個人利用などの多様な学びのスタイルに対応できる閲覧施設が整備されている。

(b) 教育研究促進

本学図書館では、教育研究を促進するサービスとして、図書館ガイダンスを実施し、教員と連携した学術情報リテラシー教育支援を行っている。特に大学1年次では、入門コースとして全員が図書の見つけ方を初年次ゼミの授業の一環で学修している。また、2年次以降は、専門コースとしてそれぞれの教員や学生の要望に合わせたガイダンスを実施している。図書館ガイダンスの実施状況（2022年度）は、以下のとおりである。

	件数	人数	人数／在籍者数
1年生	78	1,415	104%
2年生	23	324	23%
3年生	25	276	19%
4年生	3	30	2%

(c) 他大学図書館等との連携・協力

大学図書館として根幹的なシステムである国立情報学研究所のNACSIS-CAT/ILLに参加し、書誌／所在データ登録、文献複写、相互貸借等の大学間協同利用を進めている。

電子リソースの安定的・継続な提供確保のため、大学図書館コンソシアム連合（Japan Alliance of University Library Consortia for E-Resources：JUSTICE）に加盟し、電子ジャーナル等の大学間共同購入を行っている。

また、オープンアクセスリポジトリ推進協会（Japan Consortium for Open Access Repository：JPCOAR）の参加機関となり、機関リポジトリ運営やオープンアクセスによる大学間情報共有や協力関係に努めている。

さらに日本図書館協会、私立大学図書館協会、国公立大学図書館協力委員会、東海地区図書館協議会、東海地区大学図書館協議会等に加盟しており、図書館の相互利用環境の整備を推進している。

⑮ 管理運営及び事務組織

⑮-1 全学の管理運営

相山女学園大学に関する重要事項を審議するために、相山女学園大学学則第73条に基づき、学長の諮問機関として大学協議会を設置している。大学協議会は、学長、学部長、研究科長、各学部の教授2名、図書館長、学長補佐、各センター長から組織され、学長の諮問に応じて、原則として月1回開催し、学則その他重要な規程類の制定改廃に関する事項、学生の厚生補導及びその身分に関する事項などについて審議を行っている。

また、相山女学園大学の理念、目的を実現するため、大学改革、教学マネジメント、社会連携・貢献、国際化の推進等の大学運営に関する課題を全学的視点で速やかに解決することを目的として、学長の下に大学運営会議を設置している。大学運営会議は、学長、学長補佐、学部長、総務部長、企画広報部長及び学務部長から組織され、原則として月2回開催し、学部間の連絡調整に関する事項、本学の中長期計画の策定、実行及び検証に関する事項などについて審議を行っている。

⑮-2 学部の管理運営

相山女学園大学学則第69条に基づき、各学部に教授会を設置している。教授会は、学部の教授、准教授及び専任の講師から組織され、学部長が招集し、議長となり、原則として月1回開催する。教授会は、学生の入学及び卒業に関する事項、学位の授与に関する事項、教育課程及び授業に関する事項、教員の教育、研究及び社会貢献に係る評価に関する事項について、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとしている。また、学則その他重要な規程類の制定及び改廃に関する事項、教員人事に関する事項など、学長等がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに

応じ、意見を述べるができることとしている。

⑮-3 教授会以外の管理運営

教授会以外では、学部内に学部運営委員会（学部長1名、学部主任2名、事務室長1名で構成。）を設け、学部の運営にあたる他、学科の教員で構成する学科会議、学部運営委員会に教務委員等の教員を加えた教育内容検討会議を設け、組織的な管理運営を行う。また、学部の教員は教務委員会、学生委員会、入試に関する委員会等に配置され、学部と各種委員会との調整を図る。

⑮-4 事務組織

事務組織は総務部、企画広報部、財務管財部、学務部の4部及びその下に属する13課から組織され、教育研究活動等の運営を組織的かつ効果的に行うよう、教員及び事務職員等相互の適切な役割分担の下での教職協働や組織的な連携体制を確保している。各学部には学部事務室があり、外国語学部でも学部事務室の事務職員が、教員・学生をサポートする。また、本学部では留学する学生が多数見込まれることから、国際交流センターとも連携して留学を推進する。

⑯ 自己点検・評価

ア 実施方法

本学における自己点検・評価は、教育理念、教育目的を実現し、その使命を果たすため、教育、研究、社会貢献等の諸活動を恒常的に改善し、質の向上を図るとともに、社会への説明責任を果たすことを目的として内部質保証に関する方針を定め、その方針の下、本学が定める3つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）等の各種方針に照らして、構成員レベルや担当部署別の組織レベルにおいて行い、さらに、それらを踏まえて行う全学レベルの三段階で毎年行っている。

自己点検・評価及び認証評価の評価対象は、教育活動に関する事項、研究活動に関する事項、社会貢献に関する事項、大学運営に関する事項、その他自己点検・評価及び認証評価に関する重要事項とし、自己点検・評価の結果は「点検・評価報告書（大学年報）」として取りまとめている。

また、2021年度から、本学における自己点検・評価の結果の妥当性及び客観性を高めるため、3年に1度のサイクルで各学部・研究科及び大学全体レベルで、学外の第三者による立場からの外部評価を行っている。

イ 実施体制

本学における内部質保証に関する方針の下、学長の指示（必要に応じて開催する自己点検・評価に関する説明会）に基づき自己点検・評価を行い、各学部・研究科又は各センター、各種委員会等の組織ごとに自己点検・評価報告書を作成する。その報告書は、内部質保証推進体制での責任組織である内部質保証推進機構（以下、「推進機構」という。）の下部組織である全学自己評価委員会及び全学自己点検委員会において、まず全学的な観点で点検・評価し、全学的な点検・評価報告書に取りまとめ、実施状況の把握と認識、課題の抽出、改善に向けた方策の計画性や妥当性等の検証を行い、その結果を反映した点検・評価報告書を推進機構に上程する。推進機構は、その2つの下部組織で取りまとめられた全学的な自己点検・評価結果等について、学長の諮問機関であり、大学・大学院の最終決議機関である大学協議会を通じて学長に報告している。

ウ 結果の活用・公表

学長は、大学協議会で報告された全学的な自己点検・評価等の結果に基づき、各担当部署の長に対してその報告及び業務改善の指示を行う。それを受けた各担当部署の長は業務改善計画を作成し学長に提出するとともに、次年度の改革アクションプランや事業計画に反映するなど、その改善に努めている。

また、その改革アクションプランや事業計画への反映については、毎年行う自己点検・評価結果だけに留まらず、在学生に対して実施している入学時意識調査、卒業時総合満足度調査、コンピテンシーテスト等の各種調査結果も踏まえ、全学的な内部質保証への取組みを推進している。

このように学外の第三者による外部評価結果を含めた自己点検・評価結果は「点検・評価報告書(大学年報)」として冊子にまとめて発刊し、関係部署に配付しており、そのデータは大学のホームページ(→ <https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/valuation/self/>)でも公開している。

エ 評価項目

自己点検・評価にあたっての項目については、2021年3月12日付けでその大学基準に適合していると第3期認証評価の認定を受けた財団法人大学基準協会の大学評価システムに沿って、次の10の項目において、評価の視点を設定し、それに照らして点検・評価している。

- | | | | |
|--------------|-------------|-----------|--------------|
| 1. 理念・目的 | 2. 内部質保証 | 3. 教育研究組織 | 4. 教育課程・学習成果 |
| 5. 学生の受け入れ | 6. 教員・教員組織 | 7. 学生支援 | 8. 教育研究等環境 |
| 9. 社会連携・社会貢献 | 10. 大学運営・財務 | | |

オ 学部としての自己点検・評価

本学部においては、教授会が内部質保証の責任主体となり、実質的な点検・評価の作業は学部運営委員会と教育内容検討会議が担当する。前身の国際コミュニケーション学部では、教育活動、研究活動、社会貢献、大学運営などの諸活動について、学部全体としてはおおむね点検・評価は行われているものの、それは教員ごとの諸活動の総括について十分にPDCAサイクルが十分効率的に機能していない面もあり、この面での改善に取り組む必要がある。

また、第三者評価については2021年度から学部・研究科及び大学全体で3年に一度の外部評価を実施しており、前身の国際コミュニケーション学部では2023年度に外部評価委員会を組織し、実施する。外国語学部についても2026年度の実施を予定しており、学部における内部質保証のための具体的活動としていく。

⑰ 情報の公表

教育研究活動等の情報公開については「椙山女学園Webページによる情報公開ガイドライン」に則り、椙山女学園大学ホームページの以下のサイトにて公表している。

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/disclosure/>

また、冊子として「大学案内」を毎年作成し、大学の情報を分かりやすく公開している。

ア 大学の教育研究上の目的及び3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)に関すること

A. 教育研究上の目的

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/feature/>

本学の教育理念「人間になろう」を主軸とした教育目的や、学則に基づいた人材養成について情報、他、学園のめざす教育など、本学の特色についても掲載している。

B. 3つのポリシー

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/policy/>

本学や各学部・大学院の掲げる3つのポリシーについて紹介している。

イ 教育研究上の基本組織に関すること

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/gakuen/about/organ/chart-g/#headline-1422931125>

大学の組織図の他、事業計画・事業報告も公開している。

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

A. 教員組織、教員の数

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/info/number/#headline-1421741255>

各学部・学科・研究科の職位ごとの教員数の他、教員一人当たりの学生数も掲載している。

B. 教員が有する学位及び業績

<https://success.sugiyama->

[u.ac.jp/teacher/index.php?_ga=2.210371285.1507724829.1669274069-1961074943.1652425150](https://success.sugiyama-u.ac.jp/teacher/index.php?_ga=2.210371285.1507724829.1669274069-1961074943.1652425150)

「学位」及び「業績」の他、「専門分野」「研究テーマ」なども公表している。

エ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

A. 入学者に関する受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/policy/>

3つのポリシーとして掲載している。

B. 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/info/number/>

上記の他、標準修業年限卒業率、留年率、退学率も掲載している。

C. 進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/2022shushokushingaku.pdf>

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/career/>

上段は進学者数及び就職者数、下段には就職実績や主な就職先、サポート状況も掲載している。

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

教育課程編成・実施の方針、授業時間、シラバス、履修の手引を掲載している。

A. 授業科目

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/campus/study/course/>

「履修の手引」として授業科目の他、カリキュラム・マップやナンバリング、履修モデル、卒業認定などを公表している。

B. 授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画

<https://gear.sugiyama->

[u.ac.jp/SyllabusDisp/SyllabusDispCond.aspx?_ga=2.242495042.1507724829.1669274069-](https://gear.sugiyama-u.ac.jp/SyllabusDisp/SyllabusDispCond.aspx?_ga=2.242495042.1507724829.1669274069-)

[1961074943.1652425150](https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/2022_sogomanzoku.pdf)

シラバスとして授業テーマ、到達目標、育成する能力、授業内容、授業計画、評価方法と成績基準、事前・事後学習などを公開している。

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

A. 学修の成果に係る評価

https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/2022_sogomanzoku.pdf

毎年度、卒業時に実施している学生総合満足度調査結果による評価を公表している。

B. 卒業の認定に当たっての基準

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/campus/study/course/>

「履修の手引」に卒業に必要な単位数を記載するとともに、卒業認定・学位授与の方針として記載している。

C. 修了の認定に当たっての基準

https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/assets/docs/2021_in_gakuiironbun.pdf

上記の「履修の手引」に加え、大学院の学位論文等審査基準（評価基準）について公開している。

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/disclosure/>

ホームページの施設・センター、キャンパスマップ、図書館、クラブ・サークルを上記にまとめて公開している。

ク 授業料、入学金その他の大学が徴収する費用に関すること

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/campus/fees/burse/>

大学が徴収する費用を学費として掲載している。

ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/campus/>

ホームページ内の奨学制度、生活支援、保険制度、学修・生活指導教員制度、健康・生活管理（医務室、学生相談室）等をまとめて掲載している。

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/career/>

就職・資格に関する情報を公開している。

コ その他

A. 学則等規程

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/disclosure/>

I. 大学の教育研究上の目的内に掲載

B. 学部・学科の設置計画・履行状況

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/info/academics/>

設置計画・履行状況について掲載

C. 自己点検・評価報告書

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/valuation/self/>

自己点検・評価報告書の他、内部質保証に関する方針等を掲載

D. 認証評価結果

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/valuation/certific/>

大学基準協会による大学評価結果を掲載

E. 研究成果・学術機関リポジトリ

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/research/result/>

学園研究費など学内競争的研究費の成果及び本学において作成された研究・教育成果、学部作成の紀要等を公開するために学術機関リポジトリを公開している。

⑩ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

⑩-1 大学全体のFD活動

本学では、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するため、全学FD委員会を設置している。委員は、学長補佐、各学部のFD委員会の委員各1名及び学長が指名する者若干名をもって構成し、FDに関する業務（①企画・立案、②必要な研究調査、③学部間の連携及び調整、④研究会、講演会、教員研修等、⑤大学間の連携等に関する事項等）を行っている。具体的な取組は次のとおりである。

ア 授業アンケートの実施

毎年度、前期末及び後期末に、専任教員は原則各2科目、非常勤講師は原則全科目を対象として、授業アンケートを実施している。各教員には、集計結果に対するリフレクション（教員コメント）の作成を義務付けており、授業内容の改善につながるような仕組みを整えている。集計結果と教員コメントは学内ポータルサイトで公開している。

イ FD研修の実施

FD研修としては、FD研修会及び新任教員研修（学内・学外）を実施している。

FD研修会は、毎年度秋に1回、全専任教員（及び事務職員希望者）を対象として、授業改善、アクティブラーニングの推進等に資する内容の講演を実施している。

新任教員研修（学内）は、毎年度4月に、各学部の新任教員全員を対象として、学部ごとに策定した新任教員研修プログラムに基づき、大学の沿革、学部学科の教育理念・特色、3つのポリシー、カリキュラム等について説明を行っている。

新任教員研修（学外）は、毎年度、新任教員のうち前職において大学の学部所属ではない（授業担当経験のない）者を対象として、学外のFD研修プログラムに参加させ、シラバス作成、授業設計・実践、授業でのICTや著作権などのスキルや知識の獲得をさせている。

ウ 教員の教育・研究活動に関する自己点検

毎年度末に、専任教員は「教育」及び「研究」について自己点検し、当該年度の振り返りと翌年度の目標を所定シートに入力することとしている。公開可とした教員分は、学内ポータルサイトで公開し、教員間の情報共有を図っている。

エ シラバスの改善

シラバスの記載内容が当該学部のカリキュラム方針に基づき、学生にとってわかりやすく適切に記載されているかについて、毎年度1月末に、学部の専門教育科目は各学部の教育内容検討会議において、教養教育科目は教養教育機構長・科目長により、確認・点検を実施している。修正の必要が

ある場合には、各授業担当教員に修正を依頼している。

⑩-2 外国語学部のFD活動

全学FD委員会とともに、各学部に学部FD委員会が設置されている。外国語学部の前身となる国際コミュニケーション学部では、2022年度の学部FDとして、学生への各種アンケートで頻繁に「授業の課題が多い」との回答が挙がることから、学生への効果的な課題の出し方を教員間で検討している。外国語学部でも同様に学部FDを推進し、教育の質向上を図る。

⑩-3 大学全体のSD活動

大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため事務職員のSDについては、椋山女学園SD委員会において、SDの企画、実施及び検証を行っている。2020年度には、椋山女学園事務職員行動指針、椋山女学園事務職員研修要綱及び学校法人椋山女学園事務職員の採用・昇任に関する要項に基づく人材育成のイメージ「椋山女学園事務職員の人材育成全体イメージ図」を作成し、可視化、共有化を図った。また、2021年度には5年間のSD研修計画を立案し、年1回、全事務職員を対象としたSD研修会を実施している。この他、人事課が計画する、階層別研修、業務別研修等は、対象者を抽出して実施し、自己研修については、必要経費の補助を行っている。

また、全教職員の受講を必須としたSD研修として、2001年度からハラスメント防止講演会を毎年1回実施し、ハラスメントの防止に努めている。

各年度の始めには「学長メッセージ」として、学長又は学長補佐から、当該年度のアクションプランの説明等の行動目標が示され、全教職員が情報を共有し、実行できるようにしている。2012年度からは、毎年3月に、本学の現状や課題、高等教育政策等について理解を深め、教職員が一体となって教育改革を推進していくことを目的とした教職員SD勉強会を開催している。

⑩-4 外国語学部のSD活動

前身の国際コミュニケーション学部では、2021年度には外部の専門家を招聘して、学部独自のハラスメント防止研修会を実施して、特に職員間、職員と学生間のメールの往復をめぐる問題に注意喚起を行った。外国語学部においても、適宜、こうした研修会を開催するなどして、ハラスメントの防止に努める。

⑪ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

ア 教育課程内の取組について

本学は「トータルライフデザイン教育」をコンセプトとして「全学教育」「学部・学科教育」「キャリア育成センターでのプログラム」を融合させ、自ら考え判断できる女性として、主体的に組織を支え、地域と関わり、社会に貢献できる力を育むための教育を実践している。

社会的・職業的自立を図るための教育課程内での取り組みについては、全学共通科目として、「人間論」（1年次必修科目）で、自身のキャリアについて考えるキャリアデザインの内容を実施するほか、教養教育科目では本学独自の特色ある領域として設置した領域7「トータルライフデザイン」に、「ワークキャリアデザイン」「ビジネススキル入門」「ジェンダー論入門」「思考のスキル入門」「AI・データと社会」「キャリア形成実習Ⅰ・Ⅱ」「ファーストイヤーゼミ」「生活と防災」の9科目を設ける。

また、学部・学科教育として、各学部・学科の専門教育科目の一部を、「生涯キャリア科目群」「生活領域キャリア科目群」「実践キャリア科目群」に大別したキャリア教育科目として指定し、一部を全学部に開放するなどして、学生に履修を推奨している。

特に、教養教育科目「ワークキャリアデザイン」においては、一部でキャリア育成センター職員が講師を務めるなど科目運営にキャリア育成センターが連携しており、教育課程内の取組と教育課程外の取組が有機的に繋がるよう工夫している。

このほか、人材バンク制度として、様々な分野で活躍する卒業生や学部学科の専門性や卒業後の進路に関連する業界や企業人の方を登録し、学部の授業やキャリア支援の場においてゲストスピーカーとして招聘することにより、学生へ最新の情報提供を行っているほか、ディスカッション・グループワーク、意見交換などを積極的に取り入れ、社会人基礎力の育成を図っている。

外国語学部では、4年間を通じて国際キャリア科目の「国際キャリアデザインA～G」及び「社会関与プロジェクトA～F」を受講できる。本学部の教育課程の講義科目で得た能力を実践的な力へと昇華し、ワークキャリアの基礎力を準備するプログラムである。

イ 教育課程外の取組について

社会的・職業的自立を図るための教育課程外の取組みとしてはキャリア育成センターが中心となって、全学の学生に対して各種のキャリア・就職支援を行っている。

キャリア育成センターは、学生の入学から卒業（就職）まで長期的なビジョンに立った対策・支援を提供し、学生一人ひとりが自身の適性を見極めながら、段階を追ってキャリア形成ができるよう留意している。

具体的には、1・2年次では明確な職業観・勤労観に繋がることを目標とする情報提供やプログラム、3・4年次では就職活動に合わせてガイダンス・説明会、学内企業説明等を開催している。また、求人情報の提供、U・Iターン情報等を行っている。こうした取り組みのほか、キャリアカウンセラーの資格を有する専門的スタッフによる個人面談体制を整備し、学生の個々の状況を踏まえた支援を重視し、総合的な就職支援策を展開している。

ウ 適切な体制の整備について

本学では、キャリア教育及びキャリア・就職支援を連携して実施し、学生のキャリア形成及び就職、進路支援の充実に寄与することを目的としたキャリア育成センターを設置している。キャリア育成センターに「キャリア育成センター運営委員会」を置き、センター長、副センター長の他、各研究科及び学部から選出された教員、外部有識者であるキャリアコーディネーター及び教務部門、キャリア支援部門の事務職員をもって構成し、全学としての方針の決定を行っている。なお、キャリア育成センターにキャリア教育及びキャリア・就職支援の所管事務局としてキャリア支援課を置いている。キャリア教育については本学においてキャリア教育に充当する科目が共通科目、教養教育科目、専門科目と幅広く配置されていることから、同科目群の所管事務局である教務課と連携し適切な運用・推進を図っている。

キャリア・就職支援においては、キャリア育成センター運営委員会を通して学部と連携を図るとともに、要支援学生や留学生については、学生相談室、国際交流センターとも連携を図りながら個に応じた支援に留意している。特に4年次においては、学生によって就職の決定等進路の確定に遅速がある点にも十分留意し、就職決定が遅れている学生にも最終的な進路決定まで万全にサポートしていけるように十分配慮している。このように、教員や各部門とキャリア育成センターが連絡を取

り合う形で、支援の万全を期している。

設置の趣旨等を記載した書類(別添資料)

目 次

資料1	英語英米学科の3つのポリシーと教育課程の関係	P. 2
資料2	外国語学部ディプロマ・ポリシーにおける4つの能力	P. 4
資料3	栢山女学園大学学則別表 抜粋	P. 8
資料4	英語英米学科履修モデル	P.16
資料5	国際教養学科履修モデル	P.18
資料6	栢山女学園大学における多様なメディアを高度に利用して行う授業に関する規準	P.21
資料7	編入学生履修モデル	P.22
資料8	2022年度 インターンシップ受け入れ企業一覧	P.27
資料9	栢山女学園大学客員教授に関する規程	P.31
資料10	栢山女学園大学特命教授に関する規程	P.33
資料11	2022年度 国際コミュニケーション学部 教室使用状況	P.35

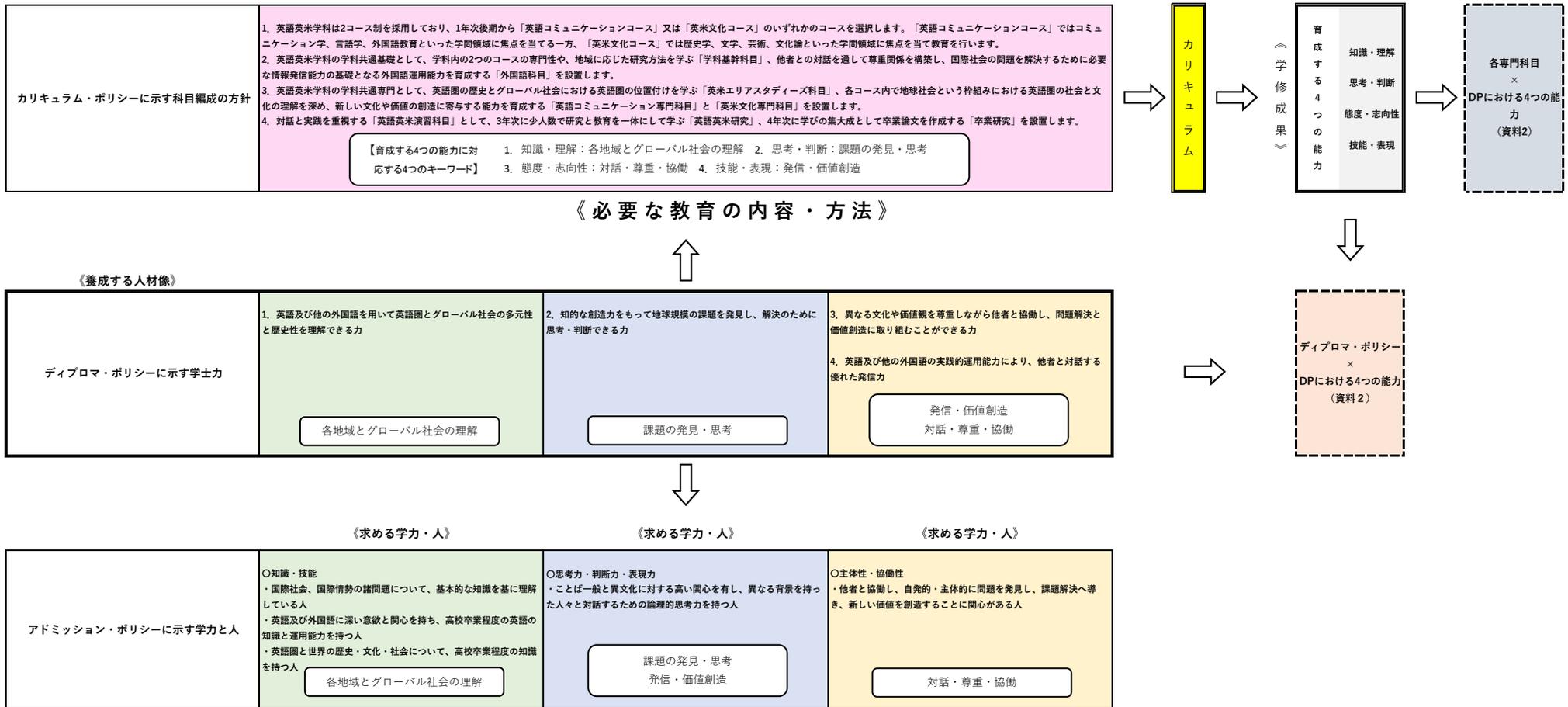


図1 英語英米学科の3つのポリシーと教育課程の関係

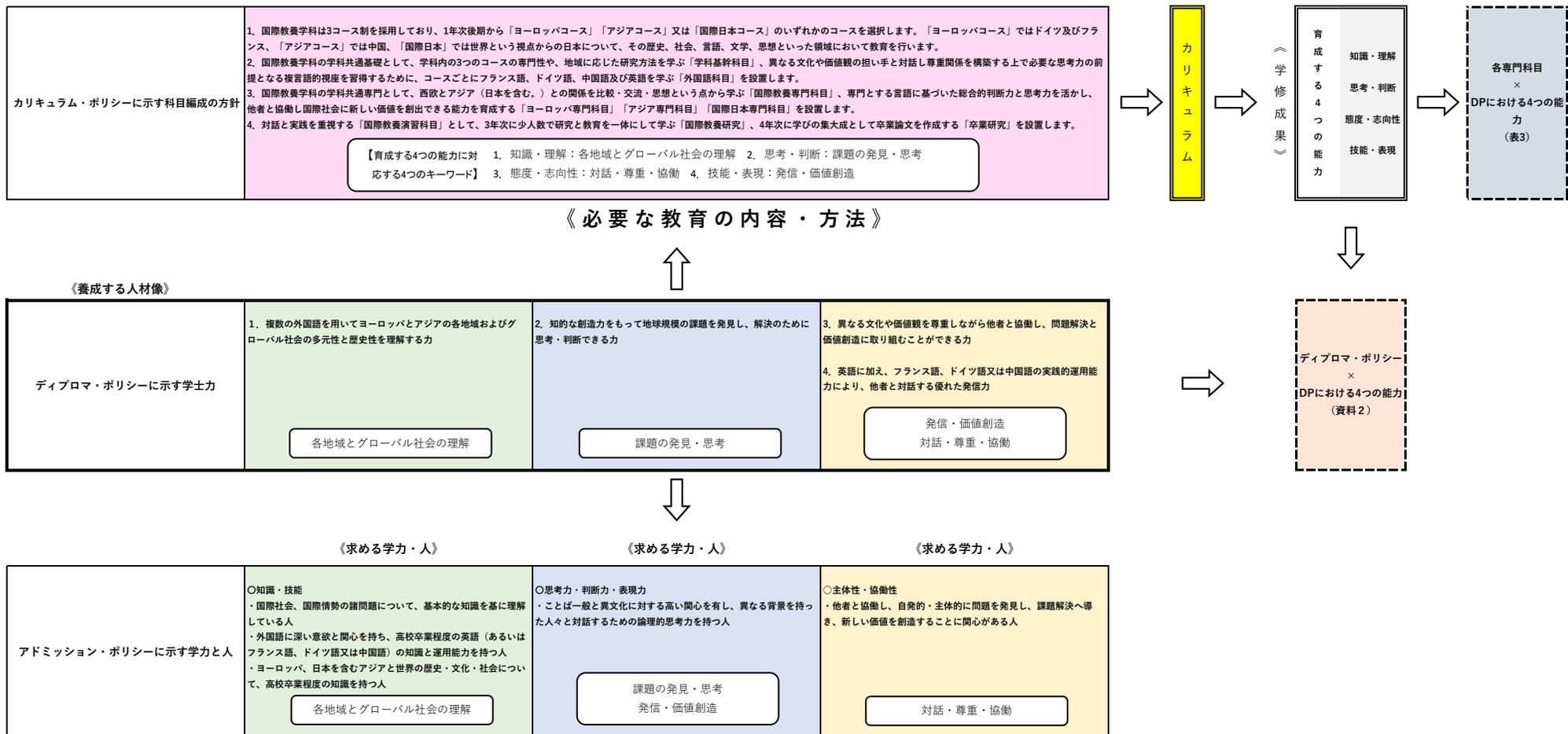


図2 国際教養学科の3つのポリシーと教育課程の関係

【外国語学部】

知識・理解：各地域とグローバル社会の理解①外国語による**理解**

英語圏、ヨーロッパ、日本を含むアジアの諸社会の在り方を再検討し、その多様性について、各地域の外国語を用いることにより経験的知識をもとに理解することができる

②歴史の**知識**

地球社会の多元性とグローバルな人間の歴史について幅広い知識を身につけ、おもに人文学の方法論を用いて理解することができる

③理論の習得による**理解**

国際社会における諸課題について、新しい知見と人文学を中心とする諸基礎理論に基づいて理解することができる

思考・判断：課題の発見、思考、判断①外国語による**思考**

複数の外国語の習得により、多元的な視点、知的な創造力、高い倫理観をもって問題を発見し、解決のために思考できる

②歴史考察による現代社会の**課題を発見**

人間の歴史を批判的に考察し、現代のグローバル社会の問題を発見できる

③アカデミック・リテラシーに基づく**思考と判断**

地球規模の課題をアカデミック・リテラシーの習得により、地域社会と多元性において思考・判断できる

態度・志向性：対話、尊重、協働①外国語による**対話**

「ことば」による対話に強い関心と意欲をもち、異なる文化や価値観、立場の違いを互いに尊重し、協働することができる

②研究**意欲**の涵養

学問と社会のあいだの関係について、経験的・実践的に統合された認識と十分な倫理を具えて、研究に取り組むことができる

③他者の**尊重**、他者との**協働**

他者と協働し、自発的・主体的に問題を発見し、課題解決へ導き、価値創造に取り組むことができる

技能・表現：発信、価値創造①外国語による**発信**

英語、フランス語、ドイツ語、中国語の実践的運用能力により、異なる文化や価値観を尊重しながら、「ことば」を用いて他者と対話する優れた力をもっている

②アカデミック・リテラシーに基づく**創造的な探求**

必要な文献・情報を収集・分析・読解し、また論理的・創造的に自らの見解を形成し、文書および口頭において効果的に研究成果を発信することができる

③**価値創造**と**発信**

学問と実践的な経験の統合によって、新しい価値を思考し、効果的に他者へ発信できる

【英語英米学科】

知識・理解：各地域とグローバル社会の理解

①外国語による理解

英語を用いることにより経験的知識をもとに、英語圏の多元性について理解することができる

②英語圏の歴史と現状についての知識

英語圏の諸社会の在り方を再検討し、覇権国の世界秩序の形成と現状がどのような役割を果たした／果たしているのかを理解できる

③グローバル社会の歴史と現状についての知識

地球社会の多様性とグローバルな人間の歴史について幅広い知識を身につけ、おもに人文学の方法論を用いて理解することができる

④理論による理解

国際社会における諸課題について、新しい知見と人文学および社会科学の諸基礎理論に基づいて理解することができる

思考・判断：課題の発見、思考、判断

①英語による思考

国際共通語としての英語についての広範な知識と複数の外国語習得によって身につく複眼的視座により、さまざま選択肢を思考できる

②英語圏の多様性を理解と課題の発見

英語圏の多様性を理解し、知的な創造力と高い倫理観をもって課題を発見し、解決のために思考できる

③グローバル社会の課題を発見

人間の歴史を批判的に考察し、現代のグローバル社会の問題を発見できる

④アカデミック・リテラシーに基づく思考と判断

地球規模の課題を地域社会と多元性において思考、判断できる

態度・志向性：対話、尊重、協働

①外国語による対話

英語および他の外国語による対話に強い関心と意欲をもち、異なる文化や価値観、立場の違いを互いに尊重し、協働することができる

②研究意欲の涵養

学問と社会のあいだの関係について、経験的・実践的に統合された認識と十分な倫理を具えて、研究に取り組むことができる

③他者の尊重、他者との協働

他者と協働し、自発的・主体的に問題を発見し、課題解決へ導き、価値創造に取り組むことができる

技能・表現：探求、発信、価値創造

①英語による発信

英語および他の外国語の実践的運用能力により、異なる文化や価値観を尊重しながら、「ことば」を用いて他者と対話する優れた力をもっている

②アカデミック・リテラシーに基づく創造的な**探求**

アカデミック・リテラシーに習熟し、必要な文献・情報を収集・分析・読解し、また論理的・創造的に自らの見解を形成し、文書および口頭において効果的に研究成果を発信することができる

③**価値創造と発信**

学問と実践的な経験の統合によって、新しい価値を思考し、効果的に他者へ発信できる

【国際教養学科】

知識・理解：各地域とグローバル社会の理解

①外国語による理解

フランス語・ドイツ語・中国語・英語などを用いることにより経験的知識をもとに、ヨーロッパと日本を含むアジアの多元性について理解することができる

②各地域の歴史と現状についての**知識**

複数の外国語を用いる経験的知識をもとに、グローバル社会の歴史と現状について知識を得る一方、世界／ヨーロッパあるいはアジア／日本、それぞれの相互関係について洞察しつつグローバルな課題を理解することができる

③グローバル社会の歴史と現状についての**知識**

社会の多元性とグローバルな人間の歴史について幅広い知識を身につけ、おもに人文学の方法論を用いて理解することができる

④理論による**理解**

国際社会における諸課題について、新しい知見と人文学の諸基礎理論に基いて理解することができる

思考・判断：課題の発見、思考、判断

①外国語による**思考**

フランス語・ドイツ語・中国語・英語などの習得により、多元的な視点、知的な創造力、高い倫理観をもって問題を発見し、解決のために思考できる

②ヨーロッパとアジアの多様性の理解と**課題の発見**

ヨーロッパと日本を含むアジアの多様性を理解し、知的な創造力と高い倫理観をもって課題を発見し、解決のために思考できる

③グローバル社会の**課題を発見**

人間の歴史を批判的に考察し、現代のグローバル社会の問題を判断できる

④アカデミック・リテラシーに基づく**思考と判断**

地球規模の課題を地域社会と多元性において**思考、判断**できる

態度・志向性：対話、尊重、協働

①外国語による**対話**

「ことば」による対話に強い関心と意欲をもち、異なる文化や価値観、立場の違いを互いに尊重し、協働することができる

②研究**意欲**の涵養

学問と社会のあいだの関係について、経験的・実践的に統合された認識と十分な倫理を具えて、研究に取り組むことができる

③他者の**尊重**、他者との**協働**

他者と協働し、自発的・主体的に問題を発見し、課題解決へ導き、価値創造に取り組むことができる

技能・表現：探求、発信、価値創造

①外国語による**対話**

フランス語、ドイツ語、中国語、英語の実践的運用能力により、異なる文化や価値観を尊重しながら、「ことば」を用いて他者と対話する優れた力をもっている

②アカデミック・リテラシーに基づく創造的な**探求**

必要な文献・情報を収集・分析・読解し、また論理的・創造的に自らの見解を形成し、文書および口頭において効果的に研究成果を発信することができる

③**価値創造と発信**

学問と実践的な経験の統合によって、新しい価値を思考し、効果的に他者へ発信できる

別表第1 (第17条関係)

全学共通科目

授 業 科 目	単位数	備 考
人間論	2	必修

別表第2 (第17条関係)

教養教育科目

外国語学部 英語英米学科

授 業 科 目	単位数	必修	備 考
領域1 思想と表現	哲学	2	
	文学	2	
	芸術	2	
	心理	2	
	言語	2	
	人類学	2	
領域2 歴史と社会	歴史	2	
	法	2	
	日本国憲法	2	
	経済	2	
	社会	2	
	地理	2	
	教育	2	
領域3 自然科学と技術	物理の世界	2	
	化学の世界	2	
	環境の科学	2	
	地球の科学	2	
	生命の科学	2	
領域4 情報と数理	数理の世界	2	
	統計の世界	2	
	コンピュータと情報Ⅰ	2	2
	コンピュータと情報Ⅱ	2	
領域5 言語とコミュニケーション	外国語(英語A)	1	
	外国語(英語B)	1	
	外国語(英語C)	1	
	外国語(英語D)	1	
	外国語(ドイツ語Ⅰ)	1	
	外国語(ドイツ語Ⅱ)	1	
	外国語(フランス語Ⅰ)	1	
	外国語(フランス語Ⅱ)	1	
	外国語(中国語Ⅰ)	1	
	外国語(中国語Ⅱ)	1	
	外国語(ポルトガル語Ⅰ)	1	
	外国語(ポルトガル語Ⅱ)	1	
	外国語(スペイン語Ⅰ)	1	
	外国語(スペイン語Ⅱ)	1	
外国語(ハンブルⅠ)	1		
外国語(ハンブルⅡ)	1		
領域6 健康とスポーツ	健康とスポーツの理論	2	
	健康科学	1	
	スポーツ実習A	1	
	スポーツ実習B	1	
領域7 デジタルライフ	ファーストイヤーゼミ	1	1
	ジェンダー論入門	2	
	生活と防災	2	
	思考のスキル入門	2	
	AI・データと社会	2	
	ワークキャリアデザイン	2	
	ビジネススキル入門	2	
	キャリア形成実習Ⅰ	1	
キャリア形成実習Ⅱ	1		

必修を含め領域1から領域6までのうち5つ以上の領域から14単位以上選択履修

必修を含め3単位以上選択履修

授 業 科 目		単位数	必 修 単位数	備 考		
学部共通科目	学部基幹科目	地球市民論	2	2	必修を含め 28単位以上 選択履修	
	言語リテラシー科目A	Communicative English I A	1	1		
		Communicative English I B	1	1		
		Communicative English I C	1	1		
		Communicative English I D	1	1		
		Communicative English I E	1	1		
		Communicative English II A	1	1		
		Communicative English II B	1	1		
		Communicative English II C	1	1		
		Communicative English II D	1	1		
		Communicative English II E	1	1		
	言語リテラシー科目B	ドイツ語 I A	1	※		※いずれか1言語 6単位必修
		ドイツ語 I B	1			
		ドイツ語 I C	1			
		ドイツ語 II A	1			
		ドイツ語 II B	1			
		ドイツ語 II C	1			
		フランス語 I A	1	※		
		フランス語 I B	1			
		フランス語 I C	1			
		フランス語 II A	1			
		フランス語 II B	1			
		フランス語 II C	1			
		中国語 I A	1	※		
		中国語 I B	1			
		中国語 I C	1			
	中国語 II A	1				
	中国語 II B	1				
	中国語 II C	1				
	言語リテラシー科目C	TOEIC 500 I	2	8単位以上 選択履修		
		TOEIC 500 II	2			
		TOEIC 600 I	2			
		TOEIC 600 II	2			
		TOEIC 700 I	2			
		TOEIC 700 II	2			
		TOEIC 800+	2			
		IELTS I	2			
		IELTS II	2			
		TOEFL iBT I	2			
		TOEFL iBT II	2			
		資格ドイツ語 I	2			
資格ドイツ語 II		2				
資格ドイツ語 III		2				
資格フランス語 I		2				
資格フランス語 II		2				
資格フランス語 III		2				
資格中国語 I		2				
資格中国語 II		2				
資格中国語 III		2				
日本手話 I	2					
日本手話 II	2					
言語アカデミック実践演習科目	言語アカデミック実践演習A	1	1			
	言語アカデミック実践演習B	1	1			

		授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	備 考		
学部 共通科目	学部 共通専門	グローバル イスタ ディーズ 科目	グローバル化論	2	4 単位以上 選択履修	16 単位以上 選択履修	
			グローバル・エシックス	2			
			グローバル・ヒストリー	2			
		コミュニケーション イスタ ディーズ 科目	異文化コミュニケーション論	2	4 単位以上 選択履修		
			言語の機能	2			
			記号とコミュニケーション	2			
		多元文 化科目	多元文化論 A	2	4 単位以上 選択履修		
			多元文化論 B	2			
			多元文化論 C	2			
		海外文化 研修 プログラム	海外文化研修プログラム A	16	2 単位以上 選択履修		
			海外文化研修プログラム B	4			
			海外文化研修プログラム C	2			
	Special Topics in English A		2				
	Special Topics in English B		2				
	Special Topics in German		2				
	Special Topics in French		2				
	Special Topics in Chinese		2				
	国際 キャリア 科目	国際キャリアデザイン A	2	2 単位以上 選択履修			
		国際キャリアデザイン B	2				
		国際キャリアデザイン C	2				
		国際キャリアデザイン D	2				
		国際キャリアデザイン E	2				
		国際キャリアデザイン F	2				
		国際キャリアデザイン G	2				
		社会関与プロジェクト A	2				
		社会関与プロジェクト B	2				
		社会関与プロジェクト C	2				
社会関与プロジェクト D		2					
社会関与プロジェクト E		2					
社会関与プロジェクト F	2						
学部 共通基礎	学科基幹科目	英語英米研究基礎	2	2	必修を含め 8 単位以上 選択履修		
	外国語 科目	Academic English I A	1	1			
		Academic English I B	1	1			
		Academic English I C	1	1			
		Academic English II A	1	1			
		Academic English II B	1	1			
		Academic English II C	1	1			
		Active English A	1				
		Active English B	1				
		English for Academic Purposes Project and Research	2				
		Advanced English A	1				
		Advanced English B	1				
		Advanced English C	1				
		Advanced English D	1				
		学部 共通専門	英語英米 イスタ ディーズ 科目	英語圏近現代史		2	4 単位以上 選択履修
				平和学		2	
				Global Studies		2	
英語 コミュニ ケーション 専門 科目	英語コミュニケーション研究入門		2	※	英語コミュニ ケーションコー スは※印 8 単位 必修を含んで 1 6 単位以上選択 履修		
	Introduction to Intercultural Communication Studies		2				
	言語コミュニケーション論		2	※			
	非言語コミュニケーション論		2				
	異文化トレーニング		2				
	異文化適応論		2				
	異文化理解		2				
	翻訳 A		2				
	翻訳 B		2				
	通訳 A		2				
通訳 B	2						

		授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	備 考
学科共通科目	英語コミュニケーション専門科目	Introduction to Linguistics	2		英語コミュニケーションコースは※印8単位必修を含んで16単位以上選択履修
		社会言語学	2		
		応用言語学	2		
		第二言語習得論	2	※	
		認知言語学	2		
		English for Tourism	2		
		Communication in Business	2		
		Gender Dimension in Media and Communication Studies	2		
		ジェンダーとメディアコミュニケーションA	2		
		ジェンダーとメディアコミュニケーションB	2		
		グローバルコミュニケーション論	2	※	
		東西交流史	2		
		世界の中の中国	2		
		レトリカル・コミュニケーション論	2		
		理論言語学	2		
		研究調査法	2		
		Linguistics	2		
		Intercultural Communication Studies	2		
		Translation Studies	2		
		英米文化専門科目	英米文化研究入門	2	
	世界の英語文学		2	※	
	Introduction to English Literature		2		
	北米文学		2		
	イギリス文学		2		
	英語女性文学		2		
	英語マイノリティ文学		2		
	English Literature		2		
	Gender and Literature		2		
	ポストコロニアル文化論		2		
	イギリス文化論		2		
	スポーツ文化論		2		
	アメリカ映画論		2		
	イギリスの歴史		2		
	北米社会論		2	※	
	英語圏の社会論		2	※	
	植民帝国論		2		
	国際関係論A		2		
国際関係論B	2				
国際関係論C	2				
Introduction to Social and Cultural Studies	2				
Minority Studies	2				
多元文化論 (ヨーロッパ) A	2				
多元文化論 (ヨーロッパ) B	2				
Ecocriticism	2				
英語英米演習科目	英語英米研究A	2	2		
	英語英米研究B	2	2		
	卒業研究A	2	2		
	卒業研究B	2	2		

別表第1 (第17条関係)

全学共通科目

授 業 科 目	単位数	備 考
人間論	2	必修

別表第2 (第17条関係)

教養教育科目

外国語学部 国際教養学科

授 業 科 目	単位数	必修	備 考
領域1 思想と表現	哲学	2	
	文学	2	
	芸術	2	
	心理	2	
	言語	2	
	人類学	2	
領域2 歴史と社会	歴史	2	
	法	2	
	日本国憲法	2	
	経済	2	
	社会	2	
	地理	2	
	教育	2	
領域3 自然科学と技術	物理の世界	2	
	化学の世界	2	
	環境の科学	2	
	地球の科学	2	
	生命の科学	2	
領域4 情報と数理	数理の世界	2	
	統計の世界	2	
	コンピュータと情報Ⅰ	2	2
	コンピュータと情報Ⅱ	2	
領域5 言語とコミュニケーション	外国語(英語A)	1	
	外国語(英語B)	1	
	外国語(英語C)	1	
	外国語(英語D)	1	
	外国語(ドイツ語Ⅰ)	1	
	外国語(ドイツ語Ⅱ)	1	
	外国語(フランス語Ⅰ)	1	
	外国語(フランス語Ⅱ)	1	
	外国語(中国語Ⅰ)	1	
	外国語(中国語Ⅱ)	1	
	外国語(ポルトガル語Ⅰ)	1	
	外国語(ポルトガル語Ⅱ)	1	
	外国語(スペイン語Ⅰ)	1	
	外国語(スペイン語Ⅱ)	1	
外国語(ハンブルグⅠ)	1		
外国語(ハンブルグⅡ)	1		
領域6 健康とスポーツ	健康とスポーツの理論	2	
	健康科学	1	
	スポーツ実習A	1	
	スポーツ実習B	1	
領域7 デジタルライフ	ファーストイヤーゼミ	1	1
	ジェンダー論入門	2	
	生活と防災	2	
	思考のスキル入門	2	
	AI・データと社会	2	
	ワークキャリアデザイン	2	
	ビジネススキル入門	2	
	キャリア形成実習Ⅰ	1	
	キャリア形成実習Ⅱ	1	

必修を含め領域1から領域6までのうち5つ以上の領域から14単位以上選択履修

必修を含め3単位以上選択履修

専門教育科目
外国語学部 国際教養学科

授 業 科 目		単位数	必 修 単位数	備 考		
学部基幹科目	地球市民論	2	2			
	言語リテラシー科目 A	Communicative English I A	1	1		
		Communicative English I B	1	1		
		Communicative English I C	1	1		
		Communicative English I D	1	1		
		Communicative English I E	1	1		
		Communicative English II A	1	1		
		Communicative English II B	1	1		
		Communicative English II C	1	1		
		Communicative English II D	1	1		
		Communicative English II E	1	1		
	言語リテラシー科目 B	ドイツ語 I A	1	※	※ヨーロッパコースはドイツ語又はフランス語から1言語6単位必修	
		ドイツ語 I B	1			
		ドイツ語 I C	1			
		ドイツ語 II A	1			
		ドイツ語 II B	1			
		ドイツ語 II C	1	※	※アジアコースは中国語6単位必修	
		フランス語 I A	1			
		フランス語 I B	1			
		フランス語 I C	1			
		フランス語 II A	1			
		フランス語 II B	1	※	※国際日本コースは中国語6単位必修	
		フランス語 II C	1			
		中国語 I A	1			
		中国語 I B	1			
		中国語 I C	1			
	言語リテラシー科目 C	中国語 II A	1	※	※国際日本コースは中国語6単位必修	
		中国語 II B	1			
		中国語 II C	1			
		TOEIC 500 I	2			8単位以上 選択履修
		TOEIC 500 II	2			
		TOEIC 600 I	2			
		TOEIC 600 II	2			
		TOEIC 700 I	2			
		TOEIC 700 II	2			
		TOEIC 800+	2			
		IELTS I	2			
		IELTS II	2			
		TOEFL iBT I	2			
		TOEFL iBT II	2			
		資格ドイツ語 I	2			
資格ドイツ語 II		2				
資格ドイツ語 III		2				
資格フランス語 I		2				
資格フランス語 II		2				
資格フランス語 III		2				
資格中国語 I	2					
資格中国語 II	2					
資格中国語 III	2					
日本手話 I	2					
日本手話 II	2					
言語アカデミック実践演習科目	言語アカデミック実践演習 A	1	1			
	言語アカデミック実践演習 B	1	1			

必修を含め
28単位以上
選択履修

		授 業 科 目	単 位 数	必 修 単 位 数	備 考		
学部 共通科目	学部 共通専門	ズデバグ 科イタル 目ロース	グローバルゼーション論	2	4 単位以上 選択履修	16 単位以上 選択履修	
			グローバル・エシックス	2			
			グローバル・ヒストリー	2			
		ズデスシニ 科イタヨコ 目ロースミ	異文化コミュニケーション論	2	4 単位以上 選択履修		
			言語の機能	2			
			記号とコミュニケーション	2			
		化多 科元 目文	多元文化論 A	2	4 単位以上 選択履修		
			多元文化論 B	2			
			多元文化論 C	2			
		海外 文化 研修 プログラム	海外文化研修プログラム A	16	2 単位以上 選択履修		
			海外文化研修プログラム B	4			
			海外文化研修プログラム C	2			
			Special Topics in English A	2			
			Special Topics in English B	2			
			Special Topics in German	2			
			Special Topics in French	2			
			Special Topics in Chinese	2			
		国際 キャリア 科目	国際キャリアデザイン A	2	2 単位以上 選択履修		
			国際キャリアデザイン B	2			
			国際キャリアデザイン C	2			
国際キャリアデザイン D	2						
国際キャリアデザイン E	2						
国際キャリアデザイン F	2						
国際キャリアデザイン G	2						
社会関与プロジェクト A	2						
社会関与プロジェクト B	2						
社会関与プロジェクト C	2						
社会関与プロジェクト D	2						
社会関与プロジェクト E	2						
社会関与プロジェクト F	2						
学部 共通基礎	学部 共通基礎	学科基幹科目	国際教養研究基礎	2	2	必修を含め 7 単位以上 選択履修	
		外国 語科目	ドイツ語コミュニケーション I	1	※		※ヨーロッパ コースは いずれ か 1 言語 5 単位 必修
			ドイツ語コミュニケーション II	1			
			ドイツ語 III A	1			
			ドイツ語 III B	1			
			ドイツ語 III C	1			
			ドイツ語 IV A	1	※		
			ドイツ語 IV B	1			
			フランス語コミュニケーション I	1			
			フランス語コミュニケーション II	1			
			フランス語 III A	1			
			フランス語 III B	1	※		
			フランス語 III C	1			
			フランス語 IV A	1			
			フランス語 IV B	1			
			中国語コミュニケーション I	1			
			中国語コミュニケーション II	1	※		
			中国語 III A	1			
			中国語 III B	1			
		中国語 III C	1				
中国語 IV A	1						
中国語 IV B	1						
英語文献読解 (日本論) A	2	※	※国際日本 コースは 4 単位 必修、 かつ、「 ドイツ 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I 」 「 フ ラ ン ス 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I 」 又 は 「 中 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I 」 か ら い ず れ か 1 単 位 必 修				
英語文献読解 (日本論) B	2						

		授 業 科 目	単位数	必 修 単位数	備 考	
学科共通基礎	外国語科目	Active English A	1			
		Active English B	1			
		English for Academic Purposes Project and Research	2			
		Advanced English A	1			
		Advanced English B	1			
		Advanced English C	1			
		Advanced English D	1			
	専門国際教養科目	比較文学概論	2			4 単位以上 選択履修
		漢字文化圏概論	2			
		世界哲学史	2			
		東西交流史	2			
		ヨーロッパ専門科目	ヨーロッパ研究入門	2	※	ヨーロッパ コースは※印 8 単位必修を 含んで 16 単 位以上選択履 修
			世界の中のヨーロッパ	2	※	
			多元文化論 (ヨーロッパ) A	2	※	
			多元文化論 (ヨーロッパ) B	2		
			現代ヨーロッパ社会論	2		
			西洋芸術論	2	※	
			イギリスの歴史	2		
			イギリス文学	2		
			イギリス文化論	2		
	現代思想論		2			
	ドイツの思想と文学		2			
	フランスの思想と文学		2			
	翻訳論	2				
	アジア専門科目	アジア研究入門	2	※	アジアコース は※印 8 単位 必修を含んで 16 単位以上 選択履修	
		アジア交流論	2	※		
		中国の歴史	2	※		
世界の中の中国		2	※			
東洋思想		2				
現代中国論		2				
植民帝国論		2				
多元文化論 (アジア) A		2				
多元文化論 (アジア) B		2				
多言文化論 (アジア) C		2				
東洋文化論		2				
中国文学		2				
国際日本専門科目		国際日本研究入門	2	※		国際日本コー スは※印 8 単 位必修を含ん で 16 単位以 上選択履修
	アジアの中の日本	2	※			
	世界の中の日本	2				
	日本の歴史	2				
	現代日本論	2				
	比較日本文学	2	※			
	Japanese Literature	2	※			
	比較芸術論	2				
	Minority Studies	2				
	クロスカルチュラルスタディーズ	2				
	多元文化論 (日本) A	2				
	多元文化論 (日本) B	2				
	多元文化論 (日本) C	2				
	多元文化論 (日本) D	2				
	Japanese Traditional Culture	2				
	Japanese Contemporary Culture	2				
	Translation Studies	2				
	日本語実践演習 A	2				
	日本語実践演習 B	2				
	国際教養演習科目	国際教養研究 A	2	2		
国際教養研究 B		2	2			
卒業研究 A		2	2			
卒業研究 B		2	2			

必修を含め
38 単位以上
選択履修

英語コミュニケーションコース履修モデル

	1年次配当科目	2年次配当科目	3年次配当科目	4年次配当科目
全学共通	人間論 (前)			
教養教育	領域1		文学 (後)	言語 (後)
	領域2		法 (後)	
	領域3	地球の科学 (後)		
	領域4	コンピュータと情報I (前) コンピュータと情報II (後)		
	領域5			
	領域6		スポーツ実習A (後)	
	領域7	ファーストイヤーゼミ (前)	ジェンダー論入門 (後)	
学部共通	学部基幹	地球市民論 (前)		
	言語リテラシー A	Communicative English IA (前) Communicative English IB (前) Communicative English IC (前) Communicative English ID (前) Communicative English IE (前) Communicative English IIA (後) Communicative English IIB (後) Communicative English IIC (後) Communicative English IID (後) Communicative English IIE (後)		
	言語リテラシー B	中国語IA (後) 中国語IB (後) 中国語IC (後)	中国語IIA (前) 中国語IIB (前) 中国語IIC (前)	
	言語リテラシー C		TOEIC500I (前) TOEIC500II (後)	TOEIC600I (前) TOEIC600II (後)
	言語アカデミック実践演習			言語アカデミック実践演習A (前) 言語アカデミック実践演習B (後)
	グローバルスタディーズ	グローバル・エシックス (前) グローバルイゼーション論 (後)		
	コミュニケーションスタディーズ	言語の機能 (前) 記号とコミュニケーション (後)		
	多元文化	多元文化論B (前) 多元文化論A (後)		
	海外文化研修プログラム		海外文化研修プログラムC	
	国際キャリア		社会関与プロジェクトA (前)	国際キャリアデザインA (前)
学科共通	学科基幹	英語英米研究基礎 (前)		
	外国語		Academic English IA (前) Academic English IB (前) Academic English IC (前) Academic English IIA (後) Academic English IIB (後) Academic English IIC (後)	Advanced English A (前) Advanced English C (後)
	英米エリアスタディーズ	英語圏近現代史 (前)	平和学 (後)	Global Studies (後)
	英語コミュニケーション専門	英語コミュニケーション研究入門 (後)	言語コミュニケーション論 (前) 第二言語習得論 (前) グローバルコミュニケーション論 (前) 社会言語学 (前) English For Tourism (前) 異文化理解 (後) Introduction to Linguistics (後)	異文化トレーニング (前) レトリカル・コミュニケーション論 (前) 研究調査法 (前) Intercultural Communication Studies (前) 非言語コミュニケーション論 (後) Linguistics (後) Translation Studies (後)
	英米文化専門		スポーツ文化論 (後)	アメリカ映画論 (前) イギリスの歴史 (後) 植民帝国論 (後)
	英語英米演習			英語英米研究A (前) 英語英米研究B (後)
			卒業研究A (前) 卒業研究B (後)	

	1年	2年	3年	4年
前期	14コマ・22単位	13コマ・20単位	10コマ・18単位	1コマ・2単位
後期	14コマ・20単位	12コマ・21単位	11コマ・20単位	1コマ・2単位
留学		1コマ・2単位		
通年	28コマ・42単位 (上限44単位)	26コマ・43単位 (上限44単位)	21コマ・38単位 (上限44単位)	2コマ・4単位 (上限44単位)
トータル				77コマ・127単位 (最低126単位)

必修
選択必修
コース必修
自由選択科目扱い

英米文化コース履修モデル

		1年次配当科目	2年次配当科目	3年次配当科目	4年次配当科目
全学共通		人間論 (前)			
教養教育	領域1	言語 (前)	文学 (後)		
	領域2		法 (後)		
	領域3			地球の科学 (後)	
	領域4	コンピュータと情報I (前) コンピュータと情報II (後)			
	領域5				
	領域6		健康とスポーツの理論 (前)		
	領域7	ファーストイヤーゼミ (前)	ジェンダー論入門 (後)		
学部共通	学部基幹	地球市民論 (前)			
	言語リテラシー A	Communicative English IA (前) Communicative English IB (前) Communicative English IC (前) Communicative English ID (前) Communicative English IE (前) Communicative English IIA (後) Communicative English IIB (後) Communicative English IIC (後) Communicative English IID (後) Communicative English IIE (後)			
	言語リテラシー B	中国語IA (後) 中国語IB (後) 中国語IC (後)	中国語IIA (前) 中国語IIB (前) 中国語IIC (前)		
	言語リテラシーC		TOEIC500I (前) TOEIC500II (後)	TOEIC600I (前) TOEIC600II (後)	
	言語アカデミック実践演習			言語アカデミック実践演習A (前) 言語アカデミック実践演習B (後)	
	グローバルスタディーズ	グローバル・エシックス (前) グローバルイノベーション論 (後)			
	コミュニケーションスタディーズ	言語の機能 (前) 記号とコミュニケーション (後)			
	多元文化	多元文化論B (前) 多元文化論A (後)			
	海外文化研修プログラム		海外文化研修プログラムC		
	国際キャリア		社会関与プロジェクトA (前)	国際キャリアデザインA (前)	
学科共通	学科基幹	英語英米研究基礎 (前)			
	学科共通外国語		Academic English IA (前) Academic English IB (前) Academic English IC (前) Academic English IIA (後) Academic English IIB (後) Academic English IIC (後)	Advanced English A (前) Advanced English C (後)	
	英米エリアスタディーズ	Global Studies (後)	英語圏近現代史 (前) 平和学 (後)		
	英語コミュニケーション専門		異文化トレーニング (前)	言語コミュニケーション論 (前) 非言語コミュニケーション論 (後) 翻訳B (後)	
	英米文化専門	英米文化研究入門 (後)	世界の英語文学 (前) 北米社会論 (前) 北米文学 (後) 英語女性文学 (後) ポストコロニアル文化論 (後) 国際関係論B (後)	英語圏の社会論 (前) 英語マイノリティ文学 (前) アメリカ映画論 (前) 国際関係論C (前) English Literature (後) Gender and Literature (後) 植民帝国論 (後) 多元文化論 (ヨーロッパ) B (後)	
	英語英米演習			英語英米研究A (前) 英語英米研究B (後)	卒業研究A (前) 卒業研究B (後)

	1年	2年	3年	4年
前期	14コマ・22単位	13コマ・20単位	10コマ・18単位	1コマ・2単位
後期	14コマ・20単位	12コマ・21単位	11コマ・20単位	1コマ・2単位
留学		1コマ・2単位		
通年	28コマ・42単位 (上限44単位)	26コマ・43単位 (上限44単位)	21コマ・38単位 (上限44単位)	2コマ・4単位 (上限44単位)
トータル				77コマ・127単位 (最低126単位)

必修
選択必修
コース必修
自由選択科目扱い

ヨーロッパコース履修モデル

		1年次配当科目	2年次配当科目	3年次配当科目	4年次配当科目
全学共通		人間論 (前)			
教養教育	領域1		芸術 (前)	言語 (前)	
	領域2	社会 (前)			
	領域3	地球の科学 (後)			
	領域4	コンピュータと情報I (前) コンピュータと情報II (後)			
	領域5				
	領域6		スポーツ実習A (前)		
	領域7	ファーストイヤーゼミ (前)	ジェンダー論入門 (後)		
学部共通	学部基幹	地球市民論 (前)			
	言語リテラシーA	Communicative English IA (前) Communicative English IB (前) Communicative English IC (前) Communicative English ID (前) Communicative English IE (前) Communicative English IIA (後) Communicative English IIB (後) Communicative English IIC (後) Communicative English IID (後) Communicative English IIE (後)			
	言語リテラシーB	ドイツ語IA (後) ドイツ語IB (後) ドイツ語IC (後)	ドイツ語IIA (前) ドイツ語IIB (前) ドイツ語IIC (前)		
	言語リテラシーC		資格ドイツ語I (後) 日本語I (前)	資格ドイツ語II (前) 資格ドイツ語III (後)	
	言語アカデミック実践演習			言語アカデミック実践演習A (前) 言語アカデミック実践演習B (後)	
	グローバルスタディーズ	グローバル・エシックス (前) グローバルイゼーション論 (後)			
	コミュニケーションスタディーズ	言語の機能 (前) 記号とコミュニケーション (後)			
	多元文化	多元文化論B (前) 多元文化論A (後)			
	海外文化研修プログラム		海外文化研修プログラムC		
	国際キャリア		社会関与プロジェクトA (前)		
学科共通	学科基幹	国際教養研究基礎 (前)			
	外国語		ドイツ語IIIA (後) ドイツ語IIIB (後) ドイツ語IIIC (後) ドイツ語コミュニケーションI (前) ドイツ語コミュニケーションII (後)	ドイツ語IVA (前) ドイツ語IVB (後)	
	国際教養専門		比較文学概論 (前) 世界哲学史 (後)		
	ヨーロッパ専門	ヨーロッパ研究入門 (後)	世界の中のヨーロッパ (前) 多元文化論 (ヨーロッパ) A (前) 西洋芸術論 (前) 現代ヨーロッパ社会論 (後) イギリスの歴史 (後)	多元文化論 (ヨーロッパ) B (前) イギリス文学 (前) 現代思想論 (前) フランスの思想と文学 (前) ドイツの思想と文学 (後) 翻訳論 (後)	
	アジア専門		東洋思想 (後) 世界の中の日本 (後) 現代日本論 (後)	東洋文化論 (前) Japanese Traditional Culture (前) 比較芸術論 (後) 多元文化論 (日本) A (後) Japanese Contemporary Culture (後) Translation Studies (後)	
	国際日本専門				
	国際教養演習			国際教養研究A (前) 国際教養研究B (後)	卒業研究A (前) 卒業研究B (後)

	1年	2年	3年	4年
前期	14コマ・22単位	12コマ・20単位	11コマ・20単位	1コマ・2単位
後期	14コマ・20単位	12コマ・20単位	10コマ・18単位	1コマ・2単位
留学		1コマ・2単位		
通年	28コマ・42単位 (上限44単位)	25コマ・42単位 (上限44単位)	21コマ・38単位 (上限44単位)	2コマ・4単位 (上限44単位)
トータル				76コマ・126単位 (最低126単位)

必修
選択必修
コース必修
自由選択科目扱い

アジアコース履修モデル

		1年次配当科目	2年次配当科目	3年次配当科目	4年次配当科目
全学共通		人間論 (前)			
教養教育	領域1	言語 (前)	人類学 (前)		
	領域2			歴史 (前)	
	領域3			地球の科学 (後)	
	領域4	コンピュータと情報I (前) コンピュータと情報II (後)			
	領域5				
	領域6		スポーツ実習A (前)		
	領域7	ファーストイヤーゼミ (前)	ジェンダー論入門 (後)		
学部共通	学部基幹	地球市民論 (前)			
	言語リテラシーA	Communicative English IA (前) Communicative English IB (前) Communicative English IC (前) Communicative English ID (前) Communicative English IE (前) Communicative English IIA (後) Communicative English IIB (後) Communicative English IIC (後) Communicative English IID (後) Communicative English IIE (後)			
	言語リテラシーB	中国語IA (後) 中国語IB (後) 中国語IC (後)	中国語IIA (前) 中国語IIB (前) 中国語IIC (前)		
	言語リテラシーC		資格中国語I (後) 日本手話I (前) 日本手話II (後)	資格中国語II (前) 資格中国語III (後)	
	言語アカデミック実践演習			言語アカデミック実践演習A (前) 言語アカデミック実践演習B (後)	
	グローバルスタディーズ	グローバル・エシックス (前) グローバルイノベーション論 (後)			
	コミュニケーションスタディーズ	言語の機能 (前) 記号とコミュニケーション (後)			
	多元文化	多元文化論B (前) 多元文化論A (後)			
	海外文化研修プログラム		海外文化研修プログラムC		
	国際キャリア		社会関与プロジェクトA (前)		
学科共通	学科基幹	国際教養研究基礎 (前)			
	外国語		中国語IIIA (後) 中国語IIIB (後) 中国語IIIC (後) 中国語コミュニケーションI (前) 中国語コミュニケーションII (後)	中国語IVA (前) 中国語IVB (後)	
	国際教養専門		漢字文化圏概論 (前) 東西交流史 (後)		
	ヨーロッパ専門			世界の中のヨーロッパ (前) 翻訳論 (後)	
	アジア専門	アジア研究入門 (後)	アジア交流論 (前) 中国の歴史 (前) 世界の中の中国 (前) 東洋思想 (後) 植民帝国論 (後)	現代中国論 (前) 多元文化論 (アジア) C (前) 東洋文化論 (前) 多元文化論 (アジア) A (後) 多元文化論 (アジア) B (後) 中国文学 (後)	
	国際日本専門	国際日本研究入門 (後)	アジアの中の日本 (前) 世界の中の日本 (後)	比較日本文学 (前) 現代日本論 (後) 多元文化論 (日本) B (後)	
	国際教養演習			国際教養研究A (前) 国際教養研究B (後)	卒業研究A (前) 卒業研究B (後)

	1年	2年	3年	4年
前期	14コマ・22単位	13コマ・22単位	10コマ・18単位	1コマ・2単位
後期	14コマ・20単位	11コマ・18単位	11コマ・20単位	1コマ・2単位
留学		1コマ・2単位		
通年	28コマ・42単位 (上限44単位)	25コマ・42単位 (上限44単位)	21コマ・38単位 (上限44単位)	2コマ・4単位 (上限44単位)
トータル				76コマ・126単位 (最低126単位)

必修
選択必修
コース必修
自由選択科目扱い

国際日本コース履修モデル

		1年次配当科目	2年次配当科目	3年次配当科目	4年次配当科目
全学共通		人間論 (前)			
教養教育	領域1	言語 (前)			
	領域2		日本国憲法 (前)	法 (後)	
	領域3	地球の科学 (後)			
	領域4	コンピュータと情報I (前) コンピュータと情報II (後)			
	領域5				
	領域6		スポーツ実習A (前)		
	領域7	ファーストイヤーゼミ (前)	ジェンダー論入門 (後)		
学部共通	学部基幹	地球市民論 (前)			
	言語リテラシーA	Communicative English IA (前) Communicative English IB (前) Communicative English IC (前) Communicative English ID (前) Communicative English IE (前) Communicative English IIA (後) Communicative English IIB (後) Communicative English IIC (後) Communicative English IID (後) Communicative English IIE (後)			
	言語リテラシーB	中国語IA (後) 中国語IB (後) 中国語IC (後)	中国語IIA (前) 中国語IIB (前) 中国語IIC (前)		
	言語リテラシーC		資格中国語I (後) 日本手話I (前)	資格中国語II (前) 日本手話II (後)	
	言語アカデミック実践演習			言語アカデミック実践演習A (前) 言語アカデミック実践演習B (後)	
	グローバルスタディーズ	グローバル・エシックス (前) グローバリゼーション論 (後)			
	コミュニケーションスタディーズ	言語の機能 (前) 記号とコミュニケーション (後)			
	多元文化	多元文化論B (前) 多元文化論A (後)			
	海外文化研修プログラム		海外文化研修プログラムC		
	国際キャリア		社会関与プロジェクトA (前)		
学科共通	学科基幹	国際教養研究基礎 (前)			
	外国語		中国語IIIA (後) 中国語IIIB (後) 中国語IIIC (後) 中国語コミュニケーションI (前) 中国語コミュニケーションII (後)	中国語IVA (前) 中国語IVB (後)	
	国際教養専門		漢字文化圏概論 (前) 世界哲学史 (後)		
	ヨーロッパ専門		多元文化論 (ヨーロッパ) A (前) イギリスの歴史 (後)	現代思想論 (前) 翻訳論 (後)	
	アジア専門			東洋文化論 (前) 東洋思想 (後)	
	国際日本専門	国際日本研究入門 (後)	比較日本文学 (前) 日本の歴史 (前) 世界の中の日本 (後) 現代日本論 (後) 比較芸術論 (後) 日本語実践演習A (後)	アジアの中の日本 (前) Japanese Literature (前) Minority Studies (前) 多元文化論 (日本) C (前) Japanese Traditional Culture (前) 多元文化論 (日本) A (後) 多元文化論 (日本) B (後) 多元文化論 (日本) D (後)	
	国際教養演習			国際教養研究A (前) 国際教養研究B (後)	卒業研究A (前) 卒業研究B (後)

	1年	2年	3年	4年
前期	14コマ・22単位	12コマ・20単位	11コマ・20単位	1コマ・2単位
後期	14コマ・20単位	12コマ・20単位	10コマ・18単位	1コマ・2単位
留学		1コマ・2単位		
通年	28コマ・42単位 (上限44単位)	25コマ・42単位 (上限44単位)	21コマ・38単位 (上限44単位)	2コマ・4単位 (上限44単位)
トータル				76コマ・126単位 (最低126単位)

必修
選択必修
コース必修
自由選択科目扱い

椋山女学園大学における多様なメディアを高度に利用して行う授業に関する規準

令和4年大規準第12号
令和4年11月15日制定

(趣旨)

第1条 この規準は、椋山女学園大学学則（昭和43年学則第1号。以下「学則」という。）第19条第2項の規定に基づき行う、「多様なメディアを高度に利用して行う授業（以下「メディア授業」という。）」の円滑な運営及び教育効果の向上を図るため、その実施に関し必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規準において、「メディア授業」とは、教室内外、自宅等のインターネットが利用可能な環境下において、1回の授業の開始から終了までの全時間に渡り、インターネットや学習管理システム（LMS）を用いて動画の視聴、教材の閲覧、課題の提出、テストの実施、ディスカッションなどの学習方法により行う授業をいう。

2 「メディア授業科目」とは、前項に規定するメディア授業が全開講回数の半数を超える授業科目をいう。

(出欠の取扱い)

第3条 メディア授業の出欠席については、シラバスに明記された方法により判断するものとする。

2 メディア授業を含む授業科目の成績評価に係る出席時間数の取扱いについては、椋山女学園大学試験及び成績評価に関する規準（平成11年大規準第21号）第15条の規定に基づき、当該授業科目におけるメディア授業による開講回数にかかわらず、全開講回数の3分の1以上欠席した場合は、その授業科目の学業成績は「失格」とする。

(卒業要件単位数)

第4条 メディア授業科目を履修し修得した単位は、学則第20条第3項の規定に基づき認定する。

(メディア授業科目の申請)

第5条 メディア授業科目の申請は、学部長又は教養教育機構長が所定の様式により、授業実施前年度の12月末までに学長に申請し、大学協議会の承認を得るものとする。

2 各学部・学科等において、カリキュラムを計画する際には学生が無理なく履修計画を立てることができるように配慮するものとする。

(メディア授業科目)

第 条 前条第1項により認められたメディア授業科目は、別表のとおりとする。

附 則

この規準は、令和4年11月15日から施行し、令和5年度以降に実施する授業科目から適用する。

別表 メディア授業科目

開講学部等	授業科目名	適用期間
教養教育科目	AI・データと社会	令和 年4月1日～

英語コミュニケーションコース履修モデル（編入生）

		一括認定	3年次履修科目	4年次履修科目
全学共通			人間論（前）	
教養教育	領域1	14単位		
	領域2			
	領域3			
	領域4			
	領域5			
	領域6			
	領域7	3単位		
学部共通	学部基幹	14単位	地球市民論（前）	
	言語リテラシー A			
	言語リテラシー B			
	言語リテラシー C		TOEIC500I（前） TOEIC500II（後）	TOEIC600I（前） TOEIC600II（後）
	言語アカデミック実践演習		言語アカデミック実践演習A（前） 言語アカデミック実践演習B（後）	
	グローバルスタディーズ	8単位	グローバル・エシックス（前） グローバルイゼーション論（後）	
	コミュニケーションスタディーズ		言語の機能（前） 記号とコミュニケーション（後）	
	多元文化		多元文化論A（後）	多元文化論B（前）
	海外文化研修プログラム			
	国際キャリア		社会関与プロジェクトA（前）	
学科基幹			英語英米研究基礎（前）	
学科共通	外国語	4単位	Academic English IA（前） Academic English IB（前） Academic English IC（前） Academic English IIA（後） Academic English IIB（後） Academic English IIC（後）	
	英米エリアスタディーズ	19単位		英語圏近現代史（前） 平和学（後）
	英語コミュニケーション専門		英語コミュニケーション研究入門（後） 言語コミュニケーション論（前） 第二言語習得論（前） グローバルコミュニケーション論（前）	社会言語学（前） English For Tourism（前） 異文化理解（後） Introduction to Linguistics（後） Linguistics（後）
	英米文化専門			
	英語英米演習		英語英米研究A（前） 英語英米研究B（後）	卒業研究A（前） 卒業研究B（後）

	3年	4年
前期	15コマ・26単位	6コマ・12単位
後期	10コマ・16単位	6コマ・12単位
留学		
通年	25コマ・42単位（上限48単位）	12コマ・24単位（上限48単位）
トータル		37コマ・66単位（最低126単位）

必修
選択必修
コース必修
自由選択科目扱い

英米文化コース履修モデル（編入生）

		一括認定	3年次履修科目	4年次履修科目
全学共通			人間論（前）	
教養教育	領域1	14単位		
	領域2			
	領域3			
	領域4			
	領域5			
	領域6			
	領域7	3単位		
学部共通	学部基幹	14単位	地球市民論（前）	
	言語リテラシー A			
	言語リテラシー B			
	言語リテラシー C		TOEIC500I（前） TOEIC500II（後）	TOEIC600I（前） TOEIC600II（後）
	言語アカデミック実践演習		言語アカデミック実践演習A（前） 言語アカデミック実践演習B（後）	
	グローバルスタディーズ	8単位	グローバル・エシックス（前） グローバルイゼーション論（後）	
	コミュニケーションスタディーズ		言語の機能（前） 記号とコミュニケーション（後）	
	多元文化		多元文化論A（後）	多元文化論B（前）
	海外文化研修プログラム			
	国際キャリア		社会関与プロジェクトA（前）	
学科基幹			英語英米研究基礎（前）	
学科共通	外国語	4単位	Academic English IA（前） Academic English IB（前） Academic English IC（前） Academic English IIA（後） Academic English IIB（後） Academic English IIC（後）	
	英米エリアスタディーズ	19単位		英語圏近現代史（前） 平和学（後）
	英語コミュニケーション専門			
	英米文化専門		英米文化研究入門（後） 世界の英語文学（前） 北米社会論（前） 英語圏の社会論（前）	北米文学（後） 英語女性文学（後） ポストコロナル文化論（後） 国際関係論B（後） 英語マイノリティ文学（前）
	英語英米演習		英語英米研究A（前） 英語英米研究B（後）	卒業研究A（前） 卒業研究B（後）

	3年	4年
前期	15コマ・26単位	5コマ・10単位
後期	10コマ・16単位	7コマ・14単位
留学		
通年	25コマ・42単位（上限48単位）	12コマ・24単位（上限48単位）
トータル		37コマ・66単位（最低126単位）

必修
選択必修
コース必修
自由選択科目扱い

ヨーロッパコース履修モデル（編入生）

		一括認定	3年次履修科目	4年次履修科目
全学共通			人間論（前）	
教養教育	領域1	14単位		
	領域2			
	領域3			
	領域4			
	領域5			
	領域6			
	領域7	3単位		
学部共通	学部基幹		地球市民論（前）	
	言語リテラシーA	14単位		
	言語リテラシーB		フランス語IA（後） フランス語IB（後） フランス語IC（後）	フランス語IIA（前） フランス語IIB（前） フランス語IIC（前）
	言語リテラシーC		資格フランス語II（前） 資格フランス語III（後）	
	言語アカデミック実践演習		言語アカデミック実践演習A（前） 言語アカデミック実践演習B（後）	
	グローバルスタディーズ	8単位	グローバル・エシックス（前） グローバルイノベーション論（後）	
	コミュニケーションスタディーズ		言語の機能（前） 記号とコミュニケーション（後）	
	多元文化		多元文化論A（後）	多元文化論B（前）
	海外文化研修プログラム			
国際キャリア		社会関与プロジェクトA（前）		
学科共通	学科基幹		国際教養研究基礎（前）	
	外国語	4単位		フランス語IIIA（後） フランス語IIIB（後） フランス語IIIC（後） フランス語コミュニケーションI（前） フランス語コミュニケーションII（後）
	国際教養専門	19単位	比較文学概論（前） 世界哲学史（後）	
	ヨーロッパ専門		ヨーロッパ研究入門（後） 世界の中のヨーロッパ（前） 多元文化論（ヨーロッパ）A（前） 西洋芸術論（前）	多元文化論（ヨーロッパ）B（前） イギリス文学（前） 現代ヨーロッパ社会論（後） イギリスの歴史（後）
	アジア専門			
	国際日本専門			
	国際教養演習		国際教養研究A（前） 国際教養研究B（後）	卒業研究A（前） 卒業研究B（後）

	3年	4年
前期	13コマ・25単位	8コマ・12単位
後期	11コマ・18単位	7コマ・10単位
留学		
通年	24コマ・43単位（上限48単位）	15コマ・22単位（上限48単位）
トータル		39コマ・65単位（最低126単位）

必修
選択必修
コース必修
自由選択科目扱い

アジアコース履修モデル（編入生）

		一括認定	3年次履修科目	4年次履修科目
全学共通			人間論（前）	
教養教育	領域1	14単位		
	領域2			
	領域3			
	領域4			
	領域5			
	領域6			
	領域7	3単位		
学部共通	学部基幹		地球市民論（前）	
	言語リテラシーA	14単位		
	言語リテラシーB		中国語IA（後） 中国語IB（後） 中国語IC（後）	中国語IIA（前） 中国語IIB（前） 中国語IIC（前）
	言語リテラシーC		資格中国語II（前） 資格中国語III（後）	
	言語アカデミック実践演習		言語アカデミック実践演習A（前） 言語アカデミック実践演習B（後）	
	グローバルスタディーズ	8単位	グローバル・エシックス（前） グローバルリゼーション論（後）	
	コミュニケーションスタディーズ		言語の機能（前） 記号とコミュニケーション（後）	
	多元文化		多元文化論A（後）	多元文化論B（前）
	海外文化研修プログラム			
	国際キャリア		社会関与プロジェクトA（前）	
学科共通	学科基幹		国際教養研究基礎（前）	
	外国語	4単位		中国語IIIA（後） 中国語IIIB（後） 中国語IIIC（後） 中国語コミュニケーションI（前） 中国語コミュニケーションII（後）
	国際教養専門	19単位	東西交流史（後）	漢字文化圏概論（前）
	ヨーロッパ専門			
	アジア専門		アジア研究入門（後） アジア交流論（前） 中国の歴史（前） 世界の中の中国（前）	現代中国論（前） 多元文化論（アジア）C（前） 東洋思想（後） 植民帝国論（後） 東洋文化論（前） 多元文化論（アジア）A（後）
			国際日本専門	
	国際教養演習		国際教養研究A（前） 国際教養研究B（後）	卒業研究A（前） 卒業研究B（後）

	3年	4年
前期	13コマ・24単位	7コマ・13単位
後期	11コマ・19単位	8コマ・12単位
留学		
通年	24コマ・43単位（上限48単位）	15コマ・25単位（上限48単位）
トータル		39コマ・68単位（最低126単位）

必修
選択必修
コース必修
自由選択科目扱い

国際日本コース履修モデル (編入生)

		一括認定	3年次履修科目	4年次履修科目
全学共通			人間論 (前)	
教養教育	領域1	14単位		
	領域2			
	領域3			
	領域4			
	領域5			
	領域6			
	領域7	3単位		
学部共通	学部基幹		地球市民論 (前)	
	言語リテラシーA	14単位		
	言語リテラシーB		中国語IA (後) 中国語IB (後) 中国語IC (後)	中国語IIA (前) 中国語IIB (前) 中国語IIC (前)
	言語リテラシーC		資格中国語II (前) 資格中国語III (後)	
	言語アカデミック実践演習		言語アカデミック実践演習A (前) 言語アカデミック実践演習B (後)	
	グローバルスタディーズ	8単位	グローバル・エシックス (前) グローバルイノベーション論 (後)	
	コミュニケーションスタディーズ		言語の機能 (前) 記号とコミュニケーション (後)	
	多元文化		多元文化論A (後)	多元文化論B (前)
	海外文化研修プログラム			
国際キャリア		社会関与プロジェクトA (前)		
学科共通	学科基幹		国際教養研究基礎 (前)	
	外国語	4単位		中国語IIIA (後) 中国語IIIB (後) 中国語IIIC (後) 中国語コミュニケーションI (前) 中国語コミュニケーションII (後)
	国際教養専門	19単位	漢字文化圏概論 (前) 世界哲学史 (後)	
	ヨーロッパ専門			
	アジア専門			
	国際日本専門		国際日本研究入門 (後) 比較日本文学 (前) アジアの中の日本 (前) Japanese Literature (前)	日本の歴史 (前) 世界の中の日本 (後) 現代日本論 (後) 比較芸術論 (後)
国際教養演習		国際教養研究A (前) 国際教養研究B (後)	卒業研究A (前) 卒業研究B (後)	

	3年	4年
前期	13コマ・25単位	7コマ・10単位
後期	11コマ・18単位	8コマ・12単位
留学		
通年	24コマ・43単位 (上限48単位)	15コマ・22単位 (上限48単位)
トータル		39コマ・65単位 (最低126単位)

必修
選択必修
コース必修
自由選択科目扱い

No.	企業名	本社住所	本学受入人数
1	MAC & BP ミッドランド税理士法人	愛知県名古屋市中村区名駅3-28-12 大名古屋ビルヂング 21F	2
2	NPO法人 motif	愛知県西春日井郡豊山町豊場中之町19-1	2
3	株式会社アイ・エス・エス	東京都港区南麻布5-2-32 興和広尾ビル 2F	4
4	株式会社アイガ	愛知県名古屋市中村区名駅南1-17-23 ニッタビル9F	10
5	株式会社 I. K. A. インターナショナルキッズアカデミー	愛知県名古屋市中村区広路本町1-28-2	2
6	株式会社 アイテム	大阪府大阪市西区新町1-33-23 アイテム本社ビル	2
7	一級建築士事務所 A X I S	岐阜県各務原市大野町 6-119-5	2
8	社会福祉法人 明知会	愛知県春日井市明知町西追分1030-1	2
9	株式会社朝日工業社 名古屋支店	東京都港区浜松町1-25-7	2
10	株式会社 アメニティホーム	三重県津市栄町1-894-1	3
11	株式会社 アルタ	愛知県名古屋市中区東桜2-22-18 日興ビルディング 8F	18
12	株式会社 イエス	愛知県名古屋市中村区名駅5-5-22 名駅 D H ビル 2 F	若干名
13	株式会社 池下設計 名古屋支店	東京都中野区本町1-32-2 ハーモニー 11F	2
14	株式会社 伊藤建築設計事務所	愛知県名古屋市中区丸の内1-15-15 桜通ビル	2
15	株式会社 伊藤工務店	愛知県名古屋市中川区小碓通2-25	5
16	株式会社 I m a e d a D e s i g n	愛知県名古屋市中区丸の内2-18-32 カサ丸の内402	2
17	株式会社 魚国総本社 名古屋本部	大阪府大阪市西淀川区竹島4-1-28	6
18	株式会社 エイジェック	東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル46F	4
19	エイベックス株式会社	愛知県名古屋市長穂区内浜町26-3	1~3
20	A N A 中部空港株式会社	愛知県常滑市セントレア1-1 第2 セントレアビル2F	6
21	株式会社 A T グループ	愛知県名古屋市中村区高辻町6-8 A T G 南館5F	2
22	S M B C 日興証券株式会社	東京都千代田区丸の内3-3-1	3~5
23	エスパシオエンタープライズ株式会社	愛知県名古屋市中区錦3-23-18 エスパシオビル8F	4
24	株式会社 エスワイシステム	愛知県名古屋市中区代官町35-16 第一富士ビル2F	2
25	株式会社 N H K 文化センター 名古屋総支社	愛知県名古屋市中区東桜1-13-3 NHK名古屋放送センタービル7F	1
26	N T P 名古屋トヨペット株式会社	愛知県名古屋市中区熱田区尾頭町2-22	2
27	株式会社 オープンセサミ・テクノロジー	愛知県名古屋市中村区平池町4-60-12 グローバルゲート22F	10
28	岡崎商工会議所	愛知県岡崎市竜美南1-2	1
29	株式会社 尾張東部放送	愛知県瀬戸市栄町45	3
30	社会福祉法人 恩賜財団愛知県同胞援護会	愛知県春日井市廻間町703-1	3
31	株式会社 オンワード樫山 東海北陸地区採用	東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパルクビルディング	2
32	株式会社 確認サービス	愛知県名古屋市中区栄4-3-26 昭和ビル4階	1
33	株式会社 Calan	愛知県名古屋市中区泉2丁目19-11 キャストビル泉1F	1
34	株式会社 上川	愛知県名古屋市中区勢子坊1-202	1
35	岐建株式会社	岐阜県大垣市西崎町2-46	1
36	キッシーズ株式会社	愛知県名古屋市中区那古野2-7-17	4
37	株式会社 共豊コーポレーション	愛知県名古屋市中区立脇町4-3	4
38	銀座アスター食品株式会社	東京都中央区銀座1-8-16 GINZA ASTER BLD.8F	1
39	株式会社 クイックス	愛知県刈谷市幸町2-2	3
40	株式会社 サカイ引越センター	大阪府堺市堺区石津北町56	3
41	サンレジャン株式会社	愛知県蒲郡市八百富町1-15	20
42	株式会社 C I C	東京都渋谷区道玄坂2-16-4 野村不動産渋谷道玄坂ビル 8F	2
43	株式会社 C & C 設計	愛知県名古屋市中区栄1-22-16 ミナミ栄ビル801	5
44	株式会社 G E クリエイティブ	愛知県名古屋市中区東桜1-9-26 IKKO パークビル3F	4
45	有限会社 C B C 自動車学校	愛知県名古屋市中区山田町上小田井東古川3117	13

No.	企業名	本社住所	本学受入人数
46	J-net レンタリース株式会社	愛知県名古屋市中区錦1-7-28J-SQUARE丸の内	5
47	衆議院議員古川元久事務所	愛知県名古屋市中区千種区内山3-8-16トキビル2F	5
48	特定非営利活動法人 障がい者みらい創造センター	愛知県名古屋市中区松池町1-19	5
49	新日本空調株式会社	東京都中央区日本橋浜町2-31-1浜町センタービル	1
50	株式会社スカイシーズ	愛知県名古屋市中区錦3-2-7錦センタービル3F	3
51	学校法人椋山女学園	愛知県名古屋市中区千種区星が丘元町17-3	4
52	株式会社スズキ自販中部	愛知県名古屋市中区瑞穂区堀田通4-4	1
53	株式会社スターシステム	愛知県名古屋市中村区名駅5-28-1名駅イーストビル5F	6
54	株式会社スタジオアリス	大阪府大阪市北区梅田1-8-17大阪第一生命ビル7F	4
55	スマイロ・アーキテクト・ユニット	愛知県名古屋市中村区大日町1-5 酒井ビル2FB	4
56	住友生命保険相互会社 名古屋すみれい営業部	大阪府大阪市中央区城見1-4-35	2
57	株式会社炭屋旅館	京都府京都市中京区麩屋町三条下ル白壁町431炭屋旅館	1
58	社会福祉法人清翠会 わかすぎ保育園	三重県松阪市嬉野中川町1263-1	2
59	株式会社青電社	愛知県名古屋市中区守山区町南3-1	7
60	公益財団法人瀬戸市文化振興財団	愛知県瀬戸市西茨町113-3	4
61	株式会社総合システムリサーチ	愛知県名古屋市中村区名駅南1-3-18NORE名駅4F	2
62	株式会社創寫館	愛知県知多市八幡荒古後87	2
63	第一生命保険株式会社 名古屋コンサルティング営業室	東京都千代田区有楽町1-13-1	3
64	医療法人社団大樹会 田辺眼科クリニック	愛知県名古屋市中区昭和区円上町24-18	2
65	TAKAMI HOLDINGS株式会社	京都府京都市下京区富小路通五条下ル本塩竈町557-2	4
66	高山信用金庫	岐阜県高山市下一之町63	10
67	宝交通株式会社	愛知県名古屋市中区熱田区神宮4-7-27宝18ビル	2
68	株式会社武市ウインド名古屋	愛知県名古屋市中区守山区苗代1-13-37	5
69	株式会社TAC設計室	愛知県名古屋市中区東区筒井3-17-5	1
70	中央工機株式会社	愛知県名古屋市中区昭和区高辻町4-3	1
71	中日設計株式会社	愛知県名古屋市中区東区筒井2-10-45	4
72	中部スカイサポート株式会社	愛知県常滑市セントレア1-1機用品センター	6
73	株式会社坪井花苑	愛知県名古屋市中区錦3-21-18	15
74	株式会社津松菱	三重県津市東丸之内4-10	1
75	ツムグ建築設計事務所	三重県三重郡朝日町大字柿2988	1~3
76	東京システムズ株式会社	東京都渋谷区恵比寿1-18-18東急不動産恵比寿ビル9F	2
77	東春信用金庫	愛知県小牧市中央1-231-1	2
78	豊川信用金庫	愛知県豊川市末広通3-34-1	5
79	トヨタL&F中部株式会社	愛知県名古屋市中区昭和区高辻町6-8ATG南館4F	1~2
80	トヨタカローラ愛知株式会社	愛知県名古屋市中区西区則武新町3-9-8	2
81	トヨタカローラ名古屋株式会社	愛知県名古屋市中区松原1-6-2	1
82	トヨタカローラ三重株式会社	三重県四日市市北浜田町10-3	10
83	豊田市コンサートホール・能楽堂	愛知県豊田市西町1-200	3
84	豊田市青少年センター	愛知県豊田市西町1-200	20
85	トヨタモビリティ東名古屋株式会社	愛知県名古屋市中区葵1-27-29クリックスビル7F	2
86	株式会社トヨタレンタリース愛知	愛知県名古屋市中区昭和区高辻町6-8	2
87	内藤建設株式会社	岐阜県岐阜市六条南3-10-10	3
88	中尾建設工業株式会社	愛知県安城市安城町社口堂75	1
89	株式会社ナカノフドー建設	東京都千代田区九段北4-2-28	3
90	中村建設株式会社	静岡県浜松市中区中沢町71-23	2

No.	企業名	本社住所	本学受入人数
91	株式会社ナカモサルート	愛知県名古屋市中村区名駅2-35-24ホテルサルートプラザ名古屋	1
92	名古屋ガーデンパレス	愛知県名古屋市中区錦3-11-13	1
93	名古屋市鶴舞中央図書館	愛知県名古屋市中区鶴舞1-1-155	2
94	公益財団法人名古屋市文化振興事業団	愛知県名古屋市中区栄3-18-1ナディアパーク 8階	2
95	名古屋電機工業株式会社	愛知県あま市篠田面徳29-1	2
96	社会福祉法人名古屋ライトハウス	愛知県名古屋市中区川名本町1-2	4
97	なも介護サポート有限会社	愛知県津島市南本町2-1	7
98	日本貨物鉄道株式会社 東海支社	東京都渋谷区千駄ヶ谷5-33-8サウスゲート新宿	1~2
99	日本ハウズイング株式会社	東京都新宿区新宿1-31-12	1
100	ネットヨタノヴェル三重株式会社	三重県四日市市十七軒町3-18	2
101	株式会社ネットコム	愛知県豊橋市問屋町26-1	3
102	社会福祉法人野並福祉会 堀田デイサービスセンター	愛知県名古屋市長穂区堀田通5-6-1	6
103	野村證券株式会社 名古屋支店	東京都中央区日本橋1-13-1	2
104	株式会社バウハウス丸栄	岐阜県羽島郡岐南町上印食5-82	2
105	株式会社橋本組	静岡県焼津市栄町5-9-3	2
106	株式会社パッション	愛知県春日井市味美町2-122	3
107	学校法人服部学園	愛知県岡崎市羽根東町1-2-1YAMASA IIビル	3
108	一般社団法人半田市医師会 健康管理センター	愛知県半田市神田町1-1	8
109	半田信用金庫	愛知県半田市御幸町8	4
110	株式会社ピコ・ナレッジ	愛知県名古屋市中村区名駅南1-19-29	2
111	尾西信用金庫	愛知県一宮市籠屋1-4-3	2
112	株式会社ひまわり	岐阜県岐阜市西改田村前104-1	10
113	平林総合事務所	愛知県名古屋市中区千種区池下町2-37-2	1
114	株式会社ファーストフーズ名古屋	愛知県小牧市本庄白池811-1	2
115	株式会社ファミリー	岐阜県可児市瀬田430-1	2
116	扶桑町役場	愛知県丹羽郡扶桑町高雄天道330	2
117	株式会社フューレックス	愛知県名古屋市中区丸の内3-16-29新東通信ビル5階	4
118	株式会社ブライダルハウス・チュチュ	北海道札幌市中央区南1条西28-1-3TUTUビル	4
119	防衛省自衛隊 愛知地方協力本部	愛知県名古屋市中川区松重町3-41	5
120	株式会社ホーポーズ	愛知県名古屋市中区千代田1-10-16ネスパルド・イヴ2A	4
121	株式会社ポカラ	愛知県長久手市市が洞2-1202	2
122	社会福祉法人ポレポレ	愛知県日進市五色園3-509	14
123	株式会社ホホワイトハウス	愛知県名古屋市中区本郷3-139ホワイトハウスビル2F	15
124	株式会社本陣平野屋	岐阜県高山市本町1-34	5
125	株式会社ホンダカーズ岐阜	岐阜県羽島郡岐南町上印食7-1	1
126	株式会社マイナビ	東京都千代田区一ツ橋1-1-1パレスサイドビル9階	3
127	株式会社マルワ	愛知県名古屋市中区平針4-211	1
128	三重県立鈴鹿青少年センター	三重県鈴鹿市住吉町南谷口	5
129	道の駅 立田ふれあいの里	愛知県愛西市森川町井桁西27	1
130	株式会社ミニミニ 中部本部	東京都千代田区丸の内1-8-3	1
131	株式会社麦の穂	大阪府大阪市北区西天満3-13-20ASビル2F	10
132	株式会社メイコン	愛知県小牧市大字三ツ瀨950	1
133	明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2-1-1	5
134	名進研ホールディングス株式会社	愛知県名古屋市中区名駅2-34-19	5
135	株式会社名大社	愛知県名古屋市中区栄2-3-1名古屋広小路ビルディング16F	1

No.	企業名	本社住所	本学受入人数
136	株式会社明和技術管理事務所	愛知県名古屋市熱田区神宮2-2-2	2
137	株式会社メタルヒート	愛知県安城市東栄町5-3-6	2
138	株式会社盛本構造設計事務所	愛知県岡崎市井田町1-8-1	6
139	株式会社山田組	愛知県名古屋市中川区戸田5-1213	4
140	株式会社ヤマダヤ	愛知県名古屋市中区城西1-3-1	6
141	ユタカコーポレーション株式会社	愛知県豊橋市中野町字平北1-5	1~2
142	社会福祉法人養楽福祉会	愛知県春日井市廻間町字神屋洞703-1	2
143	株式会社ラックランド	東京都新宿区西新宿3-18-20LUCKOFFICE	5
144	株式会社ラディアント	岐阜県大垣市禾森町6-25	10
145	株式会社ルネ	東京都渋谷区渋谷2-11-8大菅ビルディング 9F	3~5

椋山女学園大学客員教授に関する規程

平成14年規程第37号

平成14年11月29日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、椋山女学園大学（以下「本学」という。）の学術研究及び教育水準の向上を図ることを目的とし、特に優れた教育及び研究上の業績のある者又は特に高い社会的評価を得ている者を非常勤の職である客員教授として任用し、その待遇等について定める。

(具申)

第2条 客員教授を任用するときは、履歴書、雇用契約書案その他理事長が必要とする書類を添付し、学長から理事長に具申する。

(契約)

第3条 客員教授の任用に当たっては、任用の条件を文書に表示して、学園と本人が確認するものとする。

2 任用期間は1年以内とし、原則として3年を限度に更新することができる。

3 前項の規定にかかわらず、理事長が特に必要と認めた場合には、職種を問わず、最初に椋山女学園との間で雇用契約を締結した日から5年を超えない範囲で雇用期間を更新することができる。

(職務)

第4条 客員教授は、学長の管掌のもとに、次に定める職務の遂行にあたる。

(1) 研究科及び学部が開講する授業の担当

(2) 研究に関する業務

(3) 教材の開発に関する業務

(4) その他学長が指示する業務

2 客員教授は、大学の管理又は運営に関する業務を担当しない。

(所属)

第5条 客員教授の所属は、研究科及び学部とする。

(客員教授の処遇等)

第6条 客員教授の処遇は、次のとおりとする。

(1) 俸給は、別表のとおり支給する。

(2) 俸給の支給日及び支払い方法等は、契約書の定めによる。

(3) 期末手当及び退職金は、支給しない。

2 俸給の年額は、職歴、身分並びに教育及び研究上の業績に応じて、学長が理事長と協議して定める。

3 この規程に定めるもののほか、客員教授の服務、懲戒、給与その他の勤務条件については、本学の非常勤講師の例による。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、学長の意見を聞いて、理事会が行う。

附 則

この規程は、平成14年12月1日から施行する。

附 則（平成17年規程第1号）

この規程は、平成17年1月28日から施行する。

附 則（平成18年規程第1号）

この規程は、平成18年1月28日から施行する。

附 則（平成 21 年規程第 28 号）

この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 22 年規程第 4 号）

この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行し、平成 22 年 4 月 1 日以降の採用の人事の選考から適用する。

附 則（平成 25 年規程第 14 号）

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 28 年規程第 9 号）

この規程は、平成 28 年 3 月 18 日から施行する。

附 則（令和 2 年規程第 10 号）

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 4 年規程第 19 号）

この規程は、令和 4 年 9 月 30 日から施行する。

別表 客員教授の俸給

区分	対 象	金 額
1	専攻分野について極めて高度の知識又は経歴を持つ者であって、学長が特に必要と認める者	1,250,000円から7,250,000円まで（年額）
2	本学が委嘱する非常勤講師又は実務経験を有する者であって、学長が特に必要と認める者	100,000円から600,000円まで（年額）
3	その他学長が特に必要と認める者	無報酬

令和2年規程第11号

令和2年2月21日

(趣旨)

第1条 この規程は、椋山女学園大学（以下「本学」という。）の学術研究及び教育水準の向上を図ることを目的とし、特に優れた教育及び研究上の業績のある者又は特に高い社会的評価を得ている者を常勤の職である特命教授として任用し、その待遇等について定める。

(任用)

第2条 特命教授の任用は、学校法人椋山女学園就業規則（昭和52年規程第1号）第5条第1号の規定に基づくものとする。

2 本学の定年退職者は、理事長が学長の意見を聞いて特に任用を必要とする場合を除き、特命教授に任用しない。

(兼職の制限)

第3条 特命教授は、原則として本学以外の職を本務としてはならない。

(契約)

第4条 特命教授の任用に当たっては、任用の条件を文書に表示して、学園と本人が確認するものとする。

2 任用期間は1年以内とし、原則として3年を限度に更新することができる。ただし、満70歳未満の特命教授を任用する場合において、特に必要があると認められるときは、理事長が学長の意見を聞いて、その任用期間等を定めることができる。

3 前項本文の規定にかかわらず、理事長が特に必要と認めた場合には、職種を問わず、最初に椋山女学園との間で雇用契約を締結した日から5年を超えない範囲で雇用期間を更新することができる。

(職務)

第5条 特命教授は、学長の管掌のもとに、次に定める職務の遂行にあたる。

- (1) 研究科及び学部が開講する授業の担当
- (2) 研究に関する業務
- (3) 教材の開発に関する業務
- (4) その他学長が指示する業務

2 特命教授は、大学の管理又は運営に関する業務を担当しない。ただし、学長が必要であると認める場合は、この限りではない。

(授業責任担当時間)

第6条 特命教授は、原則として週当たり6コマ以上の授業を担当するものとする。

(所属)

第7条 特命教授の所属は、研究科及び学部とする。

(特命教授の処遇等)

第8条 特命教授の処遇は、次のとおりとする。

- (1) 俸給は、年俸制とし、別表の年額を12等分して毎月支払う。
- (2) 諸手当は、期末手当を除く手当を支給する。
- (3) 給与の支給日及び支払い方法は、本学の専任教育職員の例による。
- (4) 月の途中で採用又は退職した場合の当該月の給与は、発令の日を基準として日割り計算で支給する。
- (5) 退職金は支給しない。
- (6) 赴任交通費は、原則として支給しない。
- (7) 宿舍の提供は、原則として行わない。

- 2 俸給は、職歴、身分並びに教育及び研究上の業績に応じて、学長が理事長と協議して定める。ただし、職務の性質その他により、この規定によっては、職員の採用が著しく困難であると認められるとき又はこれに準ずる事由があるときは、部内の他の職員との均衡を不当に失しない程度において別表の規定によらないで俸給を支給することができる。
- 3 この規程に定めるもののほか、特命教授の任用、服務、給与その他の勤務条件については、本学の専任教育職員の例による。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、学長の意見を聞いて、理事会が行う。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

別表

区分	金 額
1	4, 8 0 0, 0 0 0円
2	6, 0 0 0, 0 0 0円
3	7, 5 0 0, 0 0 0円

2022年度 国際コミュニケーション学部 教室使用状況(前期)

教室	席数	木					金				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
010	150		アメリカ文化論 水島		アメリカの種族問題 水島		クロスカルチュラル・スタディーズ 伊	ドイツ語(Ⅰ)A(1) 橋本亜			
108	90	1日本語教育方法論A 小原	日本語教材・教具研究 A 小原		日本語教育実践論			2万葉歌人論 大浦	2ドイツ語圏文化論 大塚		
204											
205	30						国際比較研究ⅠA 水島	Academic English(Ⅱ)A(ZB)マクニール	Academic English(Ⅱ)A(ZA)マクニール		
206	200		歴史 伊藤	エンターテインメント概論 小林貞	2児童文学 服部				2アニメ・マンガ文化論 広瀬		
316	24										
317	48				3表現・コミュニケーション研究ⅠA 長澤			実践ドイツ語(初級)ルメ	表現・コミュニケーション研究ⅡA 長澤	4卒業論文 長澤	
414	18										
415	63		外国語(ドイツ語Ⅰ)(国際) 鈴木	国際比較文化研究ⅠA 鈴木				ドイツ語(Ⅱ)A(3) 鈴木	2詩歌創作(習作) 太田昌		
416	80		2都市とジェンダー 影山			近現代日本文学読解A 水川		フランス語(Ⅲ)A(1) ショタン			
417	120	博物館概論(1) 見田	非言語コミュニケーション論 笠原	3英語科の指導法Ⅲ 松井	1数理の世界 吉本	2特別活動の指導法 2総合的な学習の時間の指導法 山田	日記文学 高橋	人間論	人間論		
418	120		English for Tourism マローニ				2ライフヒストリー 塚田	人間論	人間論		
419	43										
420	50		表現・コミュニケーション研究ⅡA 深谷		2資格フランス語(初級) 中島潤		4国際比較文化研究ⅡA 笠原	4卒業論文 笠原	表現コミュニケーション研究ⅠB 田所		
421	60		1スポーツ実習A 小澤	1スポーツ実習B 小澤	4卒業論文 深谷		表現・コミュニケーション研究ⅡA 伊藤	卒業論文 伊藤	4卒業論文 鈴木		
501	60			実践中国語(基礎) フスレン				1フランス語(Ⅲ)A(4) 田所シ	2フランス語(V)A(2) シルワイ		
502	60		源氏物語精読 高橋		2マンガ創作(習作) 浅川			1フランス語(Ⅱ)A(3) 西村和	フランス語(Ⅳ)A(1) 太田康		
503	35			総合フランス語A 小林久							
504	25		Communicative English(Ⅳ)A(XZ)ストックウェル	Communicative English(Ⅳ)A(XN)ストックウェル			Communicative English(V)A(1)ストックウェル	Pre-Academic English(Ⅲ)A(YA)ストックウェル			
505	24			3表現・コミュニケーション研究ⅠA 高橋麻			3国際比較文化研究ⅠA 鈴木				
506	15										
507	66		TOEIC700(Ⅱ)A 塚田					1フランス語(Ⅱ)A(2) 田所光			
508	77		外国語(英語A)(国際) 横家				4表現・コミュニケーション研究ⅡA 広瀬	卒業論文 広瀬			
509	256	方言論 山田	1文学 長澤		西洋美術史 桑原	教養	スポーツ文化論小澤	人間論	人間論		
510	35										
511	40						Communicative English(V)A(3)ジョンズ	Communicative English(V)A(XZ)ジョンズ	2Pre-Academic English(Ⅲ)A(YC) デイチエロ	Pre-Academic English(Ⅲ)A(YE)デイチエロ	
512	40			Communicative English(Ⅳ)A(XE)マローニ	Communicative English(Ⅳ)A(XL)マローニ		Communicative English(V)A(2)ポッティンジャー	Communicative English(V)A(XX)ポッティンジャー			
513	123		西洋演劇論 藤岡	アメリカ社会の諸問題 塚田	1英語圏留学事情 横家	外国語(中国語Ⅰ)(国際) 張	外国語(中国語Ⅰ)(国際) 張	1外国語(フランス語Ⅰ) 太田			
514	42		Communicative English(Ⅳ)A(XX)フロードビー	Communicative English(Ⅳ)A(XS)フロードビー		Communicative English(V)A(4) レレイト	Communicative English(V)A(XY)レレイト	ドイツ語(Ⅲ)A(2)ルメ	2ドイツ語(V)A(1) ルメ		
515	36	Active English B(2) Rummel	Communicative English(Ⅳ)A(XY)モリシ	Communicative English(Ⅳ)A(XG)モリシ	Communicative English(Ⅳ)A(XI)デイチエロ	Communicative English(V)A(5)	Communicative English(V)A(6)デイチエロ	Pre-Academic English(Ⅲ)A(YD)マローニ	Pre-Academic English(Ⅲ)A(YB)マローニ		
203	40			2コンピュータ利用の英語研究 深谷	1コンピュータと情報Ⅰ 唐澤						
		博物館概論(1)(星が丘) 横家119		生涯学習論(日進) 河野 人5-207		2博物館概論(2) 見田 2001			2広告論(国コミ「広告プロデュース」) 江草 2127	1コンピュータと情報Ⅰ 島居 2325	
						2博物館情報・メディア論 宮下 2334・2335			2広告制作(国コミ「広告プロデュース」) 江草 2127		

2022年度 国際コミュニケーション学部 教室使用状況(後期)

教室	座席数	月					火					水					
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
010	150				ギリシア哲学 米山			ドイツ語圏事情(基礎) 神谷					English Literature 戸田	2英語圏文学を読むA 藤岡78	応用言語学 児玉		
108	90		物理の世界(国際)永峰	2英語科の指導法Ⅱ 児玉	英語音声学 深谷 75		1法 榎本 43						Linguistics 芝垣	2TOEIC500B 加藤佳55	2TOEIC700(I)B 加藤佳17		
203	40	1コンピュータと情報Ⅱ 神谷 43	1コンピュータと情報Ⅱ 神谷 43					2実践フランス語(中級) ショタン10									
204																	
205	30														4表現・コミュニケーション研究ⅡB 水島	卒業論文 水島	
206	200		ノンセンス文学 尹	2ポップアート論 山本 93	フランス語圏文学を読む 田所		言語 深谷 132	女性学 中島美	2アメリカ史 西川 72				3レトリカル・コミュニケーション論 笠原 54	時事問題の理解(教育)			
316	24																
317	48	卒業論文 田所	表現・コミュニケーション研究ⅡB 田所		国際比較文化研究ⅠB 児玉			ドイツ語(Ⅰ)B(3) 鈴木				Pre-Academic English(Ⅱ)B(YA) フロードビー	2Pre-Academic English(Ⅱ)B(YE) フロードビー 13	3国際比較文化研究ⅠB 笠原			
414	18													3国際比較文化研究ⅠB 戸田	4国際比較文化研究ⅡB 戸田	4卒業論文 戸田	
415	63		表現・コミュニケーション研究ⅡB村井		翻訳言語論 尹	4卒業論文 村井		表現・コミュニケーション研究ⅠB村井		Communicative English(Ⅱ)B(XY)マローニ			3国際比較文化研究ⅠB 小澤	4国際比較文化研究ⅡB 小澤	4卒業論文 小澤	4教職実践演習(中・高)児玉	
416	80			2総合ドイツ語B 山村 12	1外国語(ドイツ語Ⅱ) 山村 9			ドイツ語(Ⅲ)B(1)ルメ					2ローカル・エリア・スタディーズ 影山24	ドイツ語(Ⅳ)B(1)橋本亜	卒業論文 芝垣		
417	120			2TOEIC600(Ⅰ)B 宮崎 28	現代音楽論 宮崎			2日本文学史 高橋麻 49		国語科の指導法Ⅱ 奥田		社会言語学 芝垣67	国際社会論 小林	Academic Writing & Presentation B 児玉8			
418	120			日本語の歴史B 村井	日本語学概論B 村井		特別活動の指導法 山田	1文化人類学 影山 71					英語学の歴史 長澤 58	Active English C(1)マローニ	2TOEIC上級B 塚田 2		
419	43												Communicative English(Ⅲ)B(XE) マクニール	Communicative English(Ⅲ)B(XS) マクニール			
420	50							3表現・コミュニケーション研究ⅠB 深谷		フランス語(Ⅲ)B(3) ショタン			Communicative English(Ⅲ)B(XN) マローニ	国際比較文化研究ⅡB 塚田	表現・コミュニケーション研究ⅠB小林	表現・コミュニケーション研究ⅡB小林か	卒業論文 小林か
421	60		国語科の指導法Ⅳ広瀬		図書館 3表現・コミュニケーション研究ⅠB 伊藤			フランス語(Ⅰ)B(4) 加藤晴		2資格ドイツ語(中級) 中村真36		2小説創作(発展) 堀田 24	2エッセイ創作(発展) 堀田7	3国際比較文化研究ⅠB 影山	4国際比較文化研究ⅡB 影山	卒業論文 影山	
501	60		表現・コミュニケーション研究ⅠB 横家 14	卒論 横家	表現・コミュニケーション研究ⅡB 横家 14			フランス語(Ⅰ)B(2) 田所シルヴィクロード					2シナリオ創作 佃 22	2フランス語(V)B(1) 田所シ14	2フランス語(Ⅰ)B(3) 田所シ		
502	60												3国際比較文化研究ⅠB 藤岡	比較文化論 尹	4国際比較文化研究ⅡB 藤岡	4卒業論文 藤岡	
503	35		2Pre-Academic English(Ⅰ)B(YD) クラーク 18	Communicative English(Ⅰ)B(XE) クラーク 20	Communicative English(Ⅰ)B(XS)クラーク			1フランス語(Ⅰ)B(4) 小林久27						2フランス語(Ⅳ)B(2) 小林久16	1フランス語(Ⅱ)B(4) 小林久		
504	25			Communicative English(Ⅰ)B(XG) ストックウエル 20										Academic English(Ⅰ)B(ZA) ストックウエル15	Academic English(Ⅰ)B(ZB)ストックウエル		
505	24	堀田 卒論	4表現・コミュニケーション研究ⅡB 堀田					表現・コミュニケーション研究ⅠB 堀田									
506	15																
507	66			Pre-Academic English(Ⅰ)B(YC)ヒスロップ	Pre-Academic English(Ⅰ)B(YA)ヒスロップ				3通訳(英語)B 前田10				2ドイツ語読解 中村実 15	1外国語(ドイツ語Ⅱ) 今井田	4卒業論文 塚田	1フランス語(Ⅲ)B(2) ショタン	卒業論文 加藤泰
508	77		英語における女性語 池		表現・コミュニケーション研究ⅠB 広瀬			2翻訳(英語)B 前田23	1外国語(中国語Ⅱ) 張29				外国語(スペイン語Ⅱ) 加藤 宮下	表現・コミュニケーション研究ⅡB加藤	表現・コミュニケーション研究ⅡB加藤	1教職論 西口	
509	256		芸術(国際)寛	1日本文学史(現代) 広瀬 84	0教育制度と社会 松田	1教育制度と社会 松田	1心理 堀田 100	社会 横家 48					ライフデザイン(生活)	日本語表現法(文章表現)阿部	1環境の科学 藤森111		
510	35	表現・コミュニケーション研究ⅡB 高橋		卒論 高橋													
511	40			1Communicative English(Ⅰ)B(XY) ライアン18	Communicative English(Ⅰ)B(XI) ライアン15					Communicative English(Ⅱ)B(XZ) ルメ12	Communicative English(Ⅱ)B(XN) ルメ		Communicative English(Ⅲ)B(XY)チェロ	Communicative English(Ⅲ)B(XZ)チェロ		ドイツ語(Ⅰ)B(2)橋本悦	
512	40			Communicative English(Ⅰ)B(XX) レイト	Communicative English(Ⅰ)B(XL) レイト		国際比較文化研究ⅠB 尹	3表現・コミュニケーション研究ⅠB 芝垣		Communicative English(Ⅱ)B(XL)チェロ	Communicative English(Ⅱ)B(XX) ディチェロ		Communicative English(Ⅲ)B(XG) レイト12	Communicative English(Ⅲ)B(XI) レイト 20	国際比較文化研究ⅡB 芝垣	ドイツ語(Ⅲ)B(3)ルメ	
513	123		西洋哲学史 加藤泰 70	現代思想 加藤泰 加藤	西洋古典作品論 加藤								ファッション論 岩田	Pre-Academic English(Ⅱ)B(YB)ジョンズ		1フランス語(Ⅱ)B(1) 中島潤	
514	42			Communicative English(Ⅰ)B(XN) フロードビー 20	Communicative English(Ⅰ)B(XZ) フロードビー12					Communicative English(Ⅱ)B(XI)フロードビー 19	Communicative English(Ⅱ)B(XG)フロードビー		Pre-Academic English(Ⅱ)B(YD) ルメ	Pre-Academic English(Ⅱ)B(YC)ルメ		ドイツ語(Ⅱ)B(1)橋本亜	
515	36		Pre-Academic English(Ⅰ)B(YB)モリシユ	Pre-Academic English(Ⅰ)B(YE)モリシユ 20				ドイツ語(Ⅱ)B(2)中村 モリシユ 20		Communicative English(Ⅱ)B(XS) モリシユ 20	Communicative English(Ⅱ)B(XE) モリシユ 11		Communicative English(Ⅲ)B(XX) モリシユ 12	Communicative English(Ⅲ)B(XL) モリシユ 20			
		1書写・書道B 庄田 教育A303 27	1書写・書道B 庄田 教育A303	2アメリカ文化論 水島						4博物館実習 五百部・見田・宮下・宮里 情505	4博物館実習 五百部・見田・宮下・宮里 情505	3生涯学習各論(2) 木見尻 ×001	2博物館資料論(1) 見田 情505	2マスメディア論(国コミ「現代マスコミ論」) 脇田 ×127			
		2博物館教育論(日進) 洞谷 人2-201								3生徒指導と進路指導 加藤純 情503	3生涯学習各論(1) 木見尻 ×001						
										設置の趣旨(資料)							

2022年度 国際コミュニケーション学部 教室使用状況(後期)

教室	席数	木					金				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
固定机講義室	010	150	12号文化論 水島(フィルムフェスティバル)	2女性文学(海外) 藤岡(フィルムフェスティバル)73	1エスニック・スタディーズ 水島(フィルムフェスティバル)78	フィルムフェスティバル	女性文学(日本) 水川		2スクリーンと文学 戸田78	1文学 戸田77	
教室講義室	108	90	1日本語教育方法論B 小原45	1地球の科学 永峰45	1地球の科学 永峰45				1ドイツ語(I)B(1) 橋本重	2近現代日本文学読解 B 広瀬	
パソコン室	203	40	1コンピュータと情報Ⅱ 福安	1コンピュータと情報Ⅱ 竹治	1コンピュータと情報Ⅱ 竹治						
	204										
こ座演習室	205	30						国際比較文化研究Ⅱ 水島	Academic English(Ⅱ)B(2B)マクニール	Academic English(Ⅱ)B(2A)マクニール	
固定講義室	206	200	2ヨーロッパ史 神谷	1日本文学史(中世・近世) 伊藤81	エンターテインメント文化論 小林貞107	1論理学 米山34		ライブデザイン 加藤	異文化コミュニケーション論 高井	コミュニケーション論 高井90	
こ座演習室	316	24									
教室講義室	317	48			3Introduction to Social & Cultural Studies 塚田6	3表現・コミュニケーション研究ⅠB 長澤		実践ドイツ語(中級)ルメ	表現・コミュニケーション研究ⅡB 長澤	4卒業論文 長澤	
1座演習室	414	18									
教室講義室	415	63	外国語(英語B)(国際) 横家	Active EnglishB 見玉	ドキュメント制作横家				1ドイツ語(Ⅱ)B(3) 鈴木	2詩歌創作(発展) 太田	1海外英語演習B 深谷
教室講義室	416	80	1パフォーマンス・アーツ論 藤岡24	日本語教材・教具研究B 小原34	1加ルチャル・ステイーズ 芝垣				1外国語(フランス語Ⅱ) 太田	2フランス語(Ⅳ)B(1) 太田	
教室講義室	417	120	2文学の理論 長澤57	日本語表現法基礎	英語で読む日本文学 見玉	2カリキュラム論 東岡	アジア映画論 伊		TOEIC600(B) 宮崎		
教室講義室	418	120	日本語表現法(文章表現)村井	日本語表現法(文章表現)村井	Communication in Businessプロードビー	English through Cinema 三ツ井	特別活動の指導法 山田		外国語(中国語Ⅱ) 柯	外国語(中国語Ⅱ) 柯	
教室講義室	419	43									
教室講義室	420	50	4表現・コミュニケーション研究ⅡB 深谷	英語科の指導法Ⅳ松井	2資格フランス語(中級) 中島潤		4国際比較文化研究ⅡB 笠原	4卒業論文 笠原	表現・コミュニケーション研究ⅠB田所		
教室講義室	421	60	2道徳の理論及び指導法 蛭川16	卒業論文 深谷			4表現・コミュニケーション研究ⅡB 伊藤	1フランス語(Ⅲ)B(1) ショタン	4卒業論文 鈴木		
教室講義室	501	60		実践中国語(中級) 胡斯務14				1フランス語(Ⅱ)B(3) 西村和			
教室講義室	502	60						1フランス語(Ⅲ)B(4) 田所シ	2フランス語(V)B(2) 田所シ		
こ座演習室	503	35		総合フランス語B 小林久							
こ座演習室	504	25		Communicative English(Ⅳ)B(XZ) ストックウェル	Communicative English(Ⅳ)B(XN) ストックウェル		Communicative English(V)B(1) ストックウェル		Pre-Academic English(Ⅲ)B(YA)ストックウェル		
こ座演習室	505	24			3表現・コミュニケーション研究ⅠB 高橋麻			国際比較文化研究ⅡB 鈴木			
こ座演習室	506	15									
教室講義室	507	66	TOEIC700(Ⅱ)B塚田		Principles of Intercultural Communication 下		1外国語(中国語Ⅱ) 孫	1外国語(中国語Ⅱ) 孫39	1フランス語(Ⅱ)B(2) 田所光	1特別支援教育(国際) 松村	
教室講義室	508	77	源氏物語精読 高橋麻41					4表現・コミュニケーション研究ⅡB 広瀬	4卒業論文 広瀬		
教室講義室	509	256	1人類学 西村	1スポーツ実習B 小澤(水島先生移動先)	1スポーツ実習A 小澤(藤岡先生移動先)	水島先生移動先		フランス語圏文化論 奥田→教養で使用	2アラン・カフ・カルチャー 小澤155		
教室講義室	510	35		4卒業論文 影山							
こ座演習室	511	40					1Communicative English(V)B(3) ショーンズ	Communicative English(V)B(XZ)ショーンズ	Pre-Academic English(Ⅲ)B(YC)ディチェロ	Pre-Academic English(Ⅲ)B(YE)ディチェロ	
こ座演習室	512	40		Communicative English(Ⅳ)B(XE) マローニ	Communicative English(Ⅳ)B(XL) マローニ		1Communicative English(V)B(2) ホフティンジャー	Communicative English(V)B(XX) ホフティンジャー	ドイツ語(Ⅲ)B(2)ルメ	2ドイツ語(V)B(1) ルメ	
固定講義室	513	124	2ドイツ語圏事情(発展) 神谷45	時事英語(Current English) ディチェロ27	哲学 小野木59			1和歌文学 高橋麻62		経済(国際) 都築	
こ座演習室	514	42		Communicative English(Ⅳ)B(XX) プロードビー	国際比較文化研究ⅠB 鈴木		Communicative English(V)B(4)レレイト	Communicative English(V)B(XY) レレイト			
こ座演習室	515	36		Communicative English(Ⅳ)B(XY) モリシユ	Communicative English(Ⅳ)B(XG) モリシユ	Communicative English(Ⅳ)B(XI) 三井	Communicative English(V)B(5)マローニ	Communicative English(V)B(6) ディチェロ	Pre-Academic English(Ⅲ)B(YD) マローニ	Pre-Academic English(Ⅲ)B(YB)	
			2博物館資料論(2) 見田 情505		2博物館経営論(日進) 高野 人2-203	2博物館資料論(日進) 高野 人2-203	2博物館資料保存論 朝日 情501				
			2教育の方法と技術 坂本 教育D313		世界の宗教 内藤 Sprit	日英語会話分析 深谷 D402					